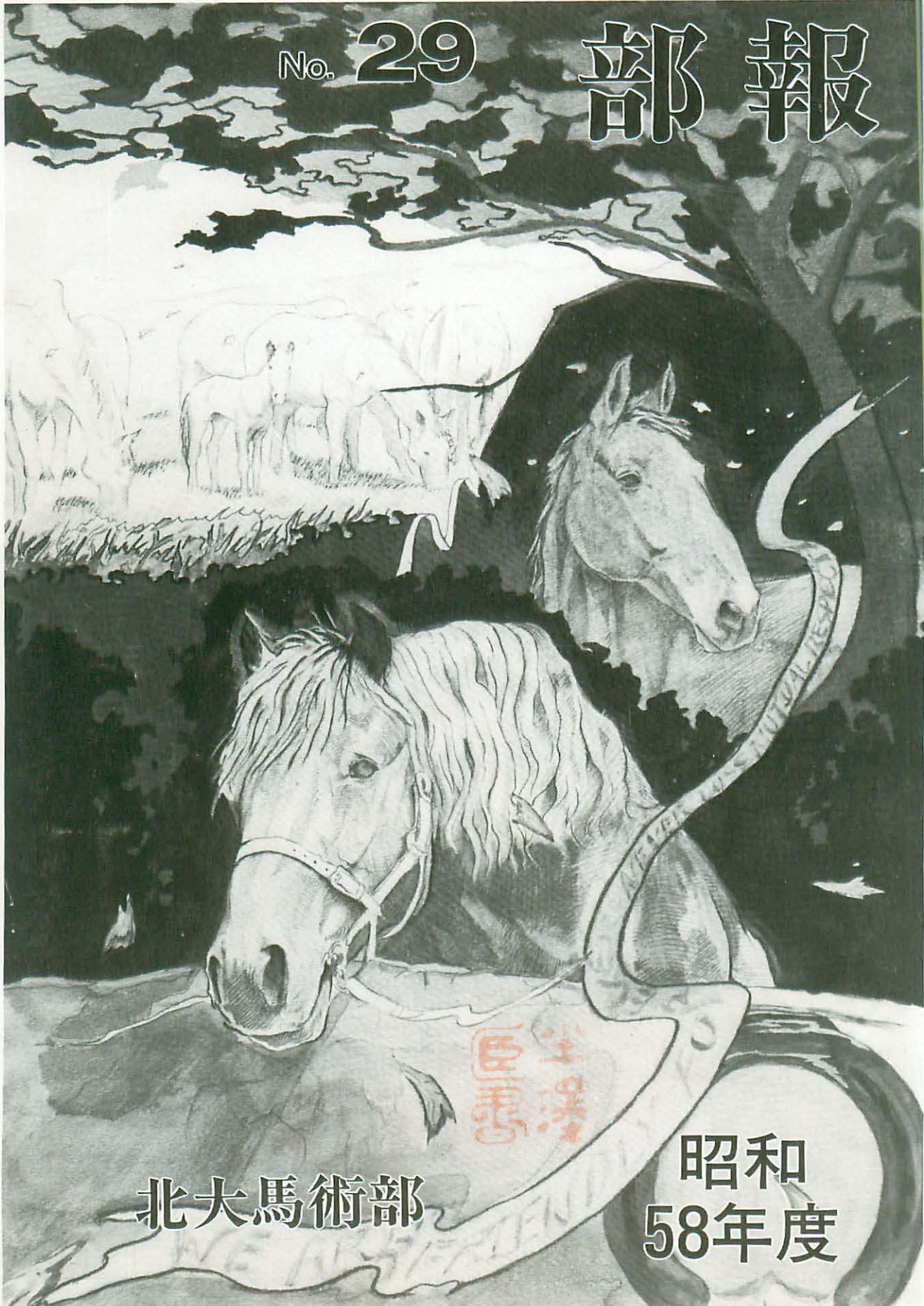


No. 29

報部



北大馬術部

昭和
58年度

北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎

作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかーる
 しろがねのえんざん ゆめほうほうたり
 たからかにいまぞいななけわれ
 らしんめのほまれあり
 ほまれあり ほく だい ほく だい お
 おわがほこう われらしんめの
 ほまれあり

北大馬術部讃歌

- 一、春来たれば、大地光る
 銀の遠山 夢茫々たり
 高らかに 今ぞ嘶け！
 われら駿馬のほまれあり
 - 二、時来たれば 旗をかざせ
 青雲の旅路に 意気軒昂たり
 高らかに 今ぞ嘶け！
 われら駿馬のほまれあり
 - 三、雲流れて 旅路遙か
 青春の孤杖 泥濘はばめど
 凜然と 進みて行かむ
 駿馬のほまれあるかぎり
- 北大！ 北大 お、我が母校
 われら駿馬のほまれあり



風の口笛が遠ざかるとき

君の胸の鼓動が僕の心をゆさぶる

青草の滑走路

メロスとイカロスは今翔びたつ

いっしよに駆けよう

そうさ僕たちには

金色に輝く翼があるのだから

君と僕は信じたのさ

きつと二人をつつんでくれる

栄光という名の熱い汗を



海だ

ほら見てごらん

白い飛沫がはち切れて

真珠が君のたてがみを飾る


さあ踊ろう

遙々とした青い海のじゅうたんの上で

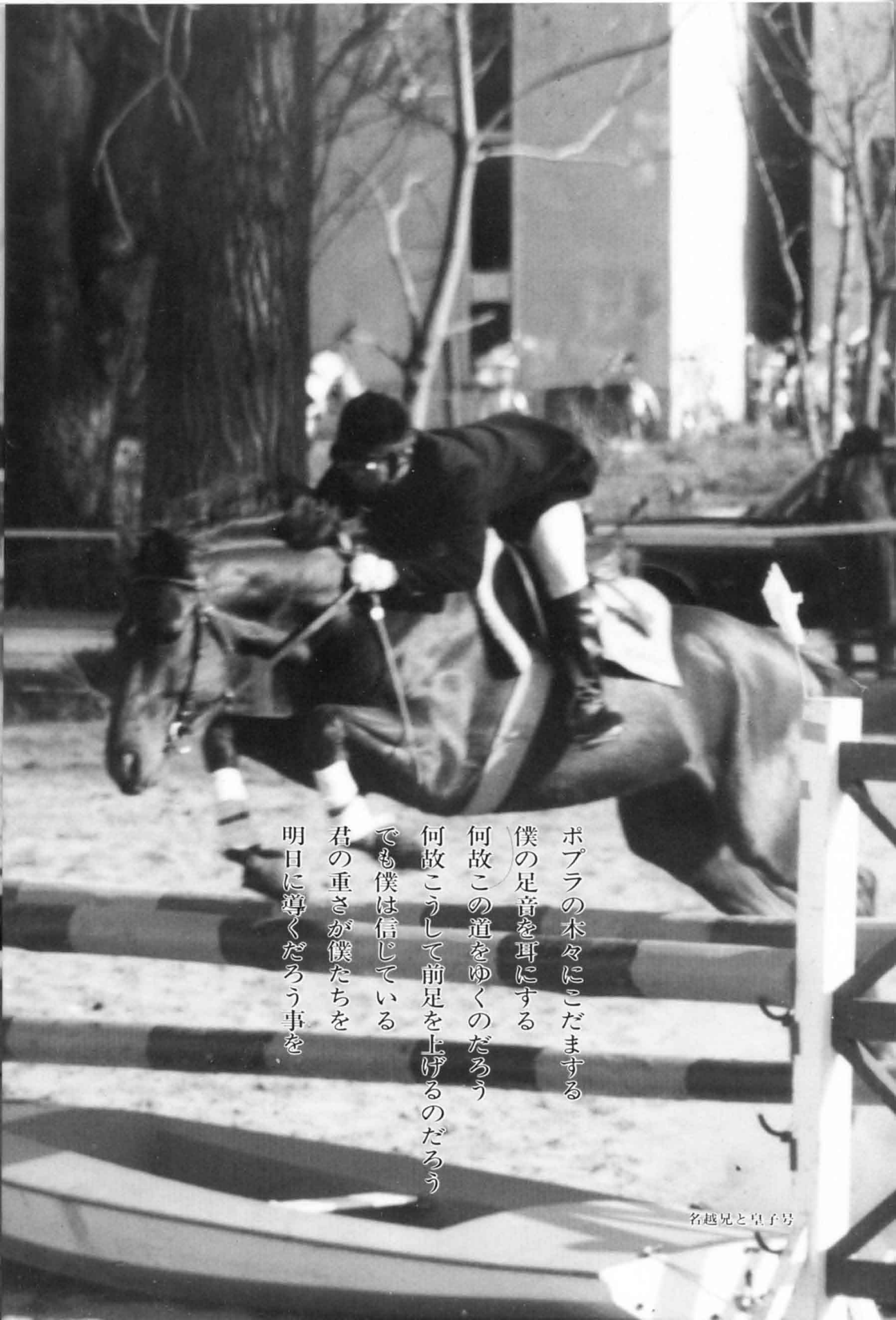
そして透明な波のプリズムに

魂の光をあてよう

きつと虹の夢が水平線にとどくだろう



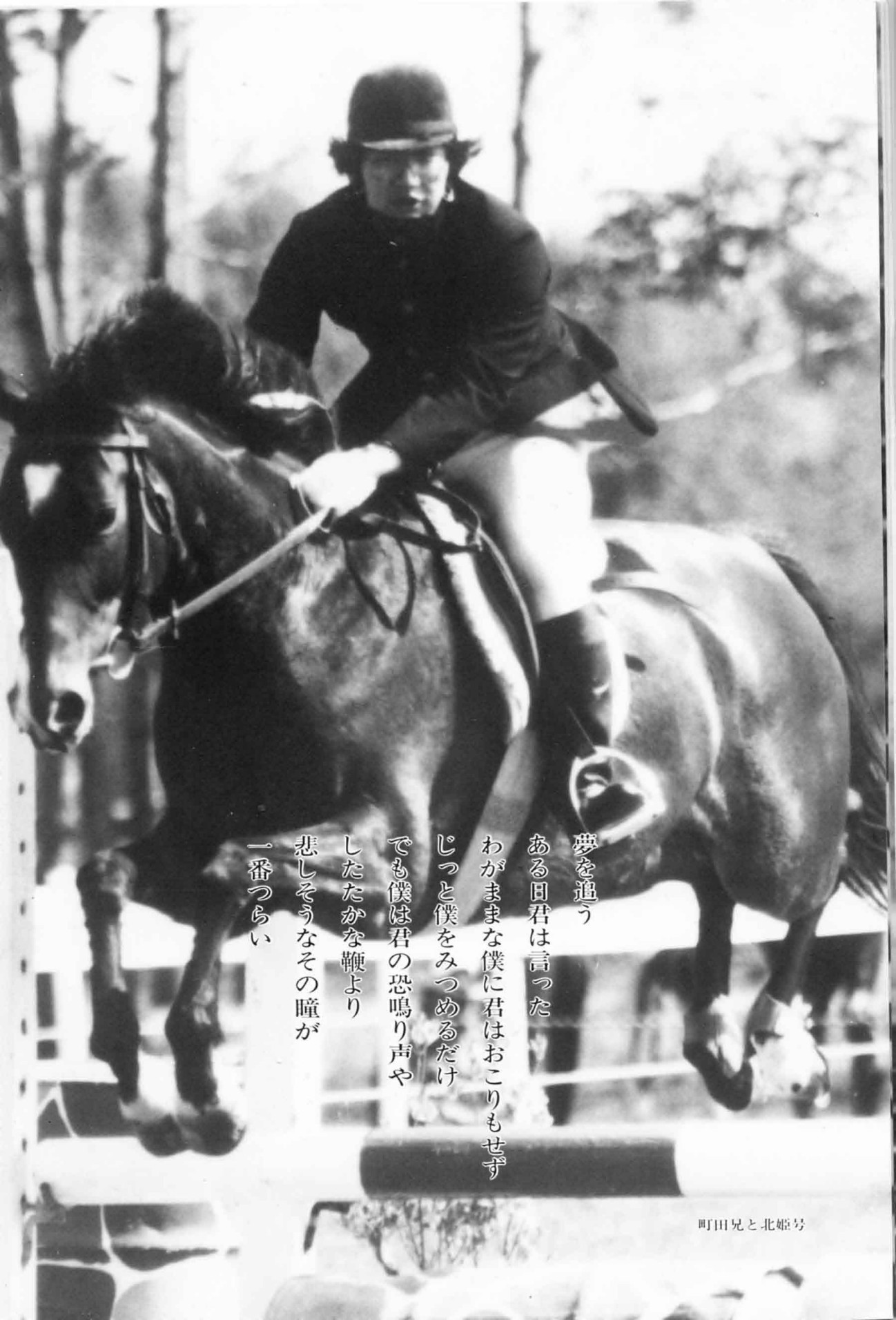
君はいたいとか苦しいとか
言葉に出しては言ってくれない
ごめんね
でも僕はいつも心のアンテナで
君のハートをつかもうと
そつとつぶらな瞳をみつめる



ポプラの木々にこだまする
僕の足音を耳にする
何故この道をゆくのだろう
何故こうして前足を上げるのだろう
でも僕は信じている
君の重さが僕たちを
明日に導くだろう事を



蕭々と降る雨の中に
僕は足をそろえてじつとたたずむ
風邪をひくのはへっちゃら
僕が何よりこわいのは
君がこのままどこかへ
消えてしまうこと
愛することに疲労れた
君のまなざし



夢を追う

ある日君は言った

わがままな僕に君はおこりもせず

じっと僕をみつめるだけ

でも僕は君の恐鳴り声や

したたかな鞭より

悲しそうなその瞳が

一番つらい

目 次

巻 頭 言	部 長 小池 寿男	1
何故馬を動かそうとしないのか	監 督 岡田 光夫	2
The Morgan Horse	第6代 部 長 半澤 道郎	3
前主将から	高須 哲男	6
役 員 報 告		
主 将	平石 哲生	7
副 将	山田 和男	7
主 務	丹野 宏昭	7
馬 匹	国枝 由紀	8
飼 料	森田 敏	9
会 計	中川千夏子	9
副 務	下村 仁司・中村 康利	9
薬 品	嶋田 明美	10
作 業	平山 復志	10
馬具・備品	谷山豊三郎・田中 保之	10
文 化	町田 憲司・久光 経司	10
記 録	小役九千加子	11
レ シ ー ト	半田 友子・福島 光絵	11
決 算 報 告	中川千夏子	12
昭和58年度行事報告		13
昭和58年度戦績報告		16
全日学観戦記	森田 敏	25
ALL JAPANを見て	久光 経司	27
馬匹紹介・調教報告		
スターライト号	国枝 由紀	28
ドンホッパー号	高須 哲男	31
北 姫 号	町田 雅人	35

北 将 号	世良 健司	36
北 雕 号	平石 哲生	40
北 皇 子 号	名越 正泰	41
北 耀 号	野中 道夫	42
北 紫 雲 号	平山 復志	45
烈々風号	佐藤 仁美・世良 健司	47
ノエル号	森田 敏	52
新馬紹介		
オオカリヒメ号	中川千夏子	54
北 冴 号		55
北 銀 (しろがね) 号		55
離 廐 報 告		
北 楽 院 号	上本 浩之	56
輝 魂 龍 号	丹野 宏昭	60
勇 勝 号		61
北大水産学部活動報告	上本 浩之	62
東京OB会便り		63
OBからの手紙		65
卒部にあって	佐藤 仁美	67
	世良 健司	67
	高須 哲男	68
	野中 道夫	69
	名越 正泰	70
自己紹介・他己紹介		73
北海道大学馬術部名簿		91

巻 頭 言

部長 小池 寿 男

恒例となっている札幌雪祭りも終わった。例年のない寒さのためか入出は昨年よりも少なかったようである。本州方面は二月になってから各地で例年のない雪害を被っているようであるが、札幌は幸あまり雪による害は目立たず、北海道では雪による死者はないようである。これは北国の常として雪とのつきあいが上手なのかも知れない。

今年度はシーズン開始の七帝戦の頃は競技成績もよく、例年になり好調の出足であったが、その後は本格的なシーズンになってから種々のトラブルもあって不本意な成績に終ってしまった。最近、ある馬の歴史書を読んでいると、「馬の家畜化は他の動物の家畜化とは異なり、牛などの如く人の食糧として主として搾取されるのを目的としたものでなく、犬と同じように生物学的共生、すなわち人間の仲間とみなされて家畜化したものである」と述べている文章に出合った。

このように、馬は犬と同じく、人類の最も身近な動物の一つとして飼われ、時には人の社会構造の中に深く組込まれていた場合もある。しかるにこの頃は他の肉用・乳用など人の食糧としての関係が浅いこともあって、他の家畜に比較して急激にその数が減じ、とくにわが国では盛時の二〇分の一以下にも減じてしまった。このため、馬を取扱う人も馬と人との体験的な身を以てする理解を得る機会が失なわれてしまった。したがって、乗馬などを趣味とする人も、かつて人類と馬とが互に体得して来たお互のつき合い方を忘れてしま

っている。

馬を自然状態で観察すると、その意思動作には個々の馬によって相当の差がある。そのためその動作は一見するとそれをあつかう人の意思に左右されているようにみえることも多い、しかし仔細に観察すると、馬自身の意思が相当に関与しているのが認められる。したがって、馬術競技などでは、この馬の意思と乗る人の意思がうまく通じあい、一致するかどうかのポイントとなる。このためには、もっと馬についての知識を身につけ、馬と上手につきあうコツを体得すべきである。馬を上手に御することは、馬の意思をたくみに自分の意思に転換させ、あたかも乗る人の意思が馬自身の意思で動作しているかの如くに思いこませてしまうまでに達すれば名人と云うことが出来よう。大学の四年間でそこまで望むことは不可能であるが、少くも馬に乗るのと自動車に乗るのは異り、意思のある乗物を御するのであると云うことを体得するように心掛けるべきである。このことは課外活動としての馬術部活動の一つの利点でもある。

(昭和五十九年二月)

何故馬を動かそうとしないのか

監督 岡田光夫

昨年の部報の名越君の文章を読ませてもらって大いに感銘を受けた。乗り方はどうあれ、騎手のいう通り馬が動けばよいのだ。と云い切っている。そして我が部の不調はすべて馬に対する人間の要求の甘さであって、馬達や乗り方に責任はないとも。全く同感である。表題とした何故馬を動かそうとしないのかと云う言葉を選んだのも北大として今一步の努力でもっとよい成績を得られると思うからである。今の練習を見ているといろいろのタイプの乗り方がある。何も考えずに漫然と馬に乗り、「巻乗り」の号令で馬が正確な円を踏もうが踏むまいがおかまいなしと云う放漫型・この中にはたゞ駈歩で馬場を無意味に走っていたり、障害をいくつもいくつも馬があきる程飛んでいる者も入る。この様に考えることなしに馬に乗っているたのは第一馬がよくならないし騎手も上達しない。又考えすぎのタイプと云うものもある。こうしたら馬が反抗しないか、こうしたら衝突が悪くならないか等に心配していたら結局馬に乗っていない事になりはしないか。

何故馬を動かそうとしないのか。何故思ったとおりの事をやって、その結果を反省し疑問が起きてきたら人の意見を聞くなり、自分なりに考えてやり方を変えて見ようと云う努力をしないのか？多くの人は疑問が起きてきた所でストップしてしまっていないか？スランプと云うのは何人も人間の調子の悪さだけを云っているのではない。馬乗りのスランプと云うものは人馬ともにあるのだと考えなければいけない。したがって他の競技とちがって人馬ともにそのスランプ

から抜け出さなければ進歩は望めない。この努力は他の競技の場合にくらべて人にとっては二倍以上の努力が必要であろう。従って馬の背中に居る間だけではなく、普段の生活をしながらでも頭の中にいろいろの場面を思い浮べ、それを翌日馬に乗った時やってみる位の努力がなくては学生生活四年と云っても正味二年半では、時間がなくなってしまう。卒部の時自分はやれるだけの事はやったと云う晴がましきを持ってほしい。うまく行った時は自分の技倆だと思いい下手に行った時には馬のせいにする。これでは人馬一体と云う言葉は生れてこない。馬と話しをしながら馬を動かす、馬も人に応えてそれなりの動きをする、そこに一日の練習のさわやかな思いとよい結果が生れてくるものである。反抗する馬には徹底的に立ち向い、負ける事はもう進歩はないものと考えよ。そうなったら馬の御気嫌をとって恐る恐る反抗されない様に乗るしかない。その様な馬に乗って今日は満足する様な動きだったと考える事は、馬が人間に自己満足を与え、一握りの麦でももらうためのゼスチャーだと考えよ。

西さんとウラヌスの間にも随分激しい斗争があったと聞いている。象の様にでかいウラヌス、半血馬特有のしっこき、生半可な扶助には従わないしたゝかき、これらがイタリヤの騎兵将校にウラヌスを手離させる原因となった。その馬を西さんが買取り、こゝに巨漢と巨象の斗いがはじまった。そして巨象が負けて西さんの云うなりに動く馬になった。そして輝しいオリンピック大障害優勝となった。えらそうな事を書いたが要するに馬を自由に動かす事が馬術の最大の要件で、その事に向ってあらゆる努力をかたむける、この事を部員諸君に強く強く訴えたい。部の馬はペットではない。ペットでもよいしつけを身につける為には相当の強い試練を受けなければならぬ。馬に於てはなおさらの事であろう。

The Morgan Horse

第六代部長 半澤道郎

Dressage & C.T. August 1982/Vol. 19 №8, P.28~30 by Lee Ferguson
という人が「The American Morgan Sport Horse」と題して記事と写真を載せ、アメリカで最も古い伝統を持つモルガン種が、最近四〇年の間に、中略(体高43~45Hands)で良質の体型、頑強な肢、温和な性質と万能型のスポーツ用馬として改めて評価され、英国やスウェーデンにも移入されて繁栄を迎えつつあることが述べられ、モルガンの品種血統について紹介されています。

私が何故モルガンに特別な興味と親しみを持って居るかと言うと、昭和四年(一九二九)頃、私は北大乗馬会に入り、なお札幌愛馬会の会員になって練習をして居りましたが、札幌愛馬会の厩舎に村井徳蔵という会員の預託馬に馬品・馬格の良い黒鹿毛のモルガンが繁殖され、二・三度乗せて頂いた。当時私はモルガンはアメリカ産トロッター的一种であると思っていて、何んな品種か、何時から日本に輸入されたか、品種改良に実際に利用されたか等について殆んど知りませんでした。昭和三十三年(一九五八)私は北大から交換教授として、一年間、University of Massachusetts, Amherst Mass. に留学しましたが、其の時に親しくモルガンに接する機会に恵まれたのです。

一九五八年の七月25~27日の三日間、アマストからバスで三〇分位の小さな街のNorthamptonにあるThree County Fair Ground (競馬走路と厩舎と Show Ring と観客スタンドを備えた品評会其の他の三郡共同の催しもの会場)で第十六回のNational Morgan Horse Show が開催された。私は共同研究者である Bennett 教授

に持病の貧血で休むと言って、三日間早朝から夕方まで Horse Show の会場に精勤して、写真を撮ったり、厩舎を廻ったり、審査会を見て本当に楽しい日を送り、モルガン種の素晴らしい姿や歩様、繋駕の走行等に魅せられ New England に住む人のモルガンに対する愛情を知りました。(切角楽しい三日間を無事に過ごして、教室に戻ったところ Horse Show の審査員が大学の畜産や獣医の教授であった為に仮病がバレて大変具合の悪い思いをしたことも貴重な思い出になりました。)

またその年の秋から翌春帰国するまでの半年、私共留学日本人団の世話をしてくれた教授の一人が、郊外の Pelham に小農園を持っていて奥さんと養鶏を主に、搾乳牛一頭と六才のモルガンの繁殖牝馬を一頭飼っていて、私にこの牝馬に乗ることを許してくれたので、土、日、二里位のところを自転車で通って乗せて貰った。先生と奥さんが自己流で乗って居たようで、馬術的調教は受けていなかった。Horse Show で見た様な歩様はできなかった。障害も低いのを飛ぶ位で、三種の歩様の伸縮も不十分であった。終り頃には可成り良い動きをするようになったので、ゆっくり調教すれば良い馬場馬になったと思う。性質も馬品もよい鹿毛の可愛い馬で、New York に出た時に Miller's の乗馬用具店に行って、太目の小勒銜や蹄油を買って帰ったり、クリスマスには綺麗な飾りを馬房に付けたり。お陰で半年を楽しく過ごすことができました。また彼女のお陰で先生の家や近所の馬に乗る娘さん達とも親しくして貰うことができました。

The National Morgan Horse Show のプログラムに History of The Morgan の記事が載っていたので、その大略を、昭和四十九年(一九七四)に創設された札幌愛馬会の会報の創刊号に寄稿しましたが、この稿の頭書の記事や、私の手元にある馬の本にある

モルガンの項を調べたので、部員諸君には余り興味が無いかもしれませんが、サラブレッドが三頭の種牡種に源を発しているように、モルガンは一頭の優性遺伝力の強い種牡馬から引き継がれた血統であることに非常に興味がありますので少し詳しく紹介することにします。

一七八九年にアメリカのMassachusetts州のSpringfieldの近くに住むJustin Morganという学校教師が、四二才の時にVermont州に引越した。彼は余り財産が無かったが、借金の返済に貰った四才の雄の子馬を持っていた。その名をFigureと呼んだ。モルガン氏は教師の他に農業をし、音楽家でもあり、乗馬家で少なくとも馬を見る目を持っていた。Figureは濃淡の無い濃い鹿毛で、たてがみと尾は黒く波打っていた。纏ったバランスの取れた頭丈で上品な体型で、短背で、強い短かい肢、丸味の胴と力強い後驅、力強い肩と美しい頭を持っていた。体高は14hands(1hand=4inch=10.16cm)で体重は360~400kg位の中等馬であった。終生蹄鉄を穿かされなかった。性質は従順で、競走精神が旺盛であった。騎乗速歩や繋駕速歩競走には敗けたことが無く、重量物を挽く競技でも不敗で有名であった。プラウを挽いたり、丸太を運んだり、馬車を挽いたり、疲れを知らない誠に万能の名馬であった。

Justin Morgan氏の死去後は、持主が転々と変わったが、後にLevi Beanと言う農家に飼われ酷使された。殆んど屋外で飼われていた。その頃には元の名前が忘れられJustin Morganの馬と呼ばれ、後には単にMorganと呼ばれる様になった。

Justin Morgan(馬)の血統についてははっきりしていないが通説では父親は英国将校の乗馬であったのを英国から輸入された「True Briton」というサラブレッドに近い競走馬の種牡馬か、またはYoung Bullrockという「Dutch Horse」かであろうとされ、母親はサラブ

レッドとアラブ半半のWindairという輸入種牡馬の血統の牝馬であろうとされ、一七八九年にWest Springfieldで生まれたとされている。University of VermontのMorgan Horse FarmにあるJustin Morgan(馬)の立像からも、その体型はDutch light draftのThe FriesianやThe Welsh Cobの血統を引いているものと考えられている。彼の血統はともかく、彼の種牡馬として稀に見る強い優性遺伝力が三十二才の生涯に多くの優秀な子孫を遺したのである。

Justin Morganは生涯の大部分をVermontのRandolphで送った。Vermont州で、血統の判然としない牝馬に交配しても、その産駒にすばらしい牡馬が生まれ、いづれも父親の優秀な体型や性質を受け継いだ優秀な種牡馬となった。中でも子のWoodbury, Sherman, Bulrushを基礎とする三系統は特に勝れ、Shermanの子(Justin Morganの孫)のBlack Hawkの子のEthan Allanは一八五三年のtrottingの世界チャンピオンであり、その血統に有名なDexterがいる。この血統はKentucky州に移され、KentuckyではThe American Saddle Horse(The American Saddlebred)と後でThe Tennessee Walking Horseの繁殖に貢献した。一八七〇年までにMorgan種はアメリカ各州に移され、黄金ラッシュ(1849年)以前にKecokukとBlack EagleはCalifornia州に、Vermont(馬名)とPathfinderはOregon州に、Wisconsin州には金鉱行きが冬のRocky Mountainsを越せないで停まった馬の中にComan's Gray EagleとBlack Flying Cloudがいた。Ohio州とIowa州では早くからモルガン種は知られPanic, General Stark, Stock-Bridge Chiefの三頭が、Tennessee州ではBen Franklinが、Virginia州ではWaker Morrillが、Maryland州ではBlack Princeが夫々新しい血統を遺し、モルガン種の繁殖にも貢献した。騎兵隊があった時代にJustin Morganは、将校用軍馬に最適の馬を繁殖したのでアメリカ陸軍に買い上げられ、モルガン育成牧場が、

Vermont州のWoodstockに造られ、其処で一八二一年に三二才でNew England中に多くの子孫を遺して死んだ。

この様なモルガン種の名声も蒸気船や自動車の発達に従って、馬や馬車で旅行をしたり、耕馬や挽馬に使う必要が無くなり激減の運命となった。然し当時、現在のMorgan Horse Clubの基礎となった僅かの熱心な繁殖育成者の不断的努力によってモルガンの血統が保たれた。

極く初期のモルガンは北部New Englandで農耕馬として畑を耕やし、日曜日にはtop buggy(座席一つの二輪又は四輪の小型の馬車)を挽いて家族を教会に運ぶ小格の馬で良かったが、一八二〇年以後アメリカでは速くてスマートなRoadstar(路上で用いる乗用馬)の要求が多くなって、モルガン種に英国から輸入したサラブレッドの芦毛のMessengerを交配し改良された(前述のKentucky系)。

現代のモルガンは体高は14.2~15.2hands位に祖先より高くなった。今日のモルガンは祖先に似て鹿毛が多く、頑丈で上品な体型で、よく傾斜した肩と短かい背、まるくて深い胴、広くて頑丈な腰、水平な臀、よく伸びた頸、上品で形の良い頭、形の良い耳、大きく印象的な眼を持ち、牡馬は立派なたてがみを持ち、尻尾は長く高く挙げられる。多くのモルガン育成者は体高が15.2hands管長が18~20cm、体重560kg位のを自慢している。合衆国農務省の援助でVermont州に大きな育成牧場が支えられ、多くの州立大学で科学的な研究が行われ、育成に対して物質的援助がなされて、The Morgan Horse Clubは再び馬事界に以前のように重視されるようになった。

モルガンはもとも乗馬用として繁殖されたのであるがアメリカの馬の繁殖に大きく貢献したのであって、Family horse, Show horse, Children-hunter, Roadstar, Driving Harness用馬として勝れた性能を持ち、アメリカの最も古い馬であるモルガンは今日なおア

メリカ最大の娯楽用として愛好され、近年は馬場馬術用馬としても好成績を収め、一九八〇年のGoodwood競技会ではHarf—MorganのBao号や、一九八二年のNEDA Spring CompetitionのBig Bend Doc Davis号等が優勝した。中格の総合馬術用馬として競技会に出場するようになり、今ではThe Morganは馬術界の希望するAmerican Sport Horseとなった。

前主将から

高須 哲 男

我々学生の馬乗りは、総て「チーム」として競技会に出場している。馬術というスポーツの性質からか、我々が、上級生になると一人一頭の馬を任せられるというシステムを取り入れてきたからか：個人プレーに走りがちだというのは、毎年指摘される通りである。私の主将時代、結局勝てなかったのも、部員に「チーム」という意識をもたせられなかったからだと思う。平石が主将となり、随分と改善されていることと思うが、部員一同、もう一度肝に銘じてほしい。

先ず、下級生、殊に一年生は、監督および上級生に対して絶対的な信頼をもってほしい。上級生に言われたことは迷わず実行しろ。無論、上から言われるままではなく、あれこれ考えながら乗らなければ、一定以上のレベルには上がらない。しかし、基礎もできていないうちから上級生に懐疑的になり、試行錯誤しても、非能率的甚だしい。また、隣の大学にどんな名選手・名監督が居たとしても、自分でできることは、退学して隣の大学に入り直すか、北大に残って今の上級生と監督の教えをこうか、二つに一つではないか。

一方、上級生は、下級生に盲目的に従わせるのだから、逆に、できうる限り広い視野に立たねばならない。隣の大学どころか、日本中の名監督・名選手の技術を盗むぐらいのつもりでいいと思う。その際に重要なのは、名選手・或いはOBの教えは飽くまで参考書だということだ。片端から読み漁れば良いのだが、自分が正しいと思う所のみを取り入れるに留めるべきだ。というのも、岡田監督にも

指摘されたのだが、近年、教えられたことを教科書にしようとして結局消化しきれなかった調教者がいたからだ。また、私を含めてOBの側も、自分の言葉にそれ以上の強制力をもたせるべきではなからう。

下級生を指導する際に、上級生の間で統一した方針があるのは最低条件だ。しかし、それだけではなく、下級生を二年の秋迄に一人前にするという考えも改めねばなるまい。一日も早く一人前にして、上級生の調教をどんどん手伝わせる。上級生が楽になるほど、その分、他の馬の調教に気を配ったり、より広い視野に立って練習を見まわせる筈だ。

調教に関しては、兎に角、個々の馬の調教段階を常に念頭に置いてほしい。北大というチームの中で、その馬の役割を考え、次に考えると、誰もが「俺が乗っている間に、全日学の権利を取る」ということになってしまう。もっとも、意気込みとしては、それは大切なことなのだけれども……。乱暴な言い方をすれば、それはギャランに乗る人は、大きな試合で勝ちまくり、北大馬術部を有名にし、部員をお祭り気分にかせるのが役目だと考えてほしい。

役職に関しては、例え一年生であろうと、その役職に就いたからには最高責任者であるという自覚をもってほしい。自分が一番偉い。だから、主将以外の奴には決して文句を言わせるな。また、一日一回は主将と話をしろ。それによって、主将は随分とクラブを把握できる。これは調教責任者も同じである。

最後になって随分と五月蠅くことを書いたが、岡田監督と平石を中心に、部員一丸となって頑張ってほしい。選手が監督やキャプテンを信じないチームで、強いチームは無い。

役員報告

主 将

平 石 哲 男

「人間は『志——』という無形の宝杖をもち得る唯一の動物である。」と、何かの本で読んだ記憶がある。クラブも同様だと思えます。北大馬術部としての『志——』を持つことは、その存在価値を定める第一条件であり、また（ここを強調したいのですが、）その志を部員皆なが自覚しておれば、自然部員の行動一つ一つが積極性に豊み、かつ合理的なものとなるはずで。

また、クラブとしての志は一つであることが必要で、部員個々の志が多少は違っていても、それはクラブのものと関連していなければならず、間違っても対立してはいけません。

漠然とした事を書き連ねましたが、以上現役部員確かに胸に刻んで、各々工夫をこらし頑張る必要があります。

さて、具体的な練習方針を述べますと、
。輪乗りを中心とした基本的運動を正確に行ない、同時に基本的扶助を見直す。

。ミーティング、部班運動を多く取り入れ、その内容の充実に努める。

要は前主将、前々主将の方針と大して変わり無く、それをより徹底させようという事です。細かくは、現在も試行錯誤様々試している段階ですが……。『自然馬術を上手く取り入れて』など不可能です。

柔軟、寛大な態度は、暖味さ、墮落を繰り返すばかりでしょう。

最後に、我々現役一同、弱輩ながら心身一つにして頑張る、この一年をクラブにとっても自分自身にとっても意義有るものにしたいと思っています。OB並びに関係者の方々、応援宜しく願います。

副 将

山 田 和 男

副将などという、おそれ多い役職をいただきながら、何もできず恥ずかしく思っております。平石兄を練習外で、できるだけ助けたいころと思っていながら、平石兄の悩みの種と化してしまったのではないのでしょうか。陰から部をささえることを考えながら主将の負担を少しでも軽くできるようにくつもりです。強いチームを作り出す為には、『統一』が必ず必要だと考えています。今までのOBは口では『統一』と言いながら全く行動に出られなかったことを恨みもし、感謝もしています。そういう意味でも今年の主将平石兄を大事にし、クラブ（こういう時期の）を大事にしていきたいと思えます。

主 務

丹 野 宏 昭

問—主務とは何ぞや。

答—雑用係の親玉である。

馬 匹

国 枝 由 紀

問—何をば申すか。昨年までの部報を見るに、主務とは財政・渉外等部の内政を司る企画者ではないか。それら職務の遂行態度や如何に。

答—申し訳ございません。実に怠慢、且つ無責任であり、期日ぎりぎりになって最小限の体裁を繕うもので、他部員に多大のしわ寄せをして参りました。財政については、一度会計ノートを見せてもらい、計画を立てようと試みましたが不規則な収入・支出の多さに挫折しました。

問—戯け者ノ以後、企画を怠らぬよう確と肝に銘じよ。されば、今後の活動方針を述べてみよ。

答—金稼ぎは従来通りの職にできる限りの人員を投入し、渉外は一月先の行事を念頭に置き、何事にも適切なる処置を講ずるよう努力致します。また、日頃から、内政を改革する奇抜な方策を生み出すよう努めるつもりであります。

問—最後に、格式あるべき役員報告欄にこのような異端的形式を用いたことを詫びよ。

答—恐れながら、役員報告とはいえ旧態の形式に縛られなくとも良いのではないでしようか。このような書き方も亦読み易くて良いものかと存じます。

昨年九月、野中兄より引き継ぎました。

役員交代の折、ケガを治療する馬匹ではなく、ケガをさせない馬匹になりたい、と言っているながら、十一月に管理上のミスによる傷の為に一頭を離厩させていただきました。

たとえば馬繋台や放牧地の馬割り一つをとっても、今までこうだったからこのままで……というのは誤りなのです。何如今こうなのか、本当にこれでいいのかをもう一度考え直してみなければならぬと思います。そしてこのことは飼料や運動量の面、更には日常の馬の取扱いについてまでも言えることなのです。

この事故を心に刻み、一年間精一杯がんばっていきたくて思っております。小池先生、太田さん、折橋姉、野中兄それにOBの方々どうぞ宜しくお願い致します。

最後に一月までの入離厩を報告して終わります。九月に輝魂龍が十勝柏友会へ離厩し札幌競馬場よりオオカリヒメが入厩、十一月、勇勝がト場へ去り、十二月には北菜院が大樹の乙部さんのもとへ離厩、十勝の久保厩舎より北銀（トカチャマブキ）北牙（エイトワンダー）の二頭が入厩しました。現在、馬匹数は驕馬九頭、牝馬四頭の計十三頭です。

飼料

森田敏

金のない我部にとって、飼料代は大きな負担であります。如何に安く手に入れ、如何にそれを効率的に給与するか、常に考えていくべきだと心得ます。我々が持っているものは、若さ力、そして馬糞だけです。この2つを、飼料と交換することをまず考えるべきでしょう。草刈りは、野原にころがっている金を集めているのです。

昨年の乾草は、近年稀にみる大冷害の影響はあまり受けなかったものの、収穫期の天候不順の為、良いものをあまり確保できませんでした。しかし、畜大OBの鷺田さん、長岡さんから手伝いをするかわりに乾草、麦乾を手配して頂いたりし、非常に助かりました。

飼料の効率的給与については、石狩クラブの布浦さんに推められ大麦を加え、現在、大麦2・燕麦1の割合で与えています。大麦は栄養価(飼料価値)が燕麦より高いのですが、嗜好性が低く消化性が悪い欠点があります。しかし、値段が燕麦の8割程度であること、慣れれば十分消化してくれることを期待して、大麦採用に踏み切りました。以下に現在の飼料給与量を掲載します。(一頭当り)

大麦・燕麦	フスマ	塩	カルシウム	
朝飼	一・三キロ	〇・三キロ	二五グラム	三五グラム
昼飼	一・〇キロ	〇・三キロ	二五グラム	三五グラム
夕飼	一・三キロ	〇・三キロ	二五グラム	三五グラム
夜投草	乾草四キロ	(朝・昼・夕飼に各〇・六キロの切乾)		

これは、運動量普通の馬で、運動量の多少によって、濃厚飼料の

量と、乾草量を増減しています。

会計

中川千夏子

会計の仕事を半年間やって、今更ながらにお金の掛るクラブであることを知らされます。学馬連やOBの方々からの援助はあるのですが、クラブバイトに頼るところが多いです。部員もお金がないのを承知か、車の修理代・七大戦の遠征費など、クラブからの出費をできるだけさげようと、個人負担にしています。

また、今年はず々の部員総会で、部員の滞納金を集め、個人にクラブからお金を貸すのを少なくしています。OBの方でまだ滞納金のある方は、早めに返して下さるよう、この場を借りてお願いいたします。

お金がない、お金がない、といって馬達や練習に差し支えては、元も子ありません。なんとか、人馬共に負担のかからぬようにしたいものです。

副務

下村仁司
中村康利

主務を補佐してガンバっていきたいと思います。中でも行事・試合等の連絡は時期を見て早めにして、又すぐに御指摘されてしまいました。印刷をもっと鮮明にするよう努力したいと思います。

薬品

嶋田明美

毎年の薬品担当が書くことですが、全く薬品の値段の高いのには泣かされます。一年間やってきて、国枝新馬匹とも相談し、とにかく薬品をなるべく使わないように、それにはひたすらケガ、病気をさせないこと、と決心しました。幸いこの夏は水野兄、本庄兄の来札でリンゲルをいただいたり、競馬場から薬品をいただいたりしてたいへん助かったのですが、まだまだです。

薬品代を少しでもへらし、その分を飼料にまわせるように。これが薬品として、部員としての一番の願いです。

作業

平山復志

一昨年より続いていた、練習をさぼったら罰作業、という決りを取りやめ、本年度からは全員で作業を行うこととしました。これも練習は当然部員全員が参加するものだという意識が固ったからできたことで良かったと思います。作業はもともと罰としてあるのではなく、部の活動の一環として行うものですから、本来の姿にもどったと言えるでしょう。

下級生も上級生も一人一人が主体的に動いて仕事がかどっていいような、そんな作業を目指してがんばって行きたいと思います。

馬具・備品

谷山豊三郎
田中保之

貧乏クラブなので、馬具・備品に関して、決して満足してはいえませんが。そのため、現在ある馬具・備品をできるだけ大切に使用していきたいと思っています。

文化

町田憲司
久光経司

カラー一枚七〇円、白黒四〇円也。ウム、確かに高い。全日学、全日本に出場したら、写されたという理由で、わけのわからない、小さくぼけた障碍飛越写真を買わされ、三千円を越す高額を毎月写真代に投資した人も何人かいることと思います。もっといい写真、意味のある写真、芸術写真(?)を撮らなければいけないのですが。普段の練習中にも、ビデオ、写真を有効に利用し、技術向上に役立ててもらいたいと思います。

また、去年はOB対抗戦が、試合日程等の都合により取り止めとなりましたが、代わりに、早春に石狩浜大外乗大会を催したいと思っております。その折には、是非たくさんのOBの方々、御参加くださるようお願いいたします。

記 録

小 役 丸 千 加 子

先輩方の残して下さった書物を手に取る度に、「なんて昔の人達は勉強していたのだろう。」と驚嘆するとともに少々頭の下がる思いです。私の課せられた役目は、それらの書物を後々の代まで伝えることと、それらを生かして経験少なな我々部員に少しでも新しい知識と正しい理解を与える橋渡しとなることだと思っています。

先日、アメリカ滞在の西川兄より部員に素晴らしい本が送られてまいりました。少しずつでも訳していきたいと思っています。

我々部員を思っ下さる西川兄に感謝するとともに、他のOBの皆様、何か為になる書物がありましたら、御紹介していただけたらと思っっている次第です。

レ シ ー ト

半 田 友 子
福 島 光 絵

今年も、部員のみなさまや、OBの方々の御協力で、割り戻し金額は三万円強になる予定です。御協力本当にありがとうございます。今後、またよろしくお願いいたします。

昭和58年1月～12月 決算報告

会 計 中 川

< 収 入 >

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
部 費	15,000	12,000	10,000	0	38,000	20,000	21,000	0	43,000	19,000	23,000	14,500	215,500
バ イ ト	7,200	254,000	249,700	54,550	253,360	77,980	1,343,940	22,400	235,200	292,600	146,200	116,855	3,053,985
補 助	50,750	35,000	0	0	100,000	32,000	0	9,600	0	0	525,000	931,000	1,683,350
そ の 他	90,630	16,330	127,516	148,410	75,119	92,360	46,600	96,176	16,199	149,100	186,025	83,454	1,127,919
計	163,580	317,330	387,216	202,960	466,479	222,340	1,411,540	128,176	294,399	460,700	880,225	1,145,809	6,080,754

< 支 出 >

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
飼 料	205,520	165,220	343,520	0	0	3,460	65,000	0	0	52,400	3,450	362,000	1,200,570
蹄 鉄	0	0	210,000	0	210,000	0	210,000	160,000	0	0	300,000	299,400	1,389,400
馬 具	26,080	2,919	3,836	16,890	17,400	1,930	6,545	19,954	1,000	700	1,524	16,600	115,378
薬 品	0	66,315	18,030	7,130	0	0	0	62,750	4,958	5,353	0	0	164,536
輸 送	160,000	3,300	32,620	10,434	9,447	238,128	221,986	178,513	54,722	147,955	3,596	11,009	1,071,710
そ の 他	135,382	30,895	85,528	287,806	253,824	197,375	358,625	394,849	196,358	218,492	214,050	333,114	2,706,298
計	526,982	268,649	693,534	322,260	490,671	440,893	862,156	816,066	257,038	424,900	522,620	1,022,123	6,647,892

昭和58年度 行事報告

3月27日

対東北大学定期戦（於東北大）

4月9日～10日

七大戦（於北大）

4月17日

三大戦（酪農）



6月3日

第5回北海道乗馬大会（於日高ケンタッキー）

佐藤姉（4年目）と北耀号（上）婦人で2位

町田兄（4年目）と北姫号（右）

チーム対抗戦で満点でした。

6月13日

新歓コンパ

来年の今日を夢に見ながら死んだのでした。



4月14日

ノエルの仔っこ無事出産

山田兄により“飛雄馬”と名付けられるが…。

5月5日

第11回半沢杯、太秦杯、河田杯記念馬術大会
（於北大）

5月14日

平田姉結婚祝賀会

平田姉じゃなくて斉藤姉、お幸せに！



6月25日～26日

北海道自馬馬術大会（於旭川乗馬クラブ）

7月2日

おかえしコンパ

西村兄発案のファッションショーがバカうけ。

7月22日～23日

北海道地区馬術大会（公認）（於帯広畜産大学）

8月5日～8日

北日本学生馬術大会（於帯広畜産大学）

8月13日～14日

北海道体育大会（於北星乗馬クラブ）

8月16日～23日

日高合宿

競馬—その一言に尽きる羊蹄，峰竜
カルピス大じゃんけん大会—平石兄、御苦労
様でした。



9月11日

フロンティア牧場祭

9月13日

東日本馬術大会（於馬事公苑）

9月15日

市民体育大会（於北星乗馬クラブ）

9月20日

輝魂龍号離脱式

9月24日

役員交代コンパ

4年目諸兄姉、各役職をしっかりと受けついで
いきますから。

10月1日～2日

岩見沢親善馬術大会

一年目初めての試合—陣川兄、田中兄、中村
兄いかがでした？

10月9日

水産追コン

ついに移行できましたね上本兄ノ函館でもが
んばって下さい。



10月10日

北大駅伝

男子チームにまじっても異和感のない小役丸姉、
いや～、速かったですねえ。

10月11日～16日 2・3年目合宿

18日～24日 1・3年目合宿

部室の布団もいいけど教室の机と椅子でもよく
眠れた一週間でした。

10月26日～31日

全日本学生馬術大会（於馬事公苑）

11月2日

勇勝号離脱式

11月12日～13日

F.M.C.

11月18日～20日

全日本馬術競技会（於大阪緑地苑）

12月4日 学内卓球大会

夕当後の猛練習にもかかわらず1回戦突破ならず。世良兄、あと一歩でしたよね。

12月7日

北楽院号離脱式



11月13日

山下杯（於酪農学園大学）

12月17日

学内バドミントン大会

小役丸姉、高田姉の迷コンビ、なんと堂々の3位。初めての賞状を手にしたのです。

12月27日

忘年会

一年をふり返ってと言うよりやはり食べて終わる忘年会でした。

12月30日

もちつき

水が多すぎたのか、少し悲惨なもちでした。でもやっぱりつきたてはうまい！

1月2日

初乗り



1月31日

雪まつり外乗

なんで長靴ってあんなにスベるの!!

1月3日～8日

冬合宿

マラソンで初まりマラソンで終わった様な一週間、北海道神宮なんてきらいだぁ〜。

でも、その分充実していたなぁ。

1月21日

学内雪中ラグビー大会

翌日首のまわらなくなった平山兄、なのにじゃんけん負けなんて…………。

1月28日

学内バスケットボール大会

3月1日

追い出しコンパ

4年間、本当に御苦勞様でした。私たちも負けずにやっていかなければと心に誓うのでした。



昭和58年度 戦績報告

★対東北大学定期戦 (3月27日 於東北大)

使用馬匹…尾白鷺・滝右衛門・マコロード・イナヅマ
 北大選手…小役丸・下村・谷山・山田・町田
 戦績………北大 - 8 2 9.7 5 東北大 - 7 6 4.5 負
 最優秀選手 小役丸 優秀選手 児玉

★七大戦 (4月9～10日 於フロンティアRC)

北大選手…世良・高須・名越
 優勝 北大 準優勝 東北大 三位 九大
 最優秀選手 名越

★三大学定期戦 (4月17日 於酪農大)

使用馬匹…騾龍・騾閃光・ゼット
 北大選手…谷山・町田・山田
 戦績 北大 - 4 酪農大 - 8 畜大 - 1 3 8.5 優勝

★第11回太秦杯・半沢杯・河田杯記念馬術大会 (5月5日 於北大)

忙しい、忙しい、忙しい、この一言に尽きました。
 大会前まで毎日、障碍作り、ペンキぬり、仮厩舎作り
 …、競馬場へ馬場柵をとりに行った時の町田兄のあの
 豪快なトラックの運転、思わず私は車酔いになった。
 また試合中は、入退場口の開閉、スタート・ゴール、
 馬場柵の開閉、よみあげ…。一日中使役の嵐!! その忙
 しい中で見た出番直前のギャランに乗った嶋田姉の顔
 が印象的でした。しかし寒かった!



<馬場馬術 第2課目>

	選手	馬名	所 属	得 点
1位	葛 西	イズミシュウコウ	札 鏡	391
2位	庄 内	サクラプリンス	札 馬 研	384
3位	青 木	サクラプリンス	酪 農 大	382

<中障碍> (半沢杯)

	選手	馬名	所 属	減 点
1位	名 越	北 皇 子	北 大 (4)	0
2位	野 中	北 耀	北 大 (4)	-1.4
3位	橋 口	騾 龍	酪 農 大	-4
	高 須	ドンホッパー	北 大 (4)	-4
	世 良	北 将	北 大 (4)	失権

<小障碍> (河田杯) (規定タイム1'04"に近い人馬より順位をつける)					タイム
1位	川瀬	サミット	相川 R C	0	1' 03" 94
2位	平山	北紫雲	北大 (3)	0	1' 03" 75
3位	熊井	白峰	岩見沢 R C	0	1' 03" 13
	町田	北姫	北大 (4)	0	56" 40
	国枝	スターライト	北大 (3)	0	49" 97
	嶋田	北皇子	北大 (3)	0	49" 53
	森田	北紫雲	北大 (3)	-0.02	1' 04" 08
	佐藤	北耀	北大 (4)	-0.8075	1' 07" 23
	丹野	ドンホッパー	北大 (3)	-3.3425	1' 05" 37
	上本	北楽院	北大 (3)	-4	59" 16

★第5回北海道乗馬大会

ピーター絶好調！まず小障婦人での素敵な佐藤姉を乗せて、ピョンピョンと飛んで第2位。そして、中障では「エイッ！」と気合の入った野中兄の声と共に観衆をひきつけていった。ジャンプオフでも勝って見事優勝！ちなみに、マリーナも絶好調でした。



<Point to Point> (規定タイム2'00"に近い人馬より順位をつける)					タイム
1位	寺岡	テレサ	北星 R C		1' 59" 52
2位	岩城	キタノエイカン	日高 K F		1' 58" 91
3位	谷山	北楽院	北大 (2)		2' 03" 33
	上本	北楽院	北大 (3)		2' 33" 81
	平石	北雕	北大 (3)		3' 17" 77
	井上	北紫雲	北大 同		3' 21" 08

<部班馬場馬術>

1位	斉藤	キタノコンゴ	石狩 R C
2位	小野	チャキリス	北星 R C
3位	小役丸	ドンホッパー	北大 (2)

<小障 婦人>

1位	モニックボーゲル	サマンサ	日高 K F	0
2位	佐藤	北耀	北大 (4)	0
3位	モニックボーゲル	ザ・チャーリー	日高 K F	0
	国枝	スターライト	北大 (3)	失権

<中障>

					(ジャンプオフ)減点	タイム
1位	野中	北耀	北大 (4)	0	0	42" 81
2位	川久保	コジロウ	柏友会	0	-8	39" 89

3位	藤本	ホッカイスガタ	旭川 R C	0	-8	42" 71
5位	高須	ドンホッパー	北大 (4)	-4		
	町田	北 姫	北大 (4)			

★第18回北海道自馬馬術大会 (6月25~26日 於旭川乗馬クラブ)



僕が「先輩、1位おめでとうございます。」と言うと、兄はくったくのないでも少しにがみのあるモカのような感じで、上本兄Smileを出した。バンザイ、バンザイ!!

<馬場馬術 第二課目>

				得点
1位	大谷	サベルニック	旭川 R C	384
2位	大谷	スカイナーホース	旭川 R C	379
3位	原田	駿 優	酪 農 大	347
	平石	北 駿	北大 (3)	317
	世良	北 将	北大 (4)	73.5

<中障B>

				減点	ジャンプオフ
1位	大谷	ホッカイスガタ	旭川 R C	0	0
2位	布施	アテナグランド	北星 R C	0	-8
3位	布施	サミット	北星 R C	0	-11
	野中	北 耀	北大 (4)	-3	
	町田	北 姫	北大 (4)	-19.5	
	世良	北 将	北大 (4)	-38	
	上本	北 楽院	北大 (3)	失権	
	平石	北 駿	北大 (3)	失権	

<婦人障害>

					タイム
1位	モニクボーゲル	ザ・チャーリー	日高 K F	0	55" 18
2位	モニクボーゲル	サマンサ	日高 K F	0	55" 35
3位	五十嶋	柏 栄	帯 畜 大	0	1' 03" 02
	国枝	スターライト	北大 (3)	-4	
	中川	ノエル	北大 (3)	-12	

<中障A>

					ジャンプオフ
1位	土井	ザ・チャーリー	日高 K F	-4	-4
2位	斉藤	スカイナーホース	旭川 R C	-4	-12
3位	高須	ドンホッパー	北大 (4)	-7.75	
	野中	北 耀	北大 (4)	-13	

名越北皇子北大(4) -19.25

<小障>

ジャンプオフ(タイム)

1位	山田	アパッチエース	岩見沢RC	0	43" 9
2位	北島	柏星	帯広農高	0	45" 4
3位	森田	ノエル	北大(3)	0	52" 2
	横山	ドンホッパー	北大(3)	-4	
	山田	北耀	北大(2)	-7	
	町田	ノエル	北大(2)	-8	
	国枝	スターライト	北大(3)	-9.5	
	井上	北紫雲	北大同	失権	
	平山	北紫雲	北大(3)	失権	

<新場初心者障害>

1位	上本	北楽院	北大(3)	0	38" 39
2位	清水	サミット	北星RC	0	38" 86
3位	裕	サミット	北星RC	0	40" 00
5位	平石	北驩	北大(3)	0	42" 65
	平山	北紫雲	北大(3)	失権	

★第8回日本馬術連盟公認北海道地区馬術大会(7月23~24日 於帯広畜産大学)

<ハンティングB>

タイム

1位	安藤	柏星	帯畜大	1' 53" 00
2位	桑原	柏栄	帯畜大	2' 06" 09
3位	新井	柏斗王	帯畜大	2' 08" 03
9位	高須	ドンホッパー	北大(4)	3' 03" 79
	町田	北姫	北大(4)	失権

<小障>

減点

1位	白井	サマンサ	日高KF	0	51" 09
2位	土井	ルミウエル	日高KF	0	52" 66
3位	土井	ボーjestオリビエ	日高KF	0	54" 02
11位	丹野	ノエル	北大(3)	-3	1' 17" 00
16位	谷山	ドンホッパー	北大(2)	-4	53" 75
	国枝	スターライト	北大(3)	失権	
	平石	北驩	北大(3)	失権	

<婦人・壮年>

1位	国枝	スターライト	北大(3)	0	48" 65
2位	岩城	ザ・チャーリー	日高KF	0	49" 59
3位	モニックボーゲル	ルミウエル	日高KF	0	51" 54
10位	嶋田	ノエル	北大(3)	-4	55" 18

<新人新馬>

ジャンプオフ(タイム)

1位	野口	メジロマーティン	北星RC	0	47" 00
2位	増田	キタノコンゴウ	石狩RC	0	48" 00
3位	大野	セントマロ	柏友会	0	49" 00
5位	平石	北 駿	北大(3)	0	49" 64
	下村	ノ エ ル	北大(2)	-4	49" 00

<標準中障>

1位	新井	柏 斗 王	帯畜大	0	
2位	桑原	柏 栄	帯畜大	0	
3位	安藤	柏 星	帯畜大	0	
6位	高須	ドンホッパー	北大(4)	-4	
	上本	北 楽 院	北大(3)	失権	
	町田	北 姫	北大(4)	失権	
	野中	北 耀	北大(4)	失権	

<中障B>

1位	岡本	コジロウ	柏友会	-4	
2位	川久保	ジャンボリバー	柏友会	-7	
3位	野口	アテナランド	札幌RC	-13.25	
4位	世良	北 将	北大(4)	-16	
6位	森田	ノ エ ル	北大(3)	-24	
	国枝	スターライト	北大(3)	失権	
	平石	北 駿	北大(3)	失権	

<大障>

1位	土井	ザ・チャーリー	日高KF	-4	
2位	安藤	柏 星	帯畜大	-8	1' 26" 38
3位	渡辺	柏 蘭	帯畜大	-8	1' 27" 88
	高須	ドンホッパー	北大(4)	失権	

★第19回北日本学生馬術大会(8月5~8日 於帯畜大)



僕がスティーブルの第2障害で箱番をしていると、林の中から肉弾が突走って来た。ドドドド……。あ、あれは、と思ったら障害を飛び越えたのだろうか、白い物体の太いおしりだけがそこにはあった。あの白い物体は、きっと将介に違いない。彼もあの太い足で北大を支えているんだなと、場違いながらも思った。

<二回走行>

				一走行目	二走行目
1位	桑原	柏 栄	帯畜大	-4	0

2位	新井	柏斗	王	帯畜大	- 4	- 4
3位	原田	隼	鷲	酪農大	- 3	- 4
5位	高須	ドンホッパー		北大(4)	- 4	- 4
	世良	北	将	北大(4)	-34.75	-12.5
	上本	北	院	北大(3)	-37.5	-28
	名越	北	皇子	北大(4)	失権	-12
	町田	北	姫	北大(4)	失権	失権
	野中	北	耀	北大(4)	失権	失権
	森田	ノエ	ル	北大(3)	失権	失権

<総合>

					調教	耐久	余力
1位	安藤	柏	星	帯畜大	-116 $\frac{3}{10}$	0	- 6.75
2位	新井	柏斗	王	帯畜大	-127	0	- 1.25
3位	橋口	隼	龍	酪農大	-127	0	- 6.75
9位	高須	ドンホッパー		北大(4)	-148 $\frac{3}{10}$	0	- 5
10位	名越	北	皇子	北大(4)	-153 $\frac{3}{5}$	0	- 1
	上本	北	院	北大(3)	-144	- 20	-13.5
	世良	北	将	北大(4)	-182 $\frac{3}{10}$	0	- 3
	野中	北	耀	北大(4)	-172	- 29	失権
	平石	北	驪	北大(3)	-139 $\frac{3}{5}$	- 82.4	失権
	森田	ノエ	ル	北大(3)	-155 $\frac{3}{5}$	-100	-25.75
	町田	北	姫	北大(4)	-171	失権	

★第30回北海道馬術大会 (8月13~14日 於北星乗馬クラブ)

<総合>

					調教	耐久	余力
1位	安藤	柏	星	帯畜大	-137.83	0	0
2位	橋口	隼	龍	酪農大	-146.00	0	0
3位	佐藤	カナディアルホース		碧雲クラブ	-133.33	0	-15
5位	高須	ドンホッパー		北大(4)	-150.75	-1.2	- 5
	世良	北	将	北大(4)	-159.83	失権(タイムオーバー)	
	平石	北	驪	北大(3)	-140.00	失権	

<成年障害>

					減点	タイム
1位	布施	チャキリス		北星RC	- 3	
2位	安藤	柏	星	帯畜大	- 4	61" 75
3位	土井	ザ・チャーリー		日高KF	- 4	62" 73
5位	名越	北	皇子	北大(4)	- 8	
	高須	ドンホッパー		北大(4)	-21	
	世良	北	将	北大(4)	-29	
	町田	北	姫	北大(4)	失権	

<中障B>

1位	阿部	白峰	岩見沢 R C	- 3	
2位	小原	カイドウ	日高育成	- 3.25	
3位	吉田	アパッチエース	岩見沢 R C	- 4	
	森田	ノエル	北大 (3)	-34.5	
	国枝	スターライト	北大 (3)	失権	

<小障 婦人壮年>

1位	村上	チャキリス	北星 R C	0	51" 56
2位	国枝	スターライト	北大 (3)	0	52" 32
3位	富岡	カイドウ	浦河高校	0	56" 71
	中川	ドンホッパー	北大 (3)	-4	
	嶋田	北 騷	北大 (3)	失権	
	小役丸	ノエル	北大 (2)	失権	

<小障 一般少年>

1位	土井	ルミウエルウエスト	日高 K F	0	49" 42
2位	岩城	ザ・チャーリー	日高 K F	0	49" 83
3位	松本	ヒダカレディ	浦河高校	0	51" 91
	町田	北 皇子	北大 (2)	- 4	
	森田	ノエル	北大 (3)	-14.25	
	下村	スターライト	北大 (2)	失権	
	山田	北 騷	北大 (2)	失権	

★市民体育大会 (9月15日 於北星 R C)

<中障>

1位	布施	チャキリス	北星 R C	0	
2位	布施	アテナグラウンド	北星 R C	- 3	1' 09" 75
3位	清水	サミット	北星 R C	- 3	1' 15" 75
	平石	北 将	北大 (3)	- 4	
	国枝	スターライト	北大 (3)	-10.25	
	上本	北 楽院	北大 (3)	-12	
	谷山	北 楽院	北大 (2)	-14	

<一般>

1位	裕	サミット	北星 R C	0	1' 01" 65
2位	木村	サミット	北星 R C	0	1' 02" 87
3位	平石	北 将	北大 (3)	- 3	
	谷山	北 楽院	北大 (2)	-15	
	中川	北 騷	北大 (3)	失権	
	丹野	北 騷	北大 (3)	失権	
	嶋田	スターライト	北大 (3)	失権	

★道内親善馬術大会 (10月1～2日 於岩見沢競馬場)

<中障B>

1位	町田	北皇子	北大(2)	0
2位	森田	ドンホッパー	北大(3)	-4.5
3位	白井	ベス	日高KF	-5
	国枝	スターライト	北大(3)	-12.5
	平石	北将	北大(3)	失権

<ジムカーナ>

				タイム
1位	加藤	柏峯	旭川RC	52" 21
2位	千田	白峰	旭川RC	56" 49
3位	橘	カスミリュウ	フロンティアRC	59" 42
7位	中村	ドンホッパー	北大(1)	1' 03" 95
	陣川	北皇子	北大(1)	1' 08" 93
	田中	北離	北大(1)	1' 12" 37

<婦人>

			減点	タイム
1位	国枝	スターライト	北大(3)	0 52" 00
2位	田伏	白峰	岩見沢RC	0 58" 17
3位	谷口	カスミリュウ	フロンティアRC	-8

<中障A>

1位	高須	ドンホッパー	北大(4)	0
2位	岡本	コジロウ	柏友会	-4
3位	高橋	隼駿	酪農大	-8
	平石	北将	北大(3)	-28

★第33回全日本学生障害飛越競技

★第26回全日本学生3-DAY EVENT

(10月26～31日 於馬事公苑)



総合の調教審査に備えてたてがみを編んだドンとギャラン。見慣れぬその姿からは、いつになく“キリリ”とした緊迫感が伝わってきていたのです。

札幌とは違って変わった暖かい秋晴れの東京で、来年だって見せて下さい、あの晴れ姿。

<二回走行>

				一走	二走	(ジャンプオフ)
1位	尾辻	ユウコク	専修	-0	-0	0
2位	宇野	麻智	麻布	-0	-0	-4
3位	面	慶山	慶応	-3	-0	
	高須	ドンホッパー	北大(4)	-12	-0	

★対酪農大定期戦 (11月13日 於酪農大)

<小障>

					減 点	
1位	金 沢	ゼ ッ ト	酪 農 大	酪 農 大	0	54" 38
2位	宮 竹	騾 龍	酪 農 大	酪 農 大	0	1' 01" 69
3位	平 山	北 紫 雲	北 大 (3)	北 大 (3)	0	1' 13" 00
	丹 野	ノ エ ル	北 大 (3)	北 大 (3)	-3	
	国 枝	北 姫	北 大 (3)	北 大 (3)	失権	
	下 村	北 驪	北 大 (2)	北 大 (2)	失権	
	小役丸	スターライト	北 大 (2)	北 大 (2)	失権	

★第35回全日本馬術大会 (11月18~20日 於大阪乗馬苑)

名馬匹と名カメラマンと名記録にかこまれて、
 ドンさんと高須兄は乗馬苑へのり込んだのでし
 た。——不安は尽きなかったでしょうが——。
 ドンさんの横の馬房で稲ワラをひいて4人で毛布
 にくるまって寝たし、高田ごっこがはったり、
 ワニの帽子、丸ほと丸への赤いトレーナー、神戸
 大の〇〇さん ——ウー、思い出は尽きない!



<内国産馬>

(パラージュ) 減点

7位	高 須	ドンホッパー	北 大 (4)	北 大 (4)	-4
----	-----	--------	---------	---------	----

全日学観戦記

森 田 敏

ドンホッパーと北皇子を乗せた馬運車は、十月二十一日午後三時
部員と応援団に見送られて、東京へと出発した。馬事公苑に着く時
間を開苑に合わせるため、途中、時間を充分にとつて、入厩は二十
三日七時半となった。出発から教えて四十時間半という長い時間、
ドンとギャランは馬運車の中で驚く程大人しかった。しかし、さす
がに降りるときは二頭共急いだ。それで、馬事公苑の砂の上に四肢
の蹄跡をつけるまでに、結構苦労した。二頭共、特に体調が悪いと
いうことはない。しかし、四十時間の輸送の疲れは、確実にあると
思われた。東京近辺の大学に比べ大きく不利な点である。

開会式は二十五日一時半から入場行進とともに始まった。恒例の
ブラスバンドに全馬が踊った。こればかりは各地区を勝ち抜いてき
たどの馬達も苦手らしい。障害・四十四大学一一七頭、総合・三十
大学一一八頭、馬場・二十大学三十九頭がそれぞれ個人、団体の日
本一を決める厳しい戦いの始まりである。(馬場は、開会式の前、
二十二、二十三日に行われた。)

二回走行は、二十六日、二十七日に行われた。総合のみに出場予
定の北皇子は、畜大の柏柴の乗権により急遽出場決定となった。名
越兄はじめ動揺の色を隠せなかったが、すぐにあのいつもの静か
な闘志を燃やしはじめた。高須兄跨がるドンは、十七番、名越兄跨
がる北皇子は五十五番。結果は、一走目ドン三落、三十七位、北皇
子一落、十二位である。ドンはいつもの迫力ある前進氣勢が充分出
ず、不調であった。北皇子は突然の出場にもかかわらず(それが良

かったのか?)好調だったようだ。二走目は高須兄、棒拍を輪拍に
替えて走行。見事満点でゴール。一走目の三落は、年のせいかもしれないが、
思っていたが、まだまだドンは健在である。トータルで十七位に浮
上した。北皇子はプレッシャーがかかったか三落、上位進出は果た
せず二十四位に終わった。しかし、全一一七頭のうち五十三頭しか
ゴールでできなかったのを考えると、この二頭は良く頑張ったと思う。
そして、もう一頭同レベルの馬がいたなら、団体成績は確実に五位
以内に入っていたことを思うと、団体入賞は決して夢物語ではない
と感じた。

一走目で満点だったのは麻布の麻智(宇野)、専修のユウコク(尾
辻)、同ホシノダンサー(伴)、日大の桜伯(後藤)、同メジロサ
ング(伊藤)、畜大の柏星(安藤)の6頭で、このうち二走目も満
点だったのは、専修のユウコクと麻布の麻智だった。結局この二頭
のバラージュとなった。距離を可能な限り小さくとり、スピードも
出した麻智(宇野)が無念の一落をして、その後、ゆっくりと満点
でゴールしたユウコク(尾辻)が見事優勝をものにした。団体では、
一位、減点八の日大、二位、減点十五の専修、三位、減点三十三の
中央、以下、減点四十四・五の東京農大、減点四十八の大阪府立大、
減点七十六・二五の麻布と続く。九位以下は、団体でもゴールを切
ったのは二頭で、今年のレベルは決して高くはないと言えると思う。

今年の経路で最も落下が多かったのは、九番のレインボー(垂直)
で、次に八番トリプルBのオクサー、六番芝カマ、十番竹柵オク
サーも多かった。反抗が多いのは、十番、十一番トラケーン、二
番三段ついたて(多い順)で、落下、反抗共に多かった竹柵オクサ
ーが最大の難関だったと言えよう。ドンは、九、十、十四番で落下、
ギャランは、九、十、十二で落下している。

総合は、二十九、三十、三十一日において行われた、調教審査は

ドン 一五三・六七点、北皇子一八八・三三点で、ドンは今までの試合の中では最も良い出来であった。しかし、総合一位となった、ユウコク（専修）の一六・三三や、二位グレートボーイ（専修）の一五点、三位桜柏（日大）の一五・三三点などに比べたら、はるかな差がついている。

二日目、ステイプルではドンが数々の難関を突破して見事満点でゴール、北皇子は九番飛び込みバンケットで惜しくも三反失権。名越兄曰く、「もっと馬に根性をつけさせなくては」。ここまでのドンの順位は十六位。全一八頭のうちゴールを切ったのは三十八頭で、調教審査上位の馬はほとんどゴールしていたのだった。余力でドンは、一落マイナス五、総合順位は、十三位となった。結局、今年も総合は、調教審査で勝敗が決まったような形となった。例年この傾向が強まっているようだが、そうとなれば総合で上位進出を果たすためには、調教審査で要求されている課目を確実にこなせるよう練習すべきことは自明の理である。しかしステイプルで返ってこないのでは話にならないので、野外馴致、体力などに対する高度な要求は前提条件として当然の課題であろう。

全体を見て感じたことは、馬のレベルは高いが騎手は決して上手い人間ばかりではないことだ。見ていて騎座が安定して、ジャマせずウーンうまいなと思ったのは、バラージュに残った尾辻さんと宇野さんだった。連続飛越中の着地から次の障害へ移る馬の動きに、見事にフィットとして上半身、特に頭の位置が非常に安定しているのには驚き感動した。しかし他の選手も、普段北大で乗っている誰よりも姿勢は決まっているし、明らかに一段も二段も上であるのはくやしいけれど確かである。そして、現在の北大の部員でも、毎日をもっと真剣に常に向上心を忘れないで乗ってれば、このレベルになら到達できると思う。いやそうしなければいけない。そしてさ

らに上のレベルにまでいかななくてはいけない。そしてはじめて勝てるのだから。

馬のレベルが騎手よりも高いと感じたのは、一つにはコーチのいる大学では馬をそのコーチに作ってもらっているからだろうと思う。又一つには、能力のある馬をどんどん購入しているからだと思う。入れ替わる学生たちを乗せていてもコーチが調教を維持しているならその大学は安定した成績を得られるだろう。入れ替わる学生たちがバトンタッチ式で馬を調教していき維持だけでなく、向上させて勝っていこうという我々の道が如何に剣しいものか改めて考えさせられる。

しかし、かつての北大、現在の畜大ではそれができているのだ。何が決め手かと考えるとやはり、一生懸命練習することなのだと思う。そして、練習方法。最初の一年が重要なのだろう。とにかくうまくならなくては。

学生が縦に横にしっかりと手を結び、一頭の馬を育て、勝利を手にするには本当に素晴らしいことだと思う。そしてそれが、真の学生馬術なのではないだろうか。

ALL JAPANを見て

久 光 経 司

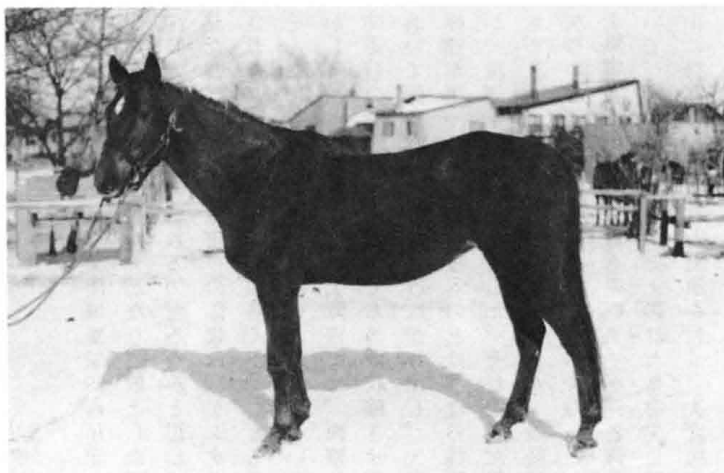
今年のこの大会は、大阪城築城四百年記念ということで、大阪市乗馬苑で開かれました。かなり閑散とした所で、こんな所で本当に全日本の大会が行われるのだろうかと思われるほどでした。最初に見た競技（標準中障害）の印象は、ケンタッキーの土井さんが健闘されたことや、失権者が数多く出たことも手伝って、道内の大会とそんなに違わないのではないだろうかというようなものでした。しかし、次に行われた標準大障害には、衝撃的な感動を受けました。助走前の減却扶助によって本当に収縮させられた馬が、続く助走において弾き飛ばされるように走り出し、大障害を飛越する。馬は、僕達が乗っているようなものとは異なる種類のものでしたが、さすが一流選手だなと思いました。それを見た後から、中障害飛越競技も、注意深く見るようになりました。最終日の中障害選手権では、失権する人も少なく、やはりレベルの高い大会だなと思いました。大障害とは馬も乗り方も違いますが、各選手、騎座がしっかりしていて、脚と低い位置に据えられた拳を少し動かしただけで、馬を自由に操り、計算された誘導を行う。大変勉強になった大会でした。さて、我らがドン君はどうだったでしょう。予選の段階で、人と馬のそれぞれのミスがあり、選手権には出場出来ませんでした。しかし、内国産馬障害飛越にギリギリの線で出場出来ました。この競技では、高須兄とドンが持てる力を十分発揮して、堂々の七位に入りました。競技自体では高須兄は、かなり頑張っておられたと思いましたが、裂蹄の為、十分練習できなかったのは残念でした。



創立30年、新たな感動の世界へ。
日本中央競馬会
札幌競馬場

馬匹紹介 調教報告

スターライト号



牝 ア・ア 栗毛
昭和41年4月4日生
沙流郡門別町産
父 トモスベ
母 銘乾

美しく、気高く、榮光に満ちたその半生、さながら馬術界のオー
ドリー・ヘップバーンといったところ。(ただしあの「せき」を思
いださなければ)輝く黄金の毛なみ、りと澄んだ瞳、ホントに美

しい馬です。そして、ミスもおじょうず。加えて、あふれる
知性と教養、にじみでる愛らしさ……、そう、彼女こそ、永遠のヒ
ロインなのです。(おしりに輝くHマーク!!)

スターライト号 調教報告

国 枝 由 紀

12月4日より乗り始めました。最初は運動の組み立て方が全くわ
からず、また何をやるにしても自分の意図した反応は返ってこな
かった。ライトは過去のある古馬であり、当然扶助など理解してい
る筈だから自分がそれをできる様になりさえすればいい、まず馬を
知る事だと思い、世良兄から聞いていた沈静運動を繰り返して十二
月、一月前半を過ごした。どうしたら馬に自分の意志が素直に伝わ
るものか、それを手探りしていた時期だったと思う。

ところが、一月半ばになると急に馬体状況が悪くなり(左膝の骨
瘤による跛行、肺気腫によるひどい咳やたん、鼻水など)常歩だけ
しかできず、二月いっぱい一日一時間ほどの外乗が続いた。三月に
入っても症状の改善は見られなかったが、それ以上悪くならない様
心がけながら少しずつ運動量を増やしていくことにした。この頃ラ
イトには離厩の話があり、一頭の馬に乗っていながら何も得ること
なく終わってしまいそうで何かをしなければ、という思いでいっぱ
いだったのです。

三月中旬から半沢杯の小障を目標として小野さんに指導していた
だけのことになった。馬場が凍っていることもあり運動の中心は輪
乗りで、常歩で内方脚を強く使い輪線に沿わせる様な運動を多く行
なう。これによって少しずつ馬にゆずろうとする姿勢が見られる様

になったと思う。この頃衝も少し細いものに替え、馬体が固いことを良くする目的で巻き乗り、半巻き、蛇乗りなどの回転運動の他、肩を内へ、前肢施回、後肢施回といった運動もいれていった（これは主に小野さんにやっていただいた）。

四月になり馬場が良くなってから障碍を始めたが、ライトは駈歩や障碍を入れるとたちまち興奮し、特に回転の後後肢がめちゃくちゃになってひっかかっていくという感じだった。左駈歩ではそれが顕著ですぐ不正駈歩になり、そうなるとますます興奮が激しくなる。その為、後驅が外へ逃げない様に内方姿勢を意識した輪乗りを繰り返した。

そして五月の半沢杯を迎え、準備馬場では小野さんに乗っていた。いつも通りの様に見えても乗ってみるとかなり興奮しているのがわかる。入場の時にもチャカチャカして落ちつきがなかったが、おさえようとすればケンカになってしまおうので早めにスタートを切った。ひっかかり気味で方向を指示するのが精一杯、速さに遅れまいと夢中になっているうちにゴールを過ぎていた。完全に馬が主体であり人の意志なんてどこにもなかった。

次の日高ケンタッキーファームの試合では小障に二回出て、どちらも三反抗で失権した。この時は半沢杯以上の興奮で、それをわかってやれない私とがまんできないライトが全くかみ合わず、ひっかけられたただだ逃げられまくって終わった。結果はもう悲惨の一語だが、この試合からの反省はその後自分がライトに乗っていく上でもとても大きなものとなった。それまでの自分の態度は、前へ行こうとするライトをただおさえようとするばかりで、自分の案なペース速さに無理矢理馬を合わせようとし、かえて馬のリズムを乱していたのではないか。馬は一頭一頭が違う様にライトにはライトの障碍をとぶペースやスピードがあるのではないか。もちろんそれは馬

が勝手に走って作るのではなく、人がその馬のペースを知り、自分の脚でそこまでもって行ってやるのだと思う。興奮して何もわからなくなる前に、走られる前に積極的に働きかけ、前へ出してみたら……そう考えた。練習中の駈歩や障碍もそれまでは腫れものにさわる様にやっていたがもっと時間をとり思いきりよくやる様に心がけた。そして左肩を逃がすことが多かったので左手には鞭をもつ様にした。

旭川の道自馬では婦人（一落）と小障（二反抗）に出場。この試合の反省点は何と言っても準備運動である。障碍にもっていくまでの運動にパターンがなく、何をどれくらいやったらいいか、全然わからなかった。そこでふだんの練習中も障碍に入るまでを準備運動としてパターンを作る様にした。だいたいの流れを書くウォーミングアップの後、常歩の輪乗りから始め、巻き乗り、半巻きなど回転図形を多く入れ、ある程度衝になじんだところで速歩に移る。速歩では歩様が細かくなりがちだったので一定のペースを保つことを第一とし、停止、発進を行ない、それから輪乗りをはずして直線、回転を繰り返した。輪乗りに戻り駈歩へ、速歩からの発進、常歩からの発進、停止からの発進を入れて、同じリズムの駈歩をめざし、輪乗りを離れて直線、回転の繰り返し。初めは一定のペースで行ない後に直線で伸ばし、少しつめて回転、伸ばして直線が続ける。落ちついてできる様になったところで小さめの障碍を入れる様にし、このパターンで少しづつ障碍の高さや数を増やしていった。実際の試合前の準備運動ではふだんより、ライトはずっと神経をとがらせているし、ちょっとしたきっかけですぐにでも興奮してしまふので運動の流れはほぼ同じだが得意なことばかりを多くやり、障碍も小さめのものを二、三回でやめ、はめまくって自分に対して馬に対して自信をもてる様に、と考えた。

それから出た試合と結果は次の通り。

公認 婦人 満点(一位) 小障

北日 婦人

道体 婦人 満点(二位) 小障

市民大会 中障 マイナス二・五

岩見沢親善 婦人 満点(一位)

試合を追うごとに段々ゆっくり回れる様になったと思う(見てい
る人は相変わらずだと言いますが)。反抗や逃避の原因は、障碍前
で先とびして衝をはずしてしまふ癖と逆に遅れて馬のリズムを崩し
てしまうことであつたと思う。それに縦ドラムに自分がこだわりを
もっていたことも一つにはあるだろう。

ライトは乗り手の一生懸命な気持ちによくこたえてくれる馬で気
性は激しいけれど、勇敢なという言葉がびったり合う馬です。膝の
骨瘤を三ヶ月で変形させ大きくするなど馬体的にはかなり無理をさ
せてしまいライトには本当に申し訳ないと思う。けれどライトに乗
れたことを感謝します。結果的には中障Bまでしかいけず、それも
二反抗の末だったけど、この一年は自分にとって有意義だったと思
っています。試合の一つ一つが終わるたびに色々な事を考えさせられ
反省し、またライトを通じて色々な人の話を聞くことができました。
一つ残念なのは、もっと早く馬を理解していたなら、シーズンが始
まるまでにやるべきことをやっていたらもっと色々な事ができたの
ではないか、ということです。

御指導くださった方々、特に小野さんには本当にお世話になりました。
ありがとうございました。

ドンホッパー号



騙 中半血 黒鹿毛
昭和46年6月30日生
勇別郡早来町産
父 オーシャチ(サラ)
母 ハゴロモ(トロ)

俗に名馬、北大の看板馬といわれている彼ではありますが、すで
に、馬生の下り坂にさしかかっている。いたわるべき老馬でありま
す。パドックでドンを呼ぶと、もうあちこちにしがのめだつから
だをふり向け、鼻をならしながら近よってくるかわいいやつです。
とはいえ、まだまだドンの時代は終わりませんヨ。ねえ、みなさん。

ドン・ホッパー号 調教報告

高 須 哲 男

一年間、部の看板馬、ドンホッパーを調教してきたわけだが、騎手の未熟さから、彼の実力を引き出してやる事ができなかった。中島兄なども書いておられたが、個々の試合が何よりも勉強になり馬について「わかった」という感じになったのは、九月になってからだった。(実は、まだまだわかっていないのだが…)八月以前と九月以後では、試合内容も練習の成果も全くレベルが違い、結局のところ、八月までは、自分は馬に対して何もしていなかったということである。

増田兄から引き継いで

調教責任者としてドンに乗り始めたのは、全日本馬術大会後の馬休が明けてから…すなわち、十二月になってからである。それまでは、九月の岩見沢の試合の前に四日間乗ったぐらいで、一年以上乗ったことがなかった。まして、ドンの良い状態というのを乗って実感したのは初めてであった。

この頃、増田兄には、毎日輪乗りで指導を受けた。ポイントは、側対扶助でなく斜対扶助であるから、当然、内方脚に対して外方手綱なのであるが、特に輪乗りの手前を換えたり、小さな回転をする時には、外方手綱は抑えというよりも「内方手綱より強く引く」という感覚であること…それから、歩度の伸展で、脚は添えるだけで必要以上には使わず、拳を前にゆずって頭頸を水平にまで下げさせ

歩度を伸ばすことであった。この二点は、「重要」というよりも、北大の他の馬と決定的に違うところであった。

調教を始めて

ドンに乗り始めて直ぐに、二週間の冬合宿に入り、毎日他の馬と乗り代わりながらドンと比較することができた。今更ながらこの馬の扶助への従順さには感心したが、気になることもあった。

まず、前後左右に軟い部類に入るのだが、左に対して右が随分と硬い。これは増田兄も留意していたし、以前から練習や試合を見てわかっていたが、横運動で顕著に現れた。特にアピュイエなどは、よほど注意しない限り反対姿勢に変えられてしまった。

障害に対しては、或る程度高さや幅のある物は随分と尊重するけれども、低障害は極端に馬鹿にする傾向があった。下級生を乗せている時など、始めは、平場の運動で緊張を作れても、障害を始めた途端に緊張がなくなってしまうことも、しばしばあった。馴致に関しては随分と進んでいたが、どちらかと言えば、乾燥などのように「嫌な物は、とことん嫌」のようであった。特に地面の変化への気のかい方は一通りでなく…もともと、それが障害への尊重へとつながっているのだが…街乗で横断歩道を渡る時も、あたかもキャバレッティを通過するように、そろそろと肢を運んでいた、雨上がりでアスファルトの乾いた所と濡れている所で色が違っているだけで、神経をとがらせていた。

また、どの馬の場合も多かれ少なかれそうなのだが、ドンの場合、運動が単調になるとすぐに飽きてきて、逆に、外乗や不斉地の通過などによって、割と簡単に気分転換ができた。

馬体に関しては、国体の頃から悪化した右肩が尾を引いていて、

緊張状態が崩れると、すぐに、カクン、カクンと走るようになった。これは一種の反抗なのだが、全く痛くない時は下級生を乗せようが、何をしようがカクン、カクンなることはなく、少し痛い時は緊張が不足していたり下級生を乗せた時だけなり、更に痛い時は放棄手綱で自由に走らせていてもなった。この頃は、雪が少しでも深い所での運動は絶対に避けて、運動前に充分馬体を暖めると同時に、札幌競馬場の瀬川さんに教えて頂いたエンブレーションや馬衣などで、夜も馬体（肩）が冷えないようにした。

日々の練習について

最初の頃は、馬に銜をしっかりとかますることが、仲々できなかった。小野さんの助言で反対姿勢の前肢施回をやり始めてから、だんだんとできるようになり、肩を内へと伴せてやることにより、どんな時でも確実に銜をかませれるようになった。前肢施回、肩を内へは、伴に運動の始め、一五分程常歩で歩かせた後に行なった。毎日だが、回数はできるだけ少なくした。殊に前肢施回では、その後も後も活発に歩かせることに心掛け、途中で停止がはいらないようにした。

馬が自分から銜を引いてくるようになったら、騎手は前方騎坐をとり、速歩に移った。最初は一定のペースで馬場を縦横に大きく走らせた後、伸縮を行なった。このような自然姿勢をとらせている時は、頭頸を水平にまで下げさせ、正反撞をとる時は、「人も馬も」二つの姿勢を区別するようにした。

調教審査の為の練習は、七月以降は毎日、岡田監督の指導を受けた。前にも述べたように、アピュイエでは右手前の時に反対姿勢に

換えられてしまい、これは、常歩からじっくり取り組むことにした。また、速歩発進で、駈歩発進のような感じで発進することがあったが、発進の時に両肩を手綱で抑えるようにすると、元に戻った。輪乗りでの回転や閉閉などは、常歩、速歩、駈歩で一通りのことができたので、通常の半分の大きさの輪乗りで、同様に試みたりもした。こうすると、右手前の硬さなど、欠点が目撃となった。

障害練習は、シーズンに入ってから極力少くした。前に述べたように、ドンが障害に対して飽きてきているので、毎日のように飛越しても、馬鹿にするだけである。そこで、自分の飛越練習の範囲に留めた。但し、近年、試合での飛越で一歩入ってから、ボコッと跳ぶので、遠くから踏み切らせるよう心掛けた。ドンは、障害の踏み切りを自分で合わすのだが、踏み切りが合わない時、以前は遠くからスパーンと踏み切っていたが、最近では障害直前で一歩入る事が多くなってきた。そこで、低障害では騎手が踏み切りを合わすようにした。（無論、一歩入る時だけで、馬が上手く踏み切りを合わせた時や高い障害では、全て馬任せである）それから、障害に向かった時の前進姿勢を最も大切にした。

実際の練習方法としては、速歩または駈歩で伸縮を繰り返し、次に、伸ばす時には正面に障害があるようにする。ドンの場合、最初に述べたように、脚を一所懸命使って伸ばすのではなく、拳をちょっと緩めるとブツ飛んでいくので、そのまま障害に向かかっていく。きれいに飛んだら、必ず愛撫またはエサ。たいてい、速歩飛越から始め、きれいに飛んだら直ぐに駈歩にした。高さ一三〇センチのオクサまでなら速歩で飛んだ。駈歩にしたら、経路走行を想定して馬場にある障害を一通り飛び、問題が無ければ、あげるか外乗に行った。

東日本馬術大会の前から始めた練習は、特に効果があった。駈歩で四歩ごとの伸縮を行い、時々、中に障害をはさんで、飛越したらすぐに歩度を縮め、また伸縮を繰り返すというものである。ドンのように障害につっこんでいく馬には、実践的な練習である。

試合当日の準備運動

シーズン最初の半沢杯では、ドンにしては試合前数日間の練習量が多すぎた。この馬の場合、試合前数日間は全く乗らないか、常歩のみに留めておく方が調子が好い。一番調子の良かった東日本の時は、輸送に日数がかかったこともあるが、六日ぶりの騎乗であった。

また、試合当日であっても、練習内容は全く変わりなかった。障害の試合であっても、最初に前肢施回と肩を内へを行なって、斜対扶助への従順さを確かめた。障害飛越もできるだけ回数を少なくし、1メートルか、1メートル10ぐらいの高さを速歩、駈歩で飛ばせ、綺麗に飛んだら常歩にしてやった。放棄手綱の常歩でずっと歩かせておき、(但し、脚への反応は時々チェックする)自分の出番の二人前が入場するところに、衝をかまして駈歩飛越を行なった。試合当日も、障害に向かった時の前進氣勢を一番大切にした。

調教審査の準備運動は、仲々自分のスタイルを見つけれなかった。しかし、細かい運動を一切捨てて、常歩での二蹄跡と速歩・駈歩での伸縮によって、前進氣勢のみを求めた、全日学の調教審査が、一番まともだった。

試合について

自分で満足できる試合というのは、皆無に近い。東日本での全試

合、全日学での総合と障害の二走目、全日本の内国産が、見られる試合だったと言えよう。

東日本以後改めたのは、馬が障害につつまないように、抑えて抑えて経路を巡るということだ。それ以前の試合では走らせ過ぎた障害間をできるだけだけつめて、一つ、二つと飛ばせていっても、周囲から見ると流れるように飛んでいくのがドンである。

東日本の経路は凝っていて、コースビルダーが何処で落下させようとしているかが良く解り、飛んでいて非常に楽しい経路だった。このような、馬の飛越能力よりも騎手のコントロールの能力の比重が高い経路を経験できたことにより、非常に有意義であった。

東日本の連続障害間が7.5メートルとか7.0メートルであったのに対して、全日本では間隔が公表されておらず、アホな私は馬に任せることにした。

東日本は下村弟と二人旅+ドンだった。全日本は一年生三人を連れていた。主将の任期が終った途端、成績が上がり、周囲の部員が少い程成績が良いというのが、試合で勝てなかった真の原因を如実に表している。

最後に

岡田監督、小野さん、増田兄には本当に御世話になった。試合を見ながら、随分と歯がゆい思いをされたことだろう。期待に込められずに申し訳ないと思う。また、直接お会いして、その馬術を目の当りにしたのは一度だけだが、不二牧場の杉山氏にも、その著書を通じて随分と御世話になった。『馬事雑話』は常に私の教科書であった。(参考書では、なくて)

そして、無論、「最良の師は馬」であった。ドンは本当に、いろ

いろな事を教えてくれ、よく頑張ってくれた。殊に、全日学の耐久で裂蹄がひどくなり、血がにじむようになっても、余力、全日本と頑張ってくれた。結局、一度も跛行しなかったのには、診察してくれた獣医さんのみならず、私も驚いた。

最後になったが、全日学が終ってから全日本までの間、ドンと私達を居候させてくれた神戸大馬術部の御厚意も忘れられない。裂蹄の為、試合直前まで常歩しかできず、あまり乗って貰えなかったのが残念だ。

ドンも、もう一四才。森田弟が全国制覇するのを祈って、筆を置くことにする。

旭川で自馬体ノ馬運車に乗りきれなくて、みんな交通費にあせる。高田はなやんだ末、結局、長ぐつで札幌駅へと行きました。

☆6月24日当番日誌より☆

今日の夕食会はジンギスカンに決まった。それなのに半田は、豚肉を買ってきた。

☆6月26日当番日誌より☆

北 姫 号



牝 サラ 鹿毛
昭和49年3月27日生
静内郡静内町産
父 アステック
母 ヤマニンザザ

ミヨコはとても感情表現が豊かな馬です。「ミヨコノ」「ミヨブー」と呼べば、彼女によって顔中へちよべちよになりまます。鼻振でいじめられた後は、いくら呼んでも尻しか見せてくれません。普段ヌボーとしてゐる割には憶病なところもあり、なんとも愛らしい奴です。

北姫号調教報告

町 田 雅 人

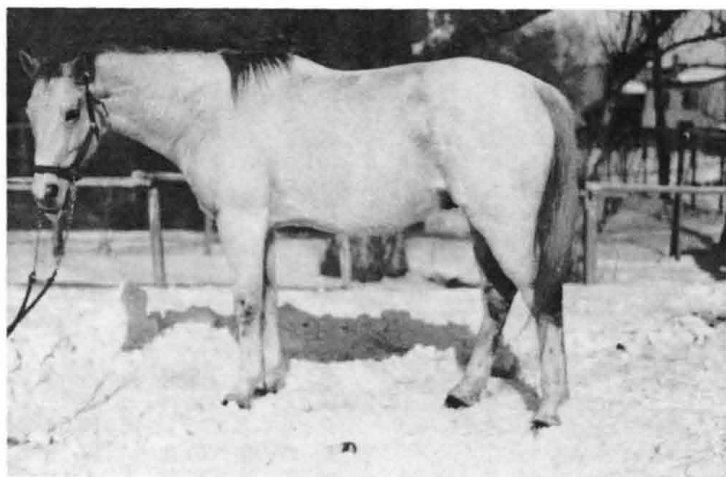
2度目の調教報告ですが、昨年の調教報告を書いたのが、確か、5月か6月であったので、今回の調教報告は3〜4ヶ月間の短い期間のものとなってしまった。

昨年の部報にも書いたように、冬から春シーズンにかけては、たいへん順調であった。しかし、この時期に、もっと濠の馴致をやっておくべきだった。これがまず失敗の第一歩である。毎日の練習の中でやっていたものは、低障害の飛越を含む、やわらかい口向きでの、平場の運動を確立することである。このころは、常に、馬の気持ち、状態を考え、人間本位にならず、馬が気分よく運動できるような心がけた。このころは、明らかに、人馬とも、同じ道の上を進んでいる感じがしたし、6月の始めのケンタッキーの試合まででは、馬の状態は、非常によかった。

しかし、北日学が近づくにしたがって、頭の中に、「権利」の二文字がちらつきはじめた。このころから、人馬ともに進んできた道はずれ、人間だけが、「権利」の二文字に向かって暴走を始めた。当然、毎日の練習の中にも、異変が現れた。しかし、それに気づきながらも、暴走は止まらなかつた。そして、帯広の公認大会で、花だんの込った乾濠をまったく飛ばなかつたことから、これと同じものを、北大の馬場に作り、これを強引に飛ばしてしまったことよって、人馬の信頼関係はパー、リズムはメチャクチャになってしまった。いや、それ以前にそうなっていたのを、人間が認めるのを、恐れていただけかもしれない。このような状態であったので、北日

学では、奇跡に期待するしかなかったし、当然、奇跡は起きなかつた。

以上で、ミヨコの調教報告は、終わりますが、この馬に乗って一番感じたことは、常に馬の心理状態を理解し、尊重してやることだと思ふ。調教の目的は、人間の要求を、馬に理解、納得させ、要求通りの行動を、馬に快く起こさせることであって、決して、強制させるものではないと思ふ。試合の場内においては、強制は許されることであるが、調教においては、人馬の信頼関係を確立しつつ、馬の自主性を発展させることに重点をおくべきだと思ふ。どんなにすばらしい騎手が乗っても、目の前の障害を飛越しようと思断するのは馬であり、その決断力は、人馬の信頼関係によって引き起こされるものであると思ふからである。



騙 サラ 芦毛
昭和49年2月14日生
浦河郡浦河町産
父 フォルティノ
母 マツノミドリ

北将号調教報告

世良健司

将介に乗ったのはわずか九ヶ月間だった。現役時代は、あまりに時間が短いことにあせりを感じたが、将介を引き渡した時、この九ヶ月の重みがひしひしと感ぜられた。そして、今、やはりこの九ヶ月は短か過ぎたように思われてならない。

将介は、馬場では非常に落ち着いて運動し、性格は素直で我慢強かった。そのためもの覚えがよく、実に乗り易かった。ところが、あのヤクザのような白日、太い馬格から受ける印象、すなわち太い神経をもち、向かうもの敵なし、といったような印象は実は印象ばかりで、非常に気の弱い一面をもっていた。外乗での興奮は、何かに対する恐怖からくるのではないか、としばしば感じられたし、彼に乗っての初めての試合でも、入場した途端に騎座から伝わってきた激しい鼓動には驚ろかされた。この馬場での状態と試合での状態とのギャップには後々悩まされた。

将介に乗り始めてからの二、三ヶ月は、ほとんどが外乗だった。なるべく毎日場所を変え、雪が積もった朝はなるべく多くの道路を走った。外乗を重点的に行ったのは、試合上で過度に興奮しやうい将介の馴致のためであり、また反面、興奮した状態を知るためでもあった。

外乗では、運動が続くにしたがって興奮状態がエスカレートしていった。頸を折って銜をかみはするのだが、異常な程に強く銜にてきて、じりじりと手綱をとっていった。この際、手綱をゆるすと突っ走り、押えるとかかかってくるという状態だった。そんな状態で

僕、シロくんです。Gentleシロくんです。僕はヤクザから足を洗いました。今では、部員のみなさんに好感をもたれています。僕は一日中ゲップをしてくらしします。首の所には酷癖バンドの緑色がしみついていきます。背中がいたくてみなさんに乗せられなくてすいませんでした。けれどももう大丈夫ですよ。冬の間貯えた力を春から出してみせましょう。では試合を楽しみにしてください。試合ではGentleシロくんになれるかどうか不安ですが……

力ずくで伸縮運動を続ける中、自分の拳の堅さを意識するようになった。それ以後、軟らかい拳で受けられるように気を付けて外乗を続けたところ、徐々に拳をゆるずることができるようになり、それに従って軽い衝受けで伸縮運動ができるようになった。

二ヶ月程、このように外乗中心の運動を続けたが、外乗だと興奮して、脚を受け入れずに馬なりに走られてしまい、又、体を堅くして運動に幅をもてないため、馬場内での運動に重点をおいていた運動は、主に単独脚によって左右の脚の区別を明確にすることと共に、横又は前後への柔軟性を養うことを目的とした。内容は、埒を利用しての反対反巻、前肢旋回、二蹄跡運動などで、なるべく分かりやすいように脚を使った。二週間程で徐々に左右の脚を区別できるようになり、脚と拳との関連もはっきりしてきた。また、このころから回転で内方脚による推進を外方手綱で受けることができるようになり、かねてから気になっていた左衝にかかる癖も、これによってさ程気にならなくなった。また、常歩においては、斜対扶助がはっきりしてきて、左右それぞれの拳と、それに斜対する脚との関わり合いがはっきりしてきた。

雪が消えて土の上で運動ができるようになる頃には、馬場でなかなか良い状態へもっていきけるようになっていた。四月に北大の馬場で行った経路回りは、やや興奮状態にあったが、軽い衝受けで歩度をつめて前進氣勢をためることができ、軽く脚をさえれば前へ出た。アプローチに入ってから誘導ミスで踏み切りが安定しなかったが、自分としては将介に乗った九ヶ月間の中で、あの時の経路回りが最も良かったと思っている。しかし、その数週間後に出場した半沢杯で自分の甘さを思い知らされたのである。

準備運動では、なかなか落ち着いていたが、入場した途端に頭を上下に振り、逃げようとした。首を下方に伸ばして手綱をとってか

かり、突っ走った。正直いってあの時程ショックを受けたことはなかった。あれ程までに馬が何ものかによって変わってしまうものか、ということと、自分が感余って犯してしまった愚行に対して。

恥ずかしながら僕は北将に求めはしたが、受け入れてやるうとはしなかったことに気づいた。知らず知らずのうちに、力まかせで乗れる、という愚かな自信を持つようになっていて、将介の訴えをはね返し、服従させることばかりが頭の中にあっただ。したがって、突っ走ろうとする将介に対して前を押えることしかできなかった。そもそも馬に勝とうとしたって勝てるわけがない。ましてやあの馬鹿力の将介である。譲り合い、受け入れ合いながら人馬一体が達成できるのだ。しかし、そのような当たり前とも思える考えも、試合上で人の扶助をはね返して、逃げだすことに専念する将介の状態から、どうやって接点をつかんでいきけるのか分からなかった。

この接点をつかむきっかけとなったのが、旭川で開かれた自馬大であった。この試合では、試合場で多くの馴致が必要であると考え、計四つの種目にエントリーした。とにかく、一度でもよいから落ち着いた経路回りをして、良い印象を与えることと、馬を信頼した経路回りができるよう心掛けた。

旭川へは、試合前日に入厩した。前日のうちに出来るだけ試合馬場周辺で曳き馬、又は騎乗して落ち着かせることに努めたが、馬場に設定された試合場の雰囲気を感じ取ったのか、頭を上下にふってあばれた。試合では、矢張り興奮して手の内に入れることが困難であったが、障害に向けてからはいくらか突っ込もうが全て馬にまかせた。将介の障害に対するこだわりは大きかったが、真直ぐ向けてやれば逃避したり拒止したりすることはなかった。飛越後はもっていかれる恐れがあるので、埒を利用して経路をとった。そして、なるべく淡白な衝受けができるように、瞬時的な拳の譲りを繰り返した。

歩度をつめ、回転に入る際、ふっと落ち着きを得る様子がみられ、手の内に入ってくるものがしばしばあった。ゆるし過ぎた面もあったが、この試合で今までとは違った角度から馬を信頼するということがつかめたような気がした。半沢杯のような状態では、馬を信頼するということが非常に困難であると信じ込んでしまっていたが、この試合で将介のような興奮性の強い馬に対しては、逆に信頼してやるのが非常に大切であることを悟った。

旭川での自馬大を転機に、試合に対するこだわりが解け、気持ちにゆとりがもてるようになってきた。が、ほんの糸口をつかんだだけだった。頭をいためたのは馬場だった。それまで、試合で調教審査、二課目の経路を回ったが、いずれも極度な興奮状態で体中を緊張させて、体を縮ませて歩様は目茶苦茶だった。これも騎手が前を押え過ぎている、とのアドバイスを受けたが実際になるとすすべがなかった。

自馬大以後、帯広での公認及びそれに続く北日本まではほとんど自馬大以前の運動内容と変わりがなかった。週に二、三回、農場で運動し、馬場内では必ず一日一度は強い緊張状態をつくるように心掛けた。興奮して障害に突っ込む時は障害間を長くして、前進氣勢をためながら充分に歩度をつめて次の障害に向かった。この時、絶対に引っぱり合いをしないように淡白に衝受けができるよう努力した。これができるようになったら障害を連続で飛ぶようにし、徐々に数を増やすようにした。

北日本が公認の後に行われたのは人馬にとって幸いであった。馬にとっての馴致になったことは勿論、人間の方が今だ？回しか試合を経験していなかったため、なによりも人間の馴致になった。北日本の結果は二回走行が十三位、総合が十四位だった。

経路走行の内容は、数をかさねることに手の内に入るようになり、

良くなっていった。その中でも、北日本の最終競技だった余力では障害による失権がなく、自分なりにまあまあ充実した走行だった。そこで、余力で注意したことを以下に記しておく。

まず、準備馬場に入る前に将介を落ちつけるために馬場の周りで常歩を充分に行った。その際、なるべく軽い脚を使い、口をさわって顎を折らせながら停止・発進・後退を繰り返した。顎はやや巻き込みかげんでもよしとした。準備馬場では普段の練習と同様な運動をし、その合い間に常歩による沈黙運動を入れた。

入場すると、矢張り興奮して頭を上下に振って衝をいやがったが、声をかけながら常歩でゆっくりとスタート近くまで行き、なるべく早く敬礼を終えてスタートを切った。経路は、飛越後の回転から障害までの距離が長い時は、アプローチを長くとり過ぎないように早めに回転して障害を見せないようにした。障害に向けたら変に口を邪魔しないよう障害をよく見させて、馬の判断にまかせた。障害前では、肩から逃げられないように拳を下げることに、脚をきちっとそえておくように努めた。

飛越後の誘導には特に注意した。まず、飛越後すぐに回転を要する時は、やや外にふってから内方脚を強めに使い、内方は開き手綱を使って方向を指示し、外方拳はさげて、やや強めに受けた。また、飛越後はわずかながらでも必ず一端歩度をつめてから回転に入った。これは、特に罅に対して斜めに向かってから内への回転を要する際や、出口近くの回転などで外にもっていかれる恐れがあったからだった。さ程走っていない時でも、このような状態でそのまま回転に入るといくら外方で押えても強引にもっていかれてしまった。飛越後、以上のような点に注意したところ、比較的スムーズな回転が可能となり、また、回転に入ってからふっと落ち着きを得る場面がしばしばみられるようになった。

最後に、ゴールを切った後は、失礼と思いながらも審判員の注意を聞き流して、常歩でゆっくりと馬場内を歩き、落ち着かせながら大回りをして出口に向かった。

以上、馬場内での障害は、なんとか手の内に入れて走行することができるようになってきたが、ステイプル(道体)では完全に手の内からでてしまい、野生馬が草原を疾走するとき光景をみせてしまった。したがって、ステイプルに関しては何も語れない。

将介に乗った九ヶ月間。やはり短かすぎた。数多くの反省の中には、少なからずこのことによる影響が含まれている。最も根本的な問題を無視して乗ってきたことを否めない。はっきり言って僕の場合、将介を落ち着かせて走行させることよりも、将介は興奮する馬だ、と認めてしまった上でどう乗りこなすか、ということしか考えていなかったような気がする。これは、最後まで障害前で輪拍を使い、興奮させて障害を飛ばしていたことから感ずるところである。これは、将介の将来性を考えると、あまり良くないことだった。将介のため、部のためには、もっともっとじっくりと乗っていかなければならなかったと反省している。しかし、九ヶ月という月日はあまりに短か過ぎた。

最後に、将介のことでいろいろと御指導して下さいました半沢先生、岡田監督、そして小野さん、有り難うございました。特に、岡田監督と小野さんには、自馬大の時素晴らしいアドバイスをいただき、感謝しております。また、四年間、馬たち、そして私たちを支えてきて下さった小池先生をはじめ、OB諸氏と現役の皆様にご改めて御礼申し上げます。

北 騾 号



騙 軽半血 黒鹿毛
昭和51年2月23日生
北大馬術部産
父 ドンホッパー
母 羊蹄

今日も厩舎の一番奥で、前には3本の馬栓棒をかけられ、飼いを食っている。生まれも育ちも北大という、北大の箱入り息子。そのため、彼は人間にすこぶる好意をもっており、自分を人間と同等かそれ以上に思っていることはまちがいありません。彼の目を見て下さい。あの思慮深い瞳の奥にはいつも、飼料庫のヘイキューブでもうつつているのでしょうか。

北騮号調教報告

平石哲生

一昨年九月より、平田姉に引き続き北騮号の調教を始めました。一年間やり終えてみて、その結果は自分なりに納得のいくものであったと思います。

以上大きく段階に分けて書きますと

△一昨年九月～昨年一月▽

引き継いですぐは、扶助に鈍く馬体は伸びたまま、加えて人間の方で馬の理想的な状態、調教の方法が解っていない。毎日独自の工夫を凝らしながら、暗中模索しているという感じでした。

そういえば、千葉さん来札の折に乗っていたら、その直後乗って見たら、人の命令を聞こうとしている態度が感じられて感激しました。その当時は、はみ受けなど全然解かりません。

△昨年一月～五月半沢杯▽

年が明けてから石符乗馬クラブで布浦さんに教えてもらい、調教の方法（内容、懲戒の仕方、愛撫等）や、馬のいい状態、正しい扶助が、少しずつ解かってきました。また岡田監督や小野さんに乗ってもらい、様々のアドバイスを受け、二蹄跡運動のきっかけも作っていただきました。ここで僕の方も、馬を変えることがやっと出来かけた、というところです。正しい内包姿勢や顎を譲って後肢踏み込む感じ等、様々の事が感じられるきっかけとなつた大切な時期でした。

△五月日高馬術大会▽

この馬に乗り始めてから向かえた最初の外での試合が、五月の

日高での親善大会でした。第一試合のクロスカントリー、第二試合の小障碍では、馬のあまりの変化に驚ろきました。頭を上げはみを引かず、スムーズに扶助に従わない。また逆に、ちょっとしたバランスの変化、拳の動揺に対し、極端に反応するといった感じでした。騎座、脚をきちっと添え、拳は低く静定し、それにより顎譲らせ頭下げさせ、しかもはみを引かせるよう練習せねばならないと、身にしみて感じました。

その後いろんな試合に出てこの馬の弱点と思われた、連続障害、向こう側の見える障害を併せて練習し、シーズン終わり頃には小障碍なら絶対ゴールできるという程度にはなりました。

たいした成績は残せませんでした。その内で北日学の耐久でゴールを切った事と、道体の調教審査で五位に入れた事が、些細ですが自分の一年間の調教に満足感を与えています。

結局のところ、未熟な自分達の段階では、人の方がどれだけ理解し上達するかが良い成績に繋がってくると思います。もし、今出来る事が調教の引き継ぎ当時に出来ていれば、どれだけ結果が変わっていたかと想像する次第です。

半田が、昼当をサボった。これでまたケーキが食える。わしがあやうく、放校だった。（平石兄）放校になるといううわさもある。（A）きつとなるだろう。（B）

☆2月16日当番日誌より☆



驢 サラ 栗毛
昭和51年5月12日生
新冠郡新冠町産
父 アストラル
 グリーン
母 ハーバーガール

この前の全日学では髪をあんでもらったし、厩舎に帰ってからは、モヒカンも経験したし、いろいろチャレンジしてるんだぜ。ちと顔が大きいとか言う人もいるけど、キリリとしたモヒカンだって似合ってただろ？来年だって馬事公苑に行つて、北大のために活躍してやるつもりだから期待してくれよな。

まだまだ若い、(ポストドンの)ギャラン君の自己PRでした。ブラシかけも今は必死におとなしく耐えるけど、わんぱく坊主のイ

出 世 念 児
記 念 品
手 拭 品
タ オ イ
メ ロ フ
バ ッ プ
カ ツ
附 属
腕 旗
幕 章

元 販 売 製 造 種 各

元 発 売 器 揚 掲 旗 国 式 禮 山

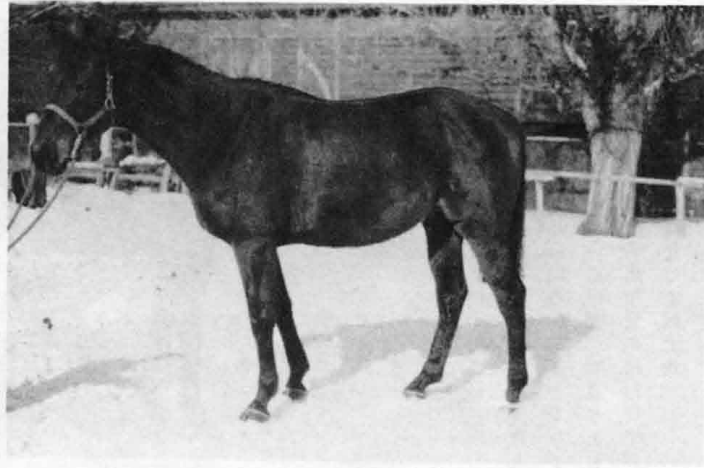
株 式 会 社



山 禮

〒060 札幌市中央区南1条西7丁目
札幌(011)大代表241-1641番
受信略号 「サッポロ」ヤマレイ
取引銀行 拓 銀 本 店
振替口座 小 樽 2 9 0 9 番

メージの残るかわいい奴です。



父 サラ 鹿毛
昭和46年3月17日生
浦河郡浦河町産
母 タマホマレ
父 ヘンリー ヒギンス

”のえる。わしはお前が好きなんや。ほれとるんや。お前が人妻で息子が一人おる事はよう知っとる。それを承知で好きになったんや。ルーキーとの友情もこの際かまへん。なあ、ちょっとはふり向いてくれや。なあ〜!”

結局、ふられてしまったピー助。残るは、全日学で勝つしかない! その時こそノエルが……。と大いなる希望を胸に秘めて日夜がんばっています。

僕とピーターの馬術部顛末記

(調教報告と呼べなくて……)

野 中 道 夫

帯広で、おまえと共に走る最後の道を絶たれてから半年が過ぎた。それは、僕にとってあまりにも唐突で、予想外の事だった。あの時、おまえの体はガタガタで、僕の心はポロポロになった。おまえの可能性を引き出してやれなかった慚愧の念で、もう二度と馬に乗るまいと思ったのだが、半年が過ぎ、どうやら馬から離れられないようだ。

北大の馬の障碍に対する素直さは、評価されていると思う。それは、調教に関する北大の良い伝統が、まだ残されていると考えていいだろう。ただ、その半面、障碍前で必要な時でさえ推進を忘れがちであり、また推進できないという問題がある。馬が普段、比較的素直に飛んでくれるので、それに慣れてしまい、ただ乗っているだけという状態になっている。そして、試合などで馬が躊躇した時、なすがままに逃避、拒止されてしまう。馬が、どんな種類の、どんな障碍でも躊躇なく飛んでくれるならいいが、そうはいかない。そのような馬に少しでも近づけていく事が調教のひとつの目標だと思ろが、その課程において、馬の状態を的確に判断する事と、必要な時に脚を使えるという事は、絶対必要である。練習中には飛ぶが、試合になると飛ばない馬がいたとしたら、ひとつは馴致不足が考えられると思うし、もうひとつ普段の練習において馬の反抗を見のがしているからだと思う。必ず、なんらかの徴候を示しているはず。その馬にとって適切な進度、馬を障碍に集中させるような緊張、脚

の使用が必要だと思う。ただなんとなく飛べる障碍を、なんとなく飛んでいるだけでは進歩はない。

障碍前で脚が使えないという点が、いつも問題になるし、それが僕の欠点のひとつだった。なぜか？鑑挙げのトレーニングが、たりなかったからか？騎座に対する考え方が誤っていたからか？違うと思う。もちろん体を起こし、腰をつければ脚は自由になり、より強力な推進が可能だろう。しかし、貸与馬戦時代ならいざしらず、現在は、自馬による競技である。合理的な障碍騎座と大胆かつ沈着な飛越馬の調教をめざすべきだ。馬とバランスを一致させ、馬の動きと一体化する事、さらに有効に扶助を与えられる事。そのような騎座姿勢の模索と合理的なトレーニング、そして調教。学ぶべき事はたくさんある。とは言うもの現在、最も問題なのは自己流の横行とそのための馬の調教、下級生の指導の不徹底である。三年目を中心に、一本化をめざしているようだが、前途多難であろう。しかし、乗り越えなければならぬ壁である。長々と一般論を書いてしまった。そろそろ北耀号について書く。

結果から言えば、一番大切な競技会で、ことごとく失権してしまった。僕自身の技術の未熟さが大きい事は確かだが、今年なんとかしなければ後がないというあせりで、体調の万全でないあいつを酷使した事が、春からの登り調子をなし崩し的に落したひとつの理由だと思う。調教を流れの中で大局的に見る。そういうも主張してははずだったのに結局は自分でやぶってしまった。13歳という年齢団体を組むという責任。クラブの方針の事。そして何よりも、僕には、あいつしかいなかった。

冬。馬体に命を吹きこむ事ができない。動きがぎこちない。速歩の伸張が特につらいのか、歩度を伸そうとすると、ぎくしゃくと駆歩に逃げる。下級生では、まったく運動にならない。馬術受けだと

か、柔軟だとか言うどころではなかった。せめてもと、放棄手綱でできるだけ伸ばとした運動を心掛ける。

右肩跛行悪化。馬休をかねて、クレイン大阪へ二度目の訪問。自分なりに確信を得て帰札。札幌も、いよいよ春。馬体が、良かったからか、暖かくなってきたから肩の調子も、まずまず。長鞭を使って脚に対する絶対服従を要求。かつ駆歩では完全に腰を浮かし、馬体に完全な自由を与えるように騎乗。ひとつひとつの飛越を大切に行う。絶対、いいかげんな飛越はさせない。歩度を馬にまかせると、緊張不足となるので、脚を使い、すこし速めの歩度を要求。日毎に馬自身が最適の歩度、踏切りを覚えていくのがわかる。馬体もしだいに柔くなっていく。とは言え、運動は一日おきが限界。それ以上では目に見えて跛行が悪化した。本来、長期的に休ませてやるべきだったのかもしれないが、あいつの馬体管理についてだけは、自信があった。悪化させずに騎乗し、徐々に調子をあげていく自信があったのだ……。

そして半沢杯。まだまだ人馬共、付け焼刃で一定のペースで経路を回れない状態だった。ペースが遅く、障碍前で追いすぎる。若干ペースをあげれば、もっと楽に回れるはず。内容は不本意だったが、結果はタイム減点のみで2位。

その後、障碍前であまりうるさく脚を使わなくても、いいペースで障碍に向えるようになっていき、日高ケンタッキーでの競技会から、旭川での自馬大の頃が絶対調だった。この頃は、あいつに乗ってれば、どんな障碍も小さく見えた。飛べる気がした。経路を回るのが楽しくてしかたなかった。柔く、ダイナミックな駆歩と、体全体を使った飛越、障碍の尊重。あれを維持し、伸してやれなかった事が悔まれてならない。

どんなに注意しても事故は起きる。これからという時、放牧中に

怪我をする。昨年、苦しめられた冠膝の古傷である。埒にぶつけたのか再び傷が口を開けていた。目の前が真暗になった。幸い、感染は防ぐ事ができたものの帯広の公認まで運動という運動はできなかつた。そして公認。なんとか競技に出たものの、ハンティングは力つきて途中で、三反失権。人間が最後まで集中力を持統できなかったせいである。中障は、ベル前スタート。そして強引に出場して、まったく力が及ばなかった大障。あせり以外の何物でもない。一片の弁解の余地もない……。それ以外にも、問題は次々と現れてきた。障上で脚がひけるため、着地でつぶれ回復が遅れる事。回転などで強引に歩度を規制しすぎた事。脚に比べて拳が極めて荒かった。

帰札後、全日本の出場が不可能となった事と、跛行の悪化で、あせりは頂点に達したようだ。公認の敗因は、はっきり言って、ほとんど人間の責任であり、今さら調教、運動のペースを変えるべきではなかったはずなのに、鎮痛剤を飲ませてまで運動をしてしまった。今思えば、なぜあんな事をしたかわからない。結果は当然の様に無残だった。北日学でゴールをきれたのは、結局ステイブルのみ。悉く失権した。連続障障がどうしても飛べなかった。中障B程度でさえゴールできなくなっていたのはショックだった。試合が終り、あいつは、ほとんど速歩さえできない状態となり、もう共に走る事ができなくなっていた。ただ、そのような状態でゴールしたステイブルは、すばらしいの一語につきた。本来、バンケットなどを不得意とする馬だったし、人馬共に初めての経験だったので不安があったのだが、そんな不安はすぐに吹き飛んだ。下見の時に大きく見えた障障を次々と通過していく。一瞬ためらっても、脚を使うと障障をぶちこわしても通過する。まるで一迅の風のように草地を、林を、川を駆け抜けていく。あの体の弱い馬が……。何度、もうこれ

充分だと止めようと思ったかしのれない。胸が熱くなり涙が止まらず泣きながら乗っていた。もうこのまま死んでもいいと思った。あいつは最後まで駆けた。誰もいないゴール。鞍を降ろし、あいつの汗でグショグショの頸に抱きついて何度も何度も愛撫した。ごころろろさん。ありがと。そして泣いた……。

僕が、あいつと共に過した3年間は調教などと呼べるものではなかったかもしれないし、気持ちとしては、そう呼びたくもない。あいつは僕の親友であり、弟であり、息子であり、恋人だった。そして共に同じ目標に向かって歩いてきた。馬術とは言えないかもしれないが、そんな馬とのつきあいがひとつくらいあっても、いいような気もする。あいつとの出会いを与えてくれ、ぼくのわがままを見守ってくれた多くの人々に心から感謝します。

現在、ピーターは、2年目の山田弟が騎乗しています。あいかわらず、あちこちに故障をかかえ、彼も僕と同じような悩みを持って乗っているようです。あいつは、小栗さんのおかげで僕等が考えている以上に、いろいろな事を知っています。また、利口で、物覚えが早く、正直で、勇敢です。大切にしていれば、きっとたくさんの事を教えてくれるはずだし、答えてくれるはず。思いつきやる事は必要ですが、無理をして僕の二の舞を踏まないように。それだけが心配です。

僕にとって四年間は、あまりにも短く、馬術を、馬を知るのにはまだ半分ばかりそうです。至らぬ僕をここまで指導して下さった監督、小栗さん、そして多くの先輩方に感謝いたします。これからも御指導ください。共に歩んだ四年目のみんな、下から支えてくれた下級生にもお礼を言わなくてはなりません。

そして、そして……ありがと、ピーター。



騙 サラ 鹿毛
昭和53年4月27日生
静内郡静内町産
父 ホープフリーオン
母 クイーンマリーナ

北紫雲号調教報告

平 山 復 志

北紫雲号は昨年度一回岩見沢の親善大会に出場（失権）してはいるものの、本質的には今年デビューした新馬であります。昨年は、井上兄が調教しておられ、今年は僕が下について二人で調教してきました。脚への敏感性、踏切の安定、頭頸の伸展低下、など考えて調教してきたつもりですが、目標を目差してきたつもりが、から回りを続けてきた気がします。計画性のない調教となってしまう、というところを自分から馬がどう変化していった、というようなことを自分ではっきり感じることができぬまま、一年が過ぎてしまいました。

「調教報告」とは言えませんが、北紫雲号が今年一年、どのような経過をたどっていったかを書きます。

半沢杯では、小障に井上兄、森田兄、僕と三人が出場しました。結果は三人とも満点。少々びくつき、右回転に反抗的であるなど欠点も見られましたが、まずまず素直で、人間の方に意識を傾けていてさほど問題もないように思われました。

次に行なわれた日高ケンタッキーファームでの親善大会が、北紫雲号の最高の試合だったので、その後にくずれていくきっかけともなった試合でした。

この試合でも小障に井上兄と僕が出場しました。井上兄は満点、僕は完全に人間のミスで反抗と巻乗をとられて二反でした。その後井上兄はパラージュに出場し、途中一落下したものの良いペースで走りしました。ところが最終の三連続のCで、踏切も完全に合って、

奴だ！奴が来るぜ！そうよモヒカンたてがみをふりかざし、鋭いキバのあいっだぜ。

飼付けだ！奴の飼おけだけには手をふれるな！奴の飢えた前歯に血をつけるのは馬房の前を通るだけで十分だぜ。

おっと耳を伏せたな！後に気をつけろ！ただけど地獄へ急ぐんだったら奴のケリが三途の川の渡しになつてくれるぜ。

うまく飛越したように見えたのですが、前肢を少しひっかけたのか信じられないような人馬転を起し、通過にはなったものの二落下一落馬という成績に終わりました。結果は今一つだったものの、この試合では、馬が実に素直で我ながら驚かされました。この後僕は新人新馬に出場する予定でしたが、準備運動中に再び人馬転を起し、跛行が見られたため棄権しました。今思えばもう一度同じ馬場で飛んでおけばよかったと思うのですが。

その後、北大に帰ってから、ついたてを飛越中また人馬転をし、それからは、ついたてのような垂直障碍は恐がるようになりました。北大の馬場でも止ったりすることが見られるようになりました。

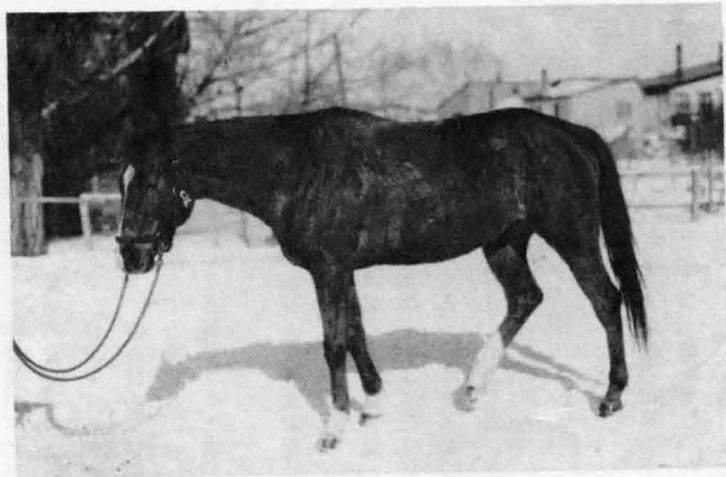
これらのことがきっかけとなり、次の試合以後は試合場に入るのをきらい、入ると狂奔するようになってしまいました。そのため、そのような行動がくせになる前に直してからと思い、今年の北日、道体は棄権することにしました。今シーズンは結局そのようなことを直すことができないまま終わってしまいました。このような状態になったのも僕の騎乗態度があやふやであり、何をやらせたいのか、そのためにどういう方策を取るのかをはっきりさせられなかったためと反省しています。

来年も僕が調教することになるのですが、今年のような失敗を二度と繰り返すことのないよう、一から始めるつもりでもう一度やり直そうと思っています。

今朝は降ったりやんだりで、チーフが現われるかどうか、実に不安だった。平山兄、ありがとう。

☆5月18日当番日誌より☆

烈々風号



騙 サラ 栃栗毛
昭和52年4月26日生
静内郡静内町産
父 ダンシンゲ
キャップ
母 ルーキ

ルーキーは、ボンボンです。ブラシは大嫌い、治療也大嫌い。しかし、「ルー！」と呼ばば、びよこびよこやってきて、餌をねだるし、怒ると、きちんと音無しくなります。

佐藤姉・岡田監督・世良兄・森田兄、と多くの部の人々のエネルギーがルーキーに費されています。今年こそ翔ばねばルーキー！

烈々風号調教報告

佐藤 仁 美

一昨年（昭和五十七年）の夏。当時主将であった増田兄が、烈々風に乗っていた時で、私は、サブとして烈々風の世話をしていた。帯広遠征に他馬と共に連れて行ったのだが、むこうでの練習では、調子が良くて、一mくらいの障害を連続して飛越していた。しかし相変わらず前進氣勢が感じられず、調教も思うように進まなかった。試合など、まだまだ遠い話だった。一時は、離厩の話も出たのだが監督はじめ、多くの先輩方に説得されて、何とかもう少し、北大にすることができたことになった。私が乗ることについては、難しいからと反対されたが、監督に見てもらいながら乗るということで、了承を得た。

本格的に乗り始めたのは、雪が積ってからだだった。とにかく、馬を前に出せるようにすることが、第一段階である。あとは馴致。前に出すといっても、この馬自身が、脚を全くわかっているか、いやわかっていないのか、体が動かないのか、全部なのではないか。まず、私ができることは、体が動くようにすること。体を大きく使って動けるようになれば、自然に軽くなると思った。丁度、雪が積って、外は走り放題だったので、とにかく、学内のいろんな所を走りまわった。馴致も兼ねて、溝や坂道、横木なども通過するようにした。外では、興奮しすぎることではなく、よく前に出た。又、時々物見をするので、同じ場所でも、慣れるまでは毎日通過して、安心させるように努めた。外では、だいぶ軽くなっ

てはきたが、まだまだ、私が必死で脚を使って、やっと維持できる

という状態であった。又、馬場の中では、相変わらず重かった。見通しの立たないまま、三月になった。馬場では、全く運動にならない為に、安易に外での運動を続けてしまった。雪の溶けかけた道路での運動が響いたのだと思うが、ある日突然、跛行し始めた。この時、すぐに休ませるべきだったのだが、熱や腫れがないのと、常歩で跛行しないので、症状を軽く見て、ずるずると運動を続けてしまった。一時は、少し良くなったようにも見えたが、最初の跛行から、約一カ月後、再び、ひどく跛行するようになった。レントゲン検査の結果、右前肢球節に、骨溜及び、骨膜炎をおこしていることがわかった。馬体管理責任者として、全く、恥ずかしいことをしてしまった。三カ月間、馬休にするように言われた。乗馬として、復帰できるかどうかわからなかった。

四月になって、私は、クレイン大阪に研修に行った。ここで、私は、馬というものに対する認識を、新たにさせられた。重い馬に必死で乗っていた私にとって、ここでの体験は、ショックだった。馬が、ケタ違いに軽くて、敏感なのだ。動きが、ダイナミックだし、それを反映してか、体の筋肉が柔かい。又、こういう馬に乗っていると、自分のバランスの悪さが、いやおうなしに、知らされる。「馬というのは、こんなに軽いものなんだ。又、軽くなければ、いけないんだ。」と、実感した。再た、乗れるようになったら、今度は

きっと、こういう馬にしてやろうと思った。

馬が軽い、という中身は、馬自身の前進氣勢や、馬体上の問題と、扶助への従順さ、敏感さ、の両方を含んでいると思う。前者については、調教以前の問題であろう。ここから始めようというのだから気の長い話である。ある程度、馬体が使えるようになったら、平行して、扶助を教えていかなければならない。

幸い、六月になって、馬休が明け、乗り始めると、以前とは違っ

て、自分から前に出たがった。これを邪魔しないように、騎手のバランスに注意し、その中で、できるだけ、大きく動かすようにした。一方で、輪乗りでの停止、発進や伸縮、前肢旋回などにより、脚の扶助を教えようとした。挙は、ほとんど均等に持っているだけで、頭を下げて銜をかんだが、頭を上げるときは、小さな回転や、外方を少し強く受けることで、額をゆずった。ある程度の歩度では、一通りの運動は、できるようにしたが、そこから更に伸ばそうとすると、抵抗した。又、脚への反応が鈍く、理解ができていないと思われた。更に、頭を下げることで、銜にもたれかかり、前のめりになって走るようになり、運動に軽快性がなかった。

障害は、直線上にある限り、よく飛越した。しかし、左右の回転から向かうと、肩を張って抵抗し、障害前で歩度が落ちる、など、問題が多かった。それ以前に、運動が緊張不足で、平場の運動と、障害を、全く別々にやっているようなことになってしまった。この二つをつなぐ為に、特に、回転に重点をおいて練習した。直線や、蹄跡、輪乗り、といった、馬自身に進行方向が、予測できるような運動では、銜を受けて、かなり良い状態まで、もっていけるようになったが、直線から回転したり、縦横に走り回ったりするのは、全くできていなかった。それで、運動の中で、直線を、できるだけ入れられないで、頻繁に回転を要求するようにし、又、輪乗りで良い状態までもって行って、次々に輪乗りを移したり、輪乗りから直線、直線から輪乗り、蛇乗りなどに移るようにした。小さな回転は、常歩以外では要求せず、常歩では、銜受けを確める為に、時々、小さな巻き乗りを行った。あとは、体を大きく使って、運動するように、広い所を走り回った。運動後の馬体、特に、肩、腰、後軀は、よくマッサージするようにし、肢にも気をつけた。しだいに、筋肉は軟かくなってきた。肢も腫らすようなことはなく、大丈夫のようであ

った。

九月以後、名越兄や、他の人達に、乗ってもらった。中でも、十月以後は、世良兄に、ひき続いて乗ってもらうことにし、私自身、一步退いて見る事ができて、大変、学ぶことが多かった。

前述のような運動の中では、常に馬が、自分から、どんどん前に歩くというのを大切にし、積極的に長鞭を使った。こうして運動していると、時々ふいに軽くなって、脚にも敏感に反応し、ほれぼれするような動きをすることがあった。しかし、それを完全に、自分のものにすることはできず、そういう状態は、本当に、偶発的におこるといつてよかった。その時の感触を頼りに、運動するのだが同じ状態にはできず、かえって、ダラダラと運動を続けてしまい、馬にとって、良くないことをしてしまった。この時、初めて、馬は機械ではないことを実感した。何もかも、わからないことだらけだった。乗りたいけれど、乗るのが怖いような、変な気持ちだった。現在は、世良兄が、ひき続いて調教を進めてくれている。体の硬さは残るが、障害も取り入れて、少しずつ良くなっているようである。私には、できないことが多くて、烈々風や皆には、大変な迷惑をかけてしまった。調教者としての責任を全うできなかったことについては、何も言うことはない。ただ、やっと出てきた、この小さな芽が、これからどう育つかが楽しみである。もうクラブからは、離れてしまふけれど、陰ながら、烈々風の今後の成長を、祈っている。

☆ ☆ ☆

世 良 健 司

時は九月。将介と別れを告げ、つれづれなるままにルーキーの背

にまたがるようになった。

騎乗当初は、ルーキーの将来性についてそれ程考えていなかったが、とり合えずここだけは教えることができる。と確信をもてるころがあったので、毎日少しづつ乗り始めた。

当時、ルーキーに乗って特に問題であると思ったことは、脚がわかっていない"ということと、馬体の柔軟性に欠ける"ということだった。このため、前にさせなかったし、運動に幅をもてなかったため、運動の展開が困難な状態だった。

そこで次のような運動を行った。

。輪乗りでの運動

常歩で内方脚を強めに使い、外方脚はなるべく、馬体から離すようにして、両脚の区別が明確に伝わるようにした。内方手綱は、たるませて、口をさわるようにして開き手綱を繰り返し、外方はなるべく軟らかく口についていった。

。蹄跡での運動

蹄を利用しての前肢施回、反対反巻、巻き乗りを繰り返した。いずれも輪乗り運動と同様、左右の脚の区別をわかりやすいように使いわけた。

最初は、内方脚で圧迫しても、体を棒のようにして、弓なりに体を曲げなかったが、これらの運動を毎日二十分程行ったところ、一週間程であまり抵抗なく内方姿勢をとるようになり、また、外方手綱にでてくるようになった。次に以下のような運動を行った。

。八字乗りでの運動

徐々に輪乗りから八字に乗るようにし、手前を一回ごとに変えるようにした。また、比較的左右スムーズに移行できるようになったら、接点で両脚を添え、馬体をまっすぐにしたまま直

進運動に移った。これができるようになったら、接点で停止を入れ、発進から直進に移るようにした。この運動によって、内方を主体とした脚から、両脚による直進のための脚の調教を試みた。また、徐々に速歩も入れていった。

八字乗りでの運動に入った時、ルーキーの運動の切り換えの悪さに頭をいためた。例えば、右手前から左手前に移行する際、右手前の内方姿勢を頑なに維持した。要するに脚を充分理解できていなかったのが、以後、直進運動に移る際などにもその傾向がみられ、比較的スムーズな移行ができるようになるまで結構時間を要した。

内方脚主体から停止、そして両脚による直進発進への移行は、やはり最初はつながらなかったが、停止から両脚の圧迫によって前に出なかったら、瞬間的に副扶助を使って前に出し、愛撫した。

以上のような運動を続けることによって、徐々に脚を理解するようになり、合わせて、銜受けがより安定してきた。また、左右に柔軟になってきて歩様も大きくなってきた。

そして十二月。馬場で乗れないため、農場で乗るようになった。山から吹きおろしてくる風は肌を切るように冷めたかったが、そんな中でルーキーがみせるはれぼれするような駆歩に体を熱くした。競馬を憶えているのか、直線に向けて脚を使うと、どんどん前にできて、銜受けの手答えも最高だった。バランスがよく実に安定していて、バネのある力強い駆歩だった。

農場では、馬場で行ってきた運動を続けたが、毎日四百メートル程の全力の駆歩を入れて、体の柔軟化をはかった。ルーキーは左手前が特に堅かったので、左手前を重点的に行った。

そして、事故。僕の足は怒り狂ったフグのようにはれた。

やがて一月。松葉杖から開放された三日後に騎乗再開。

この頃から、細かい運動は確認程度にして、なるべく大きな運動を行った。大きな運動をして、どんな体をほくしていくことが先決だと思われたためである。

この頃は、運動に入ったら、いち早く緊張状態をつくるように心掛けた。ルーキーの場合、一番の問題が前進氣勢に欠けることだったので、緊張状態をつくって前に出し、それから徐々に銜を受けるようにした。この際、比較的多くペンを使ってきちっと要求に答えさせ、なるべく早く緊張状態をつくるようにした。

運動の切れ目には、ほうき手綱で不整地の登り下りを繰り返した。後駆の強化は勿論、ルーキーは後駆を引きずるため、坂を下りる際に脚を使って一定のペースを保って、一步一步肢を上げて歩かせることを目的とした。

銜受けに関しては、ややうるさいところがあり、停止の際に首を左右にねじりながら臼歯で銜をガチガチとかんで反抗した。

そして、今はもう春のきざしが……三月。

障害を主体に運動している。最初は、オクサーを飛ばせた。きちっと向けてやれば飛越したが、どうしても障害前で歩度が落ちてしまい、後駆で立ち上がるようにして飛んでいた。しかし、その状態で繰り返し飛んでいるうちに、きちっと助走をとらなければ飛びづらいことがわかったのか、障害に向けると自分から前へでるようになった。障害を行うときは、なるべくほうき手綱からはじめ、徐々に手綱をもっていくようにしていたが、最近馬から銜をひろっていくようになり、安定しつつある。

騎乗当初に比べると、かなり後駆のふみ込みが強くなってきたが、速歩では今一つ、力強さに欠ける。後駆は、後ろから申し分けなくついてくるような感じで、前肢は坂を下る時のようにふんばりながら走っているようである。したがって、銜受けは実に軽い。これはやはり、まだ馬体の堅さが残っていることと、後駆の筋力の弱さからくるものであろう。そこで、ここ二週間程、二蹄跡や、常歩での停止・後退・発進、又は常歩および速歩からの停止・後退・速歩発進を繰り返して行うようにしている。最初は、後退で頭を上げてふんばったが、徐々に頭を下げて後退するようになってきた。しかし、後退からスムーズに発進へ移れず、ここでも体の堅さ、後駆の弱さを実感する次第である。

二蹄跡は、左手前が堅いため、埒を利用して左右、五歩づつ程にとどめて続けている。

一方、伸縮に幅をもたせられるようになってきた。つめた状態で人が強引に前進氣勢を拳にためようとするのだが、顎が堅いため、銜をきらって口を開けていた。しかし、徐々につめてためられるようになってきて、拳をゆるすとぐっと歩度が伸びるようになった。この状態から障害を行うとき、回転で充分にためて、障害のアプローチに入ってから拳をゆるすことによって障害に向かうようになっていく。障害は、ほうき手綱と平行して、徐々に銜を受けて行っていくつもりである。

数えてみると早いもので、ルーキーに乗り始めてから半年以上経ってしまった。ルーキーの調教報告に添え書きするのは少々ひげ目を感じたが、半年という騎乗歴をふり返るとがぜん自信がついてしまっていて書きたくなくなってしまった。

思いつくまま、気のつくままにられつしたが、ルーキーの魅力を

ご予算は…？内容は…？

おまかせ下さい!!



味とまごころでご奉仕

仕出し料理



札幌市北区北18条西4丁目(18条ハイツ地下)
事務所/北区北18条西5丁目

☎716-5045

書きつくせなかったことは残念です。彼の魅力を一口で言うのと、随所随所に思わず「たいした馬だ」と、口にしてしまうようなキラッと光るものをもっているヤツです。

最後にルーキーに乗せてくれた岡田監督と佐藤には心から感謝いたします。これだけ思うように乗れたのも佐藤が根気良く丁寧に乗ってきたからだだと思います。

そしてルーキーよ。おまえにも感謝しているよ。

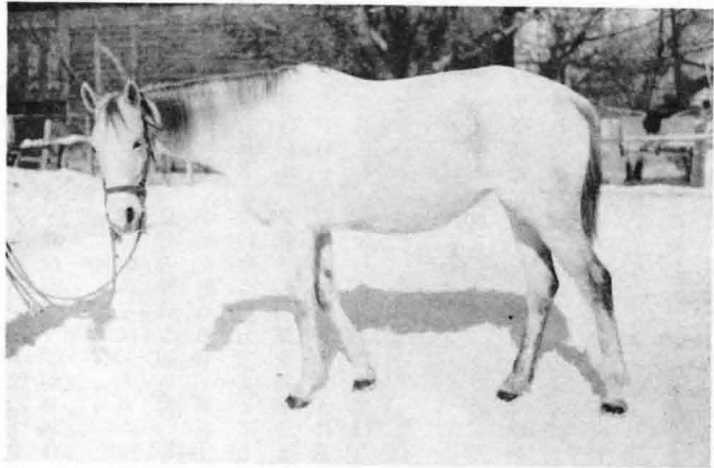
頑張れよ

ルーキー

走れよ

ルーキー。

ノ
エ
ル
号



牝 サラ 芦毛
昭和50年4月22日生
浦河郡浦河町産
父 フォルティノ
母 シンクイン

のえるは滅法もてます。のえるが放牧されている馬場では彼女をめぐって、時には激しく、時には静かに、ドラマがくりひろげられています。とはいえ、昨年は飛雄馬のよき母親として一生懸命子育てに励んでいました。飛雄馬との別れの日、狂ったように鳴いていたのえるを忘れることができません。人間の方が思わず甘えてしまおう、そんな暖かさをもった彼女、これからもその美しいうなじで男性諸君を魅了していくことでしょう。

ノエル号調教報告

森 田 敏

昨年三月二十七日入厩し、四月十四日牡馬を出産して一週間程してから騎乗がはじめられた。齊藤さんが鞍付けから全ての調教をしてきた馬なので、齊藤さんに学び、ノエルに学ぶことを、まず考えて乗っていった。しかし、自分の感覚を反芻することによって考えて乗ることが必要だとも頭の一方にあった。だがノエルにとって、二人の違う乗り方、違う扶助、違う考え方の騎手は混乱を招くばかりで、良いことは一つもないと思った。そして、日々の練習の中で、納得できないことがあっても、まず齊藤さんに言われたことをやろうとした。頭を空にすることの難しさを痛感した毎日だった。

ノエルは前進氣勢旺盛で回転も良い馬だが、前後の柔軟には難があった。そして、練習中人間のスキがもとで稀にあった拒否によって一つの癖を知った。それは、駈歩でスピードをつけながら障害に向かうように見せかけて、一瞬のスキを見て右に切るもので、このとき、必ず右駈歩だった。もともと右駈歩より左駈歩が苦手な馬だったが、速歩ならば逃げない。この癖を十分に検討せずに北日学に臨んだことは、致命的な失敗であった。

北日学の二回走行では、一走目、七番の三連続のBで右に逃げられ三反失権。二走目ではそこまでも行かず三反失権に終わった。いづれも右に逃げられたが、二走目の一反をした後は、障害前で踏切を見出せずに馬が不安になって飛ぶのを拒否した感じだった。脚が足りないことも十分に原因としてあっただろうが、それだけではな

いと思っ

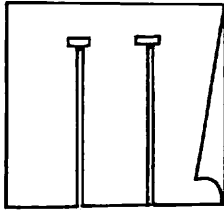
この試合の本馬場の中で、初めて問題点が自分の頭になだれ込んできた。連続障害の立て直し(特に幅障害の後)。アプローチで、一見向かっていくように見えても、それが興奮にまかせて突込んでいくことは避けねばならない。これは落下にもつながっていたと思う。そして右駈歩で右肩を出すことを矯正することが必要だと思う。又、左右の柔軟性をつくるため、もっと左駈歩の練習をするべきだろう。手の内に入れた駈歩―特に伸縮ができるようになれば、障害をもっと冷静に、一定のペースで飛ぶようになるのではないかと。そして、それが幅障害・連続障害で飛越後馬体を立て直すことにもつながってくると思う。

最も反省せねばならないことは、ノエルに乗るとき、ノエルといっしょにいるときの自分の曖昧な態度だったと思う。乗っているのが自分である以上、手綱を握るのも、脚を使うのも、そして試合に出るのも、齊藤さんではなく自分であることを十分自覚していなかったのではないか。齊藤さんの頭を持つとうとしていたのではないかったのだ。自分の頭の中に、齊藤さんに教えて頂いたことを、十分納得し、消化し、吸収していかなくてはならなかったのだ。そして、もっと自分で感じ、考えてみる、これが必要だったのだと思う。

齊藤さんと、ノエルと、サブチーフと、そして仔っこと、とても賑やかな半年間でした。そして自分の馬に対する考え方の甘さを、思い知らされた半年間でした。この半年間、下手糞で、生意気で、扱いにくい生徒を、寛容にも我慢強く教え続けて下さった齊藤さんには、本当に感謝致します。ノエルを下りることになった今、齊藤さん、ノエル、部員に対してこれから僕ができることは、今シーズンの失敗を無駄にせず、謙虚にしかも前向きに努力していく他にないと思えます。

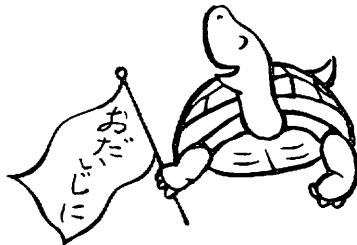
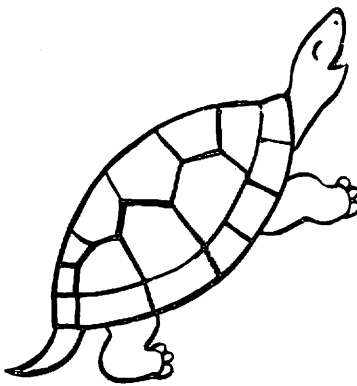
ノエルも仔馬が乳離れし、復調してきたようなので、来シーズンの活躍を期しつつ簡単ですが、騎乗報告を終わらせて頂きます。

居酒屋
塩野屋



北18条西4丁目
北18条ハイツ地下
☎ 726-1759

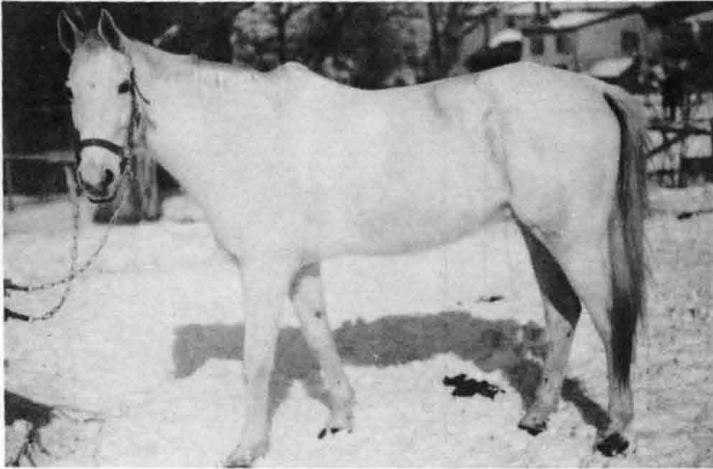
マナベ小児科



新居浜市西町7番3号 TEL 37-0225

新馬紹介

オオカリヒメ号



牝 アラブ 芦毛
昭和44年4月27日生
新冠郡新冠町産
父 ホシヒカリ
母 ミズハザマ

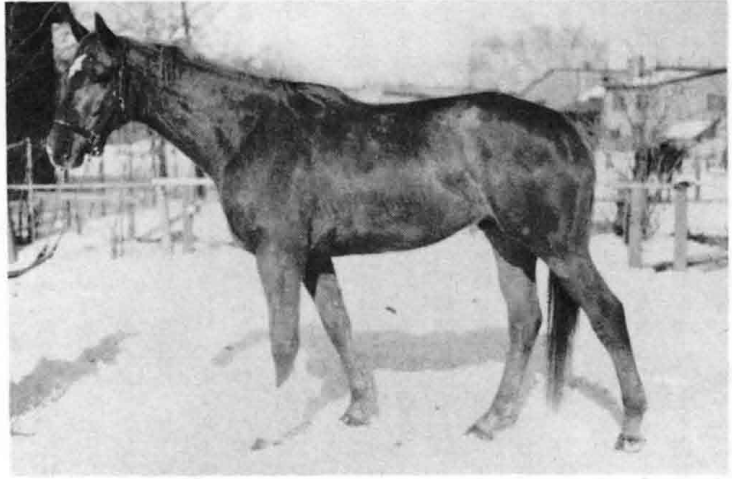
中川千夏子

パコパコパコ、口をパコパコうごかして、舌をペロペロ遊んでる。よくびっくりするくせに、すぐケロツとしてキョトンとした黒い瞳でこっちを見つめる。あの目がいい。あの薄い前髪がいい。まっ白い毛はもこもこしてて、あったかで、寒い日は顔をうもらしあったまる。オオカリヒメ、人はオオカリ、オカリと呼ぶ。私はヒメと呼んで欲しいのに……。

去年入廐。当初は何をするにもびびっちゃって、馬房に入るのにひと苦労、蹄洗台に上るのにひと苦労。犬に吠えられひと苦労。でも大分北大馬術部にも慣れ、すっかり北大色に馬体が染ってしまった。賢いとは思うんだけど、よくドジをふみ、なんともはや気ままな馬です。

オオカリ姫、本日早朝、帰ってきました。
あいつは、ノエルのようなオバンでなく、ライトのようないい女ぶってなく、ミヨコのようなガキでない。魅女だったと思う。

☆ 月 日 当番日誌より ☆



騙 サラ 栗毛
昭和53年4月12日生
勇別郡鶴川町産
父 ホウシユウエイト
母 アモーレターフ

僕、クリちゃんです。ガッちゃんとも呼ばれています。僕のをえろさんを愛してるんです。馬場で銀ちゃんがのえるを襲ってるのを三角地奥から見てもいつもシットしています。この前は銀ちゃんと彼女の取り合いをしたんですよ。でも僕はもとからこんな性格ではありません。北大に来てH兄に教ったんです。え、銀ちゃんも……冗談、冗談!! ハハハ……。障害もパンパン飛べるし、今年H兄のをのせ銀ちゃんと黄金コンビをつくるつもりです。期待して下さいね。



騙 サラ 鹿毛
昭和55年4月28日生
上川郡新得町産
父 ヤマブキオー
母 ソーゴータカラ

ギンことしろがねです。まちがってもはくぎんなんていわんといて下さい。なんやどっかの銀行の名前みたいでかなんさかい。えっなんで関西弁なんや? って、そんなんいうたかって、手入れとか曳馬してくれる人が、こんな風にしゃべんにゃさかい、しゃあないやんか……。
まだ4歳。やんちゃ坊主の銀ちゃんですが、将来、かならずや北大を背負う馬となってくれるでしょう。

離 厩 報 告

北 楽 院 号

上 本 浩 之

九月十五日札幌市民大会翌日、突然原因不明の右後肢跛行を呈し、後三ヶ月間馬休にし様子を見ましたが、ある程度の状態より回復せず、十二月五日前チーフの斉藤兄の紹介で大樹町にある乙部牧場へ離厩しました。本城兄、三好兄、井上兄、斉藤兄、上本、谷山弟と乗り継がれたQは色々な形で北大馬術部に貢献してくれました。最後の調教責任者としてQから教わった事を少しでも後輩に伝えられればと思いつら離厩報告を書いて行きます。

△調教方針について▽ 二年目の十一月に高須主将よりQに馬配が決まった事を突然告げられ、急いで斉藤兄より引き継ぎに入った。兄の言う最低限のQとの信頼関係である駈歩発進がまかりなりに出来る様になったのが年を越した一月頃だった。しかしそれからのQの動きに大きな変化は出なかった。常歩は短節で、速歩はひきずる様な歩様は変らなかつた。そんな時に小野さんにQに乗って頂いた。そのQの動きは目を見張るものだった。そして目が覚めされた。それまで方式にこだわっていた自分の愚かさを知った。その日から一転して馬場馬術の基本運動を中心とする調教方針を取った。まず副扶助の鞭と音声の正しい理解を求める為調馬索を始めた。それと並行して単独脚によってハッキリ内方脚を理解する事↓内方脚の推進



力を外方拳で受ける事↓側方の柔軟性を次第に前後へ移行する事↓そして脚の推進力と衝受けの相関関係の理解と進むのに一年かかった。ある程度出来る様になったのは調教したからではなく元々Qには出来る事で自分の技術がそうなるのに一年かかったわけだった。こうした運動が出来る様になって感じた事は、Qが日増しに軽くなり軽快性に富んできた事だった。失敗は、試合場で確実に出来るまでいかなかった事だった。

△環境改善について▽井上兄の調教報告にも書いてある様に馬らしさに欠けていた。私が入部してから見て来たQはやはり精神的に参っている様に感じていた。その対策としてまず放牧は出来るだけ多くの仲間と放し、それも出来る限り若馬と放した。春になり草が現われる頃になって強力な二人のサブを得た。半田・福島両妹と自分のリレーでQは日中、厩舎にいるより曳馬に行っている時間の方が長かった。春の陽を浴びて、人と馬だけの世界で、食べただけ食べれた事は彼にとって精神的に馬体的にどれ程大きな影響を与えたか分らない。この事がQがゴールを切れる様になった一番の要因であると思う。半田・福島両妹には本当に感謝している。

△障碍・試合について▽チーフになって正直言って飛越の良し悪しが分らなかつた。前進氣勢をもって飛越する事を良しと決め、雪のある間は80cmを上限とした。本当に無理せず飛越してるか否の判断も分らなかつたので単純に四月は90cm、五月1m、六月1m10cmと月々10cmずつ上限を上げる様に決めた。そして出来るだけ外乗に障碍を運び、興奮を利用して飛越した。落しても飛ばせば良しとし、練習中は飛越すれば必ず誉めた。声だけであつたり、エサをやつたりし誉めまくつた。馬場内では条件が許す限り厩舎に向けて飛んだ。それと練習の終りに小さな障碍を飛んで上げるのを日課にした。昨

年の試合を考えると、かなり障碍に対してこだわりがある様なので飛越する時は出来る限り条件を良くし、後は誉めまくる事しか思いつかなかつた。結果的には意欲的に向う様になつたが……。

練習は出来る限り外でやつた。広場を見つけては、馬場内と同じ運動が出来るまで通い、出来れば次の広場を探すの繰り返しだった。試合の準備運動と想定し時間を決めて緊張を上げる様にした。公園だと障碍の代りになるものもあり好都合だった。夏になり百瀬さんの御好意により作らせてもらったステイブルも完成したので二週間程お世話になつた。野外は馬が自分から進んで大きく動くので、気持ちよく練習出来、馬の障碍への印象も何でもないものと感じていた様な気がする。これから乗る人達も大いに外を利用してもらいたい。

試合に関しては、半沢杯と乗馬クラブ連合会で小障にゴールはしたが何一つ分つていなかった。只試合時の恐しい程の前進力は中障までもって行く可能性があると感じただけ。自馬体B障で失権、障碍前で押すとしつかり向かつて行くのに直前で止まる。この時には初めて障碍前の衝受けについて考えさせられ、次の小障と新人新馬では障碍前で脚で出してしつかり受ける事だけ考え、やってみてやっと分つた。今まで多くのOBから聞かされていた障碍前の衝受けの感覚がつかめた。それまでの経路回り等での拒止のわけも理解出来、これで迷いも取れた。それからの経路回りは拒止もなくなつたのが過信と油断になり次の公認は全て失権。当然の結果だったあまりに試合をなめすぎていた。北日学まであと11日しかない。この間は前に出して受ける事、これだけをやつた。歩度を伸ばす事だけは一步単位で確実に出来た。この期間は無茶乍らも最も充実した練習を行えた時だった。そして北日学、これは物言えぬQに代つて弁明すると、二回走行は一日目二反七落、二日目七落でゴールを切

った馬の中でドベだった。一日目の二反は二日目反抗なしより明らかに騎手の過失。総合、Qの素直な動きに助けられて¹⁴⁴、ステイプルで痛恨の一反、D区間スタートして仲々林の中に入らない状態から一転して信じられない程従順になり止まるなんて微塵も感じられず、夢心地で次々と飛越して行く。18番で前の馬に追い付きそれに気を取られて遙か前方より切られてしまった。これ又騎手の油断に他ならない。スポーツに「もし・たら」は禁句だが、私のこの二つの失敗がなければQは東京へ行けたわけで、その力が有り乍ら私が足を引っ張ったのだった。続く道体は人馬転して棄権、市民大会は次のチーフの谷山と出場し、これで一応ゴールを切る事だけなら安定してきたと思い、私の果せなかった事を谷山に託したのだった
が……。

あまり技術的な具体例は私には書けません、私は馬はチーフのしっかりとした心構があれば良い馬に出来ると思うのです。愛馬の立場になって行動すればやるべき事は見えるはずです。自分がその馬の命を左右すると思えば離れている時だって気になるはずですし間違っても自分は遊んで馬はほったらかしなんて事は出来ないはずです。学生は下手ですから自分の出来る限りの事をして、やっと試合の参加資格が与えられる位に思って下さい。

Qの離厩に関して一番辛い思いをしたのは谷山でした。最後の最後までQに尽くしてくれました。Qの直系の唯一人の現役として再出発した北姫で頑張ってくれたいと思います。

多くの方のお世話になりました。作業という役職もあり小野さん百瀬さんには色々無理な事を引き受けてもらいました。四年目の先輩にとっては可愛くない後輩だったと思います。随分我ままをさせ

てもらいました。同輩・後輩には色々協力してもらった。そして監督にはQ共々よく指導してもらいました。皆さん有難う御在ました。クリスマスにQに会ってきました。乙部さん一家の家族の一員として大切にしてもらっています。彼の愛すべき性格が第二の人生を幸せに導いたと思います。乙部さん、斉藤兄、本当に有難う御在ます。

Q、ごめんな。でもお前にとっては、これでよかったんだよな。

本日、ノエルを馬場に放牧。ノエルとQがいい仲になってしまい、ルーキーがいじける。

☆10月6日当番日誌より☆

北 楽 院 号 の 戦 績

(年月日)

S 52 .	8 . 20 ~ 21	道 体	小 障	10位	(本 城)
	9 . 3 ~ 4	公 認	小 障	9位	(本 城)
S 53 .	6 . 10 ~ 11	道 自 馬	中 障 B	7位	(三 好)
	8 . 3 ~ 9	北 日 本	中 障	10位	(三 好)
	11 . 11 ~ 20	全 日 学	総 合	49位	(三 好)
S 54 .		ケガでなし			
S 55 .	5 . 4	半 沢 杯	小 障	8位	(井 上)
	5 . 31	山 下 杯	小 障	1位	(井 上)
	6 . 7 ~ 8	道 自 馬	複 合	30位	パルクール 12位 (井上)
	8 . 5 ~ 11	北 日 本	二 走	9位	総 合 18位 (井上)
			新人新馬	5位	(石 井)
	9 . 6 ~ 7	公 認	小 障	失 権	コンソレーション 3位(築地)
			標準中障	19位	(井 上)
S 56 .	5 . 4	半 沢 杯	複 合	失 権	(齊 藤)
			中 障	2位	(井 上)
	5 . 23 ~ 24	道 自 馬	複 合	3位	中 障 A 3位 (井上)
			小 障	20位	(町 田)
			ピュイッサンス	5位	(井 上)
	5 . 31	山 下 杯	中 障 B	2位	(井 上)
			小 障	5位	(名 越)
	7 . 31 ~ 8 . 4	北 日 本	二 走	失 権	総 合 失権 (井上)
	8 . 22 ~ 23	道 体	成年総合	失 権	成年障碍 失権 (井上)
			小 障	失 権	(佐 粧)
	10 . 3 ~ 4	公 認	中 障 B	失 権	(井 上)
			内国産馬	失 権	(井 上)
	11 . 7 ~ 16	全 日 学	二 走	失 権	(井 上)
S 57 .	5 . 3	半 沢 杯	複 合	1位	中 障 5位 (齊藤)
	7 . 29 ~ 8 . 4	北 日 本	二 走	失 権	総 合 失権 (齊藤)
			新人新馬	失 権	(齊 藤)
	10 . 10 ~ 11	公 認	小 障	失 権	(齊 藤)
S 58 .	5 . 5	半 沢 杯	小 障	24位	(上 本)
	6 . 4 ~ 5	ケンタッキー	Point to Point	3位	(谷 山)
	6 . 25 ~ 26	道 自 馬	中 障 B	失 権	新人新馬 1位 (上本)
	7 . 23 ~ 24	公 認	小 障	9位	中 障 B 失権 (上本)
	8 . 5 ~ 8	北 日 本	二 走	11位	総 合 12位 (上本)
	8 . 13 ~ 14	道 体	総 合	失 権	
	9 . 15	市民大会	中 障	9位	(上 本) 10位 (谷山)
			一 般	5位	(谷 山)



昭和57年6月17日に入厩し、いくつかの事件を巻き起こした輝魂龍ですが、昭和58年9月21日離厩致しました。離厩先はOBの斉藤勝雄さんのお世話で帯広の十勝柏友会となりました。

調教は、8月から9月頃からOBの小栗さんに見て頂きながら、秋から、当時4年目の平田姉が担当していましたが、10月に小栗さんが茨城県へ引越され、平田姉も忙がしいため翌年6月までしか乗れず、その後秋までは野中兄が担当しておりました。結局、小さな障碍はちゃんと跳ぶくらいまでにはなったのですが、練習馬として使える馬が欲しい折、オオカリヒメをもらえるとの話が入ってきたため、出すことにしました。

食いしん坊で、汚れた寝わらまでも食べてしまうやつでしたが、帯広では、牧草をたらふく食らって、のほほんとしておるそうです。

終

丸子がばかをやった。曳馬に来た彼女は、牧土の色をみて、キーンコンだと納得して、曳馬に行った。……がしかし、実はパー子だったのです。

☆5月8日当番日誌より☆



牛舎の付近で曳馬をしている時、牛が集まってきたのに驚きして放馬し、コンクリート側溝に落ち、左後肢膝関節を強打、様々な治療を試みましたが、患肢に負重する事がまったく不可能な状態が続き、結局、回復の見込が薄いということで離厩となりました。

離厩式も、馬場まで出さない方がいいだろうということで、馬房の中で行なわれました。全日学遠征中のため、人も少なく、行き先が、北楽院や輝魂龍のように牧場などでなく屠場のため、みんな沈みがちでしたが、その中でパールだけは、ニンジンがいっぱいもらえるのがうれしそうで……。

最後の日、外へひさしふりに出るのがうれしいのか、足を引きずりながら目いっぱい歩いたパール。馬運車に乗る時、回りの雰囲気を感じてか不安そうな目をしていた。あの歩く後姿と、かなしそうな目は今も心に焼きついてはなれません。

おやすみ、パール。

パール 永遠の眠り……

もう痛みは感じない。

馬にケガをさせるな!! 絶対に! パールを忘れるな!!

☆11月2日当番日誌(谷山兄筆)より☆

北大水産学部活動報告

上 本 浩 之

二年上の小泉・築地両先輩が五十八年三月に卒業され私が同年十月に移行した時には馬術部に関係する学生は存在しませんでした。何とか廃部にはなっていないので部員一名で再出発したばかりの北水馬術部です。東山乗馬クラブのオーナーの岸本獣医・菊地教官の御好意で時間の許す限り乗せてもらい、全面的にお世話になっていきます。

札幌より来た時は何もないのに驚きました。まず仲間を求めて勧誘しましたが、上手く行かず、実質的に活動してゐるのは私のみです。活動しだしたのがオフに入ってからなので戦績もありません。来シーズンは一つでもいいから試合に出場したいと思っています。昔は馬を持ち、馬場を持ち、試合出場もしていた我部もついに落ちる処まで落ちて部員一人となってしまいました。これからは上る事しか無いと信じて活動の幅を広げたいと思います。

札幌の皆様にはこれからお世話になると思いますのでよろしくお願ひします。又OBの方で水産を卒部した先輩の連絡先を御存知でしたらお知らせ下さいませ様お願ひします。

最後に本学の部員の人に水産の新生を一人でも多く入部・勧誘して下さいませ様重ねてお願ひします。

ねえ、聞いてノ聞いてノ 生物とおったぜ。 2年になれる。

☆3月5日当番日誌より☆

自由とは契約上の自由。平等とは契約上の平等。

これが、現代民主主義。

☆12月2日当番日誌（中村兄筆）より☆

東京OB会便り

昭和59年度の新年会（総会）が渋谷で2月10日行なわれ、東園会長を始め各世代から17名の方が出席されました。久しぶりに出席された方も多く、一人一人昔話や近況をとてもおもしろおかしく話していただき、予定の時間を一時間近くオーバーしてしまいました。特に今回は、昭和38年卒組がお互いに声をかけあって多く出席された為、にぎやかになりました。今後も同期の方どうし、あるいは現役時代の先輩後輩どうし声をかけあって出席され、会を盛りあげてください。

5月13日に行なわれた乗馬会・観桜会は、生憎の天気もあって参加者は少なく、桜も散っており、昨年の盛りの盛り上がりはありませんでしたが、会長が今年もまた、美味しいお肉をたっぷりと持ってきて下さり、おなかの方は十分盛りあがる事ができました。年々、観桜会は、御家族連れの参加が多くなり、楽しいものとなってきています。まだ参加されていらっしゃらない方は、是非、御家族連れで参加されるようお願いいたします。

ところで昨秋、全日本学生馬術大会の時に上京された現役員との交歓会の折に、穴があき、ぼろのしみがついた部旗を見て、会長以下出席OBが哀れに思い、東京OB会から新たに部旗を寄贈する事にしました。観桜会の時に参会者に披露し、7月初旬、会長が訪札の折に現役員へ引き渡していただく事になっています。なお、制作費用は4万円かかりましたので併せて報告しておきます。

今回、幹事長の加藤元さんに原稿をお願いして、忙しいなかを書いていただきました。



昭和31年に北大馬術部を卒業し、(大久保(30主・物故)、岡本加藤(昌)、千田、斎藤(成)、佐伯などと共に部生活を遂行した)神戸王子動物園の獣医師として6年、37年から上京、東京での開業準備、39年(東京オリンピック)があり千葉(幹)が出場した)に杉並区でダクタリ動物病院を開業し、現在を迎えています。

上京以来、何はさておき東京OB会への出席を最優先させてきました。この10年間は年に2回のアメリカでの学会参加と、年20回程度の講演旅行などで、肝腎の年に一度の東京OB会名物(池内(14・物故)、千田(31)、千葉らのお骨折で)の乗馬、観桜、バーベキュー大会にさえ、ほとんど出席出来ない有様です。しかし、現役の東京での試合の日程によっては、激励会には比較的多く顔を出させていただいているでしょうか？

入会以来の東園会長(7主)を中心に、そうそうたる大先輩方の現役時代の体験や、各界にわたる社会人としての豊富な人生経験をユーマアたっぷり聞かせて頂きながら、後輩方のたのもしい活躍ぶりとバイタリティにつつまれて、汲み交わす酒の味もまた格別であり、一人一人の馬上での個性もまた、自ずからしのばれるというものです。

自己紹介はこの辺にしておき、東京OB会の小史に触れておきたいと思えます。

昭和34年秋に東園、池内(中央競馬会業務・物故)、千田等のお骨折で、東京OB会が組織され樋口(33主)が初代の幹事として大活躍し、部の支援助と、現役とOB、またOBの親睦交流の場が生れ、森本(34主)志水(38)八木沢(42)池田(43)横山(48)梶村(46主)高橋(56)等の諸幹事のお世話で今日に至っており、会員数も約90名に達しています。

ともあれ、現役の諸君が東京へ旅行する時にはいつも、OB会の

名簿を携さえて、OBの諸兄との交流の場を是非とも拡げて頂きたいと願っています。

最後に、馬術について日常考えていることを一言、「なぜ馬に乗るのか、それは馬を御するためである。御するためには、馬の背で己れが自由でなければならぬ。だから自己の修練のために馬にまず乗せてもらうのである。馬を四年やそこらで調教などとは云うまい。調教とは自らを調教するにある。そこには何式の馬もなければ、何式の人間もない。馬を御する人間があるのみである」と。

3月3日と4日の、東京国際馬術大会のビデオに千葉の解説の声をききつつ。

S 59年3月4日 加藤 元(31)

OBからの手紙

昨年度いただいたOBの方々の手紙を紹介いたします。たくさんのお手紙をいただいたのですが、全て載せることができないことをお詫びいたします。また、一部省略させていただいた箇所もありますが何とぞお許し下さい。

①前略S

北日学の結果を見て

北耀、北姫の結果は残念だけど、その他の馬はよくやったと思う。確かに権利をとれなかったのは悔しいだろうが、去年より一頭でも多くゴールを決れたことをうれしく思います。そういう意味でQの復活、北将の耐久・余力満点、ガキの耐久・総合での森田・ノエルの頑張り等、決して悲観する材料ばかりじゃないと思います。来年三、四年になる者は、全日学出場も確かに大きな目標ですが、各人馬障碍を全部壊してでも、ゴールできるよう頑張ってください。

部報を読んで

まず一番最初に見るのが、自己紹介・他己紹介いつもながら面白い。小池先生、岡田監督、半沢先生を加えたのはクリーン・ヒットですね。今の二年目諸君については、ほとんど知らないけど、あれを読めば、何となくわかったような気になります。部報編集御苦労さんでした。

四年目の調教報告は、いつもそれなりになる程なと思います。現役諸君は、古くからの部報を何度も読んで下さい。何か参考になることがあると思います。

役員報告のハガキを見て

他に何も言うことはないのだけど、丹野の主務ねー?!
クラブの役職で一番大事なのは、主務だと思っております。その事を肝に命じて頑張ってくださいね、丹野君。

くれぐれもOBや他学の人にかみついたりしないように。ほんとに、かたつむりより恐ろしい。

それでは

Take good care of yourself & your horses.

Richi

昭和58年10月1日

西川理一兄 (55年卒部)

②前略 当地は今、秋酣、彼地は早初冬がしのび寄って来る感じでしょう。本日、十月二十五日からの馬事公苑での行事についてお知らせを頂き、有り難う存じました。主将以下各位ご苦労様ですが、体を大事にしてご活躍下さい。

小生生憎、その期間中郷里生家(宮城県)の行事のため、離京中で、各位の健顔に接することができず、残念且つ申し訳ない気持で一パイです。関係の諸君によりしくお伝え下さい。

昭和58年10月20日

武田朝男兄 (8年卒部)

。年賀状より

③初春

寒さに負けず、頑張って練習して下さい。

冬はケガしやすいで十分御注意されます様。

土川陽子姉(旧浪内)

(53年卒部)

④ 謹賀新年

早々と御賀状をいただき、ありがとうございます。
今年の冬は特に厳しそうですが、人馬の御健康と、
一層の御活躍を祈ります。

小泉清重兄 (58年卒部)

⑤ あけましておめでとう

吹雪の朝、寒風の朝、徹夜の朝、二日酔の朝、
さぞかしつらいでしょう。
しかし、きっと笑える日が来る。

がんばってください。(疾風上の島村兄の写真入り年賀状にて)

島村 努兄 (55年卒部)

⑥ 恭賀新禧

時には奔馬のように。

馬術部の発展をお祈りいたします。

中島孝幸兄 (中国より)
(54年卒部)

⑦ 謹賀新年

北大馬術部の今年の更なる発展を祈ります。
滞納金は、今年中に必ずお払いします。

北畑 裕兄 (56年卒部)

⑧ 謹賀新年

みんなの信ずる道を、みんなの力を合わせて極めて下さい。
ネズミ年といっても飼料庫のネズミには甘くしないように。

松岡 功兄 (56年卒部)

⑨ 迎春

雪に埋もれて頑張っている皆さん、あせらず単調な日々が、
花開く日のあることを信じて馬に乗って下さい。
今年の活躍を期待しています。

本城敬文兄 (53年卒部)

⑩ 新年のお喜びを申し上げます。

雪のなか、合宿されていることでしょうか。
ますますの御健斗をお祈り申し上げます。

富田久美子姉(旧佐伯) (50年卒部)

⑪ 賀春

練習、試合、ともに頑張ってください。
皆様の御活躍、折念いたしております。

相川宗敵兄 (50年卒部)

⑫ 謹賀新年

近くに中山競馬場があります。
しかしまだ一度も足を運んでいません。
年ですかねー

山本紘明兄 (43年卒部)

⑬ 今年も人馬共々の無事を祈る。

水野豊香兄 (51年卒部)

昨年は、たくさんの方の現役に対する励ましのお手紙ありがとうございました。
これからもよろしく御指導下さるようお願い申し上げます。
お手紙を心からお待ちしております。

卒部にあたつて

佐藤 仁 美

短い四年間でした。途中で何度も挫折しかけました。しかし、根っから精神構造が単純な為、思いつめたその後日に、練習でとてもうまくいって感激したりして、あっさり気が変わってしまったのです。そんなことで、とうとう卒部までいることになってしまいました。最後の一年は、あつという間でした。ルーキーについてから、うまくいかなくて悩んだけど、責任をおっぼり出して、出ていくわけにはいきませんでした。

今のクラブの雰囲気は、明るい様なので、今更、こんなことを言う必要はないのかもしれないけど。私が、一番いけなかったのは、ルーキーの調教について、自分一人で解決しようとしてしまったことです。私は、他のことでは、ちゃらちゃらしているのに、こういう深刻な問題に対しては、暗い性格になるようです。もっと早く心を開いて、周りの意見を積極的に聞くべきでした。下手くそなくせに、露骨に「下手くそ」と言われるのが恐かった。そう言われるのを覚悟で、「そんなことは、わかっているから、今、どうしたらいいのか教えてくれ」と、大きな声で叫ぶべきだった、ということが、今になって、やっとわかりました。幸い、今の下級生を見てみると、皆、積極的にやっているようだから、安心していきます。特に、調教責任者になった者にとって、その負担は大きいと思います。すが、どうか、良いことも悪いことも、お互いにさらけ出して、意見がくい違っても、納得いくまでぶつけ合ってください。そして、自分

のことだけに目を向けなくて、皆のことに目を行き届かせて下さい。そして何か気付いたら、『まあ、いいや』なんて思わないで、それを口に出すことで話のきっかけをつかんで下さい。きつと、いろんな話ができると思います。それが、クラブの輪をつくっていくのではないのでしょうか。決して自分勝手に、一人で閉じこもってはいけません。

私が、四年間で感じたことを、もし、今、そういう人がいたら、その人と部員全員の為に、書き残したいと思いました。もし、そういう人がいなければ幸いです。

後悔ばかりが先に立つ私の四年間だったけど、やっぱり馬術部にいてよかったです。今度、馬に乗れる機会が来たら、一から出直して、もう一度乗ってみようと思うのです。

どうしようもない先輩だったけど、暖く支えてくれた後輩の皆さん、四年間、暖かい目で見守って下さった岡田監督はじめ、OBの方々に深く感謝致します。

世 良 健 司

僕の場合、四年という歳月を一本の実線ではっきりと区切ることができません。それだけ明暗のはっきりとした四年間でした。しかし、卒部した今、ここで一つの区切りをつける気になりません。言うまでもなく、この四年間の部生活が自分に与えてくれたものは、計り知れないもので、四年間の大きな支えとなっていたことが、今になって強く感ぜられます。

今まで、随分と多くの苦悩を切り抜けてきたような錯覚を起こし

ていましたが、全て馬術部という組織集団にもたれかかってきたのだということ、今更ながら思い知らされます。本来、部活動というものは、個々の部員によって支えられ、以後の発展へ導かれなければなりません。勿論、その過程で、部員間での助け合いが重要になってきますが、クラブに甘えて、より掛ることは決して望ましくありません。みんなで語り合い、刺激し合って、意識を高め合っただいかなければならないと思います。

そのためには、やはり一人一人が馬術のおもしろさ、素晴らしさを全身で感じるようであればならないと思います。正直言って自分は、下級生の頃、どうしても馬術競技を好きになれませんでした。そのため、その当時はどうしても馬術に情熱を傾けることができず、一人で悩みながら暗い気持ちで当時の主将にせつせと退部届を書いたものでした。今思うと、その頃は単に表面的に馬術をとらえていたように思えます。試合に勝つことが馬術の目的である、という考えを、無理に自分に強いていたようで、馬術本来の姿を見失っていたようです。

馬とふれ合い、互いに情が通じ合う。馬にまたがってみたいくなる。またがってみる。馬体に脚をそえる。手綱を握る。すると馬は、微妙にその扶助を感じ取り、確実に反応する。すなわち、体を通して自分の意志が馬に伝わる。こんなに素晴らしいことがあるのでしょうか。恥ずかしながら、僕は四年目になって、馬術のほんの入口に立って、当り前のことに感動したものでした。馬術はこれから初まり、やがて人馬のコンビネーションを試合で確かめるようになり、そして、勝利を目指すようになる。こんものではないかと思えます。いずれにせよ、端緒した考えは馬術をつまらなくさせることは間違いないありません。また、単に馬が好きだけでなく馬術はできません。馬上でも馬を愛せるようであればだめだと思えます。

勿論、馬術への入り方は人それぞれですが、下級生はいち早くその本質を自分なりにつかんで、一途に馬術に打ち込まれることを望みます。

高 須 哲 男

四年間の馬術部生活で、いろんな馬に出会った。いろんな人にも出会った。しかし、ドンとの出会いを抜きにして馬術部生活は語れない。

ドンは、三番目の馬だった。下級生の頃、好きだった馬は北将、北姫、北驍。二年の秋には馬配の希望に北将と北姫の名前を書いた。一旦、北姫の調教責任者に決まったのだが、腰を痛めて休部し、ふられてしまった。腰が治ってからは、北将の調教を石井兄から引き継ぐという事で、兄からは本当に熱心に練習を見て頂いた。しかし、自分が主将となり、チームとして馬配を考える時、ドンに乗る決心をした。

正直言って、それまでドンに乗ることなど考えていなかった。二年の時、ドンに乗って試合に出た時も、「この名馬で試合に出るのも、これが初めて最後か」と思ったものである。

つきあってみて思ったのは、随分と律気な奴だということだ。あまり顔馴染みでない部員には、実に無愛想な態度をとる。近づいて行っても、鼻で突き飛ばされるだけだ。しかし、一旦親しくなるとすぐに心を開いてくれた。放牧地に入った時、自分の方に跳んでくるのは当然としても、自分の姿を見た時だけ鼻を鳴らして甘えてくるのは嬉しかった。

意外に思ったのは、年寄りのくせに仔馬のように甘えてくる事、そして、これだけ馴致が施されていながら、人間を恐れるという事だった。人間といっても、普通の人間ではない。ドンは、人間というのは必ず二本足で歩くのだと信じて、疑わないようである。そこで、索き馬の途中、腕立て伏せや二人一組みで柔軟体操をしている運動部員に出会おうと、あわてふためいてしまう。これだけは、昔からいくら馴致しても治らないようだ。

試合シーズンになると、遠征中はいつもドンの馬房と一緒に寝た。遠征先では鉄パイプ製の仮厩舎である為、放馬する馬が多い。放馬した馬が、万一、ドンにちょっかいをかけても、すぐに気付くようにとの理由である。一緒に寝ると親近感を覚えるが、寝心地は決して良くなかった。腹が減ってくると寝袋の中に顔をつっこんできたり、寝袋をゆすってエサをねだるからだ。帯広畜産大では、寝袋の上に小便をしやがった。馬事公苑では馬房が狭いので、頬・頭・腹など毎晩踏まれた。全日本馬術大会の前は、田川監督や柴垣主将の御厚意で神戸大学に居候したのだが、ここでは一晩中、枕にされてしまった。

増田兄同様、馬場で鬼ごっこもした。北大では、馬場に放せるのは索き馬の帰りぐら이었다が、神戸大学では毎日放させて貰った。神戸大学のみなさんには本当に感謝している。北大での鬼ごっこは馴致の意味もあり、ドンはいつも追いかけて役。障害を跳びながら逃げると、ドンは同じように障害を跳んで追いかけてきた。場合によっては索き綱を使い、一一〇センチぐらいなら難無く跳んだ。

試合成績では名コンビとは言えなかったが、ドンは馬術部生活の総てであった。

野 中 道 夫

これまでの四年間で、六頭の馬の死に立ちあった。獣医で四頭、競馬場で一頭、そして：パール。

魂を奪われた彼らの肉体は、とても小さく見えた。あの腫の輝きは消え、伸びきった四肢は固く硬張っている。その体から、彼らがどんなに魅力的な動物だったか想像する事もできない。それは、あまりにもみすばらしく見えて、もはや単なる物体でしかなかった。その落差が哀しくてしかたなかった。彼らは二度と駆け回る事もないのだ。

「障碍を飛べない馬、飛ばない馬は馬術部には置いておけない。」
「能力の無い馬は肉にされる運命なのだ。」下級生の時、生まれてはじめて、そういう現実につかかって大きな衝撃を受けた。それまでは単に頭の中で「どんな動物でも生きる権利がある。」そう信じていた。けれど実際、自分が馬という動物を扱う世界に入ってみて、現実をもっと厳しいんだという事を知らされた。どちらが正しいのかわからなかった。誰も納得のいく答えは教えてくれなかった。「答え」などないのだから、どちらが正しいかなどという事は、意味のない事なのかもしれない。現実が現実。ほくりにできる事は、ひとつしかなかった。馬の能力を最大限に引き出してやる事。ケガをさせたり、故障させたりしない事。そのために、うまくなろうと思ったし、どうすれば馬が最も能力を発揮できるのか、どういう乗り方、どういう調教をしたらいいのか自分なりに学び、考えてきた。馬達を診る事も学んだ。四年間、心の底には自分が、かかわった馬達を死に追いやりたくない、そういう思いが常にあった。

その結果はどうだろう。ピーターは：パールは：。馬術部でやっ

た事も、獣医で学んだ事も結局は満足のいく結果を取められなかった。そして、そのしわよせは全て馬達へ。自らのだらしなさを、ひしひしと感じる。

これからも馬からは離れられないと思う。そして馬に關っていく以上、彼らの能力を、可能性を最大限ひきだしてやりたい。馬を救える獣医になりたい、ただ単に生命を救えるという意味でなく。安意に「能力がない」「障碍を飛べない」などと、きめつる事は誠に慎しみたい。少なくとも、どれだけ人間が彼らの可能性をつみとってしまっているか。死んでしまった彼らは二度と返らないが、その死に、ひとつひとつの意味があった事を信じて……。死というものが、どんなに不条理なものか、残酷で、悲惨なものか彼らの姿を臉に焼きつける。……………ぼくが馬の死に敢えて立ちあう理由。

四年間、ほとんど成長していないような気もする。あいかわらず感傷に流されて幼い事を言っている。そのくせ怠慢。ただ四年間で得た、すばらしい人達と、すばらしい馬達との出会いは、かけがえない宝物。これからも、よろしくお願いします。

名 越 正 泰

再々……試などで勉強をしなければならなくなった時、急にいろいろな事がやりたくなるものである。本も読みたいし、酒も飲みたい。そして馬に乗りたいし、曳馬に行きたい。そしてその思いはやがて「乗らねばならぬ、行かねばならぬ」という強力な意志に変化し実行する。試験が何だノコンニャロウノ 他の人には逃避だ、なんて言われそうだが、馬に乗ろうとする時に「勉強したい」と思

った事は一度もないので「まあ、いいんじゃないの。」と訳の分からん事を考え、一人納得して続けた四年間でした。

しかし、その四年間、特にギャランとの二年間でプラスされたものは、四年間で頭にプラスされなかった学問の知識よりも非常に大きい事は明白である。その証拠に、奇蹟の卒業、奇蹟の卒論、そして奇蹟の院合格という九回裏大逆転満塁ホームランを打つ事ができたのだ。『北皇子号に棒く』これは私のほとんど完璧に自己満足的に書いた卒業論文の冒頭に出てくる言葉である。

7 帝戦一日目。決勝に残ったのは、なんと、北大と東北。石井兄が一言、「お笑いだな。」

☆4月9日当番日誌より☆



〔卒部生〕 上段 町田兄
下段左より 世良兄，名越兄，佐藤姉，高須兄，野中兄



〔3年目〕 上段左より 平山兄，中川姉，国枝姉，森田兄，平石兄
下段 丹野兄



〔2年目〕 左より 山田兄，町田兄，小役丸姉，谷山兄



〔1年目〕 上段左より 田中兄，西村兄，中村兄，久光兄，高田姉，（ドン），佐多姉，（ガッチャン）
下段左より 陣川兄，真鍋姉，半田姉，福島姉

自己紹介・他己紹介

半澤道郎（六代部長）

従前の部報に度々自分のことを書きましたし、昨年の部報にも自己紹介をしましたので代わり映えがしませんが一筆します。戦時中の空白がありますが、昭和三年、当時の北大乗馬会入会以来現在まで馬歴五十六年を誇っています。その間、陸軍歩兵第二十五連隊の将校馬、全騎兵第七連隊の馬、北大農場にいた乗馬、第九回国体の貸与馬競技用馬、北大馬術部の自馬、札幌競馬場の乗馬、競技会で乗った貸与馬、馬事公苑で池内君（政人）や千葉君の馬、アバロンで乗せて貰った佐良直美さんの馬、アメリカで乗ったモルガン、英国のターランド乗馬学校の馬等々沢山のお世話になった馬達を懐かしく思い出しています。ドン、北将、オオカリヒメは現在の親友で私を喜んで迎えて呉れます。今後もよろしく。

☆ ☆ ☆

オオカリヒメが入厩して間もない頃、半沢先生は毎朝彼女に乗りいらしていました。ある日のこと私はオオカリに当って半沢先生に御指導いただいたのでした。練習後、先生は当時まだ真白だったオオカリヒメの体を拓銀のタオルで丁寧にふきながら、「まだハナがでるね」「太り気味だから、燕麦量はひかえるように」などと、たいへんに彼女を気づかせておいででした。さて、手いれが終わって彼女をパドックに放した後、先生は、「ヒメ！ヒメ！」と彼女を呼ぶと、ポケットから角砂糖をとりだして彼女にあげたのでした。その様子を私がじっと見ていると半沢先生はてれくさそうに笑って、「いや…ハナの薬ですよ」——あの時の少年の様にてれたよう

すが、忘れられません。オオカリヒメは幸せ者ですね。

ユーモアあふれる口調、優しい目、しかし、御指導してくれる時のぴんと張りつめた雰囲気を持つ半澤先生。私が、初めて、オオカリヒメに乗った時、一生懸命、「脚ノ脚ノ」と御指導してくれた半澤先生には、全然、御年を感じる事はできませんでした。

半澤先生とオオカリヒメは、相思相愛の仲で、本当に羨ましいです。私も、あのように馬と心を通せることができたいと思います。

最近、お体の調子が、あまりよろしくないようですが、一日も早く、元気な姿を馬場に見せて下さい。

小池寿男（部長）

大正十四年一月二十日、寒い信州の山村の次男として生まれました。父が馬好きであったので、生家には常に馬が飼われ、一時は馬の種付所も経営していた。しかし、子供の頃は病弱であったため馬に触れたり乗った記憶はない。いつのまにか、馬にも乗せられたようである。臨床獣医師となり、外科を専門とするようになってしまったようである。臨床獣医師として、種々の家畜の病気を見ているが最も好きな家畜はと聞かれると、馬ということになる。しかし乗馬は正式に教わったことはないし、戦後はもう三十年以上も乗ったことはない。乗馬せず、馬術もわからないのが馬術部の顧問教官とちょっとさまにならないが、馬の病気の相談役ぐらいは出来るつもりで今日まで引き受けている次第である。

☆ ☆ ☆

毎朝七時半過ぎ、黒枠眼鏡に黒の手さげカバン、灰色の背広にネクタイを締め、一見サラリーマン風の人物が馬場の前を獣医へ向かって歩いて行く。その人こそが獣医学部の外科の教授、小池先生です。我々は困った時の神頼み、ならぬ小池先生頼みで傷や病気の馬を診ていただいています。

はっきり言って一年目の我々には、小池先生とはクラブの部長であり、朝7時45分頃馬場の前を出動され、みんなの憧れ獣医の教授であることしかわからない。なんせ我々が小池先生と交わす言葉はたったの4つ「おはようございます」・「こんにちわ」・「しつれいします」・「はんこ押して下さい」、なのだから。だから今年こそは暇を見つけて我々に我々が夢でしかうけられない獣医の授業（つまり馬学講義）をして下さい、お願いします。

岡田 光夫（監督）

私が馬に乗つけられたのは小学校の一年の頃だった。その頃盛岡に住んでいて、親父が騎兵だったので朝夕乗馬で送り迎えがあった。とにかく毎日朝夕、馬のおいをかいで育った。馬に乗つけられて、馬がひとり八百屋の店先に鼻をつっこみ、店を荒し、あとでお袋が支払いに行ったのを覚えてる。盛岡から旭川に移った時は大きくもなっていたし、連隊も近かったので土曜日曜にはよく乗せてもらいに行った。その頃、半沢先生が旭川に合宿にみえていた話を北大に入ってから伺った。もう五十年前も前の話である。と言うことになると、五十年以上馬の背中に世話になった事になる。しかし一向

に上手にならない。馬乗りは一生の修業だと思っている。

☆ ☆ ☆
とっても元気で気さくな小父様という感じでした。気狂いのように寒い朝、「今日はあったかいシャツを下に着てきたから大丈夫。」と上着を脱めた部員に、胸をはって答えていらしたのをよく覚えています。部員は皆、厚い上着を着込んでちぢまっている中、本当にすごいなぁと驚きました。これからも元気で明るい監督が馬場へいらしてくださいの心を心から願っています。

僕は監督のまねができます。まず口をとがらせます。そして歯のあたりで発音するつもりでしゃべりましょう。あつという間にてるお監督です。次の言葉をコンパの芸にすればウルトラうけまぢがいなします。（語尾を叫ぶ様に言う効果的）

- 一、「はい北将ちゃんこっこ来なさい」 「ここで輪乗り」
- 二、「はい外方の手綱しっかりもって。」
- 三、「はい 巻きのり！」

佐藤 仁美 姉（四年目）

最後に未練がましく言うならば、やっぱりルーキーで、試合に出たかった。

明るいようで、暗くもあり、あっさりしているようで、ねちっこくもある。私って、やっぱり二重人格なのだろうか。と思いながらわりと平気な顔してるのは、やっぱりネアカの証拠!!

☆ ☆ ☆

最近はようやく、年令どおりに見えるようになった。というよりは、10歳は若く見える顔に、10歳はふけて見えるおばさんパーマの髪型のために、ちょうどその中間に見えるのかもしれない。

とにかく、この四年間、あるときは主役となり、またあるときは陰からクラブを支え、またまたあるときは、S兄の女房の見習いとして、激務の毎日を送っておりました。今後は、顔のでかいゴルフ狂のS兄とともに幸せに暮らして下さい。

姉を頭の中に描いて思いつく言葉……容姿端麗・勉強熱心・料理上手・女子の鏡・男子の憧れ・色違いの長ぐつ・ドンゴロス・ルーカー・岡田監督・S兄……………。

姉はあの暗い在札を明るく、楽しいものへと変えてくれた。在札の楽しみである夕食会での姉の料理は最高でした。今年からはそれが食べられないと思うと……………グスッ。

世良健司兄 (四年目)

知性という言葉とはあまり縁がない。しからばノと、あらゆるものにフィージングをもっていどむ。意外とフィージングでごまかせるものだ。「知性あらずんば感性で」の精神で進むしかない。と思うが、世の中それ程甘くないか？

「しろ」こと北将号に乗ってた兄。その騎乗フォームで下級生の目を魅了。敵しかったが的確な注意、たいへんためになりました。各種試合で、ショー介と大格闘を演じ、校内スポーツ大会でも大活

躍。さらにおみやげ争奪戦でも大活躍。そんな兄もこの春卒部。目出たく就職も決まり、目出たく「結婚」？するんですよねー世良さん！

力強く豪快にあの将介を乗りこなしていた兄も今年卒部、卒業そして札幌を離れるとか。

練習中工事中の白い安全ヘルメットを愛用している兄

ビール二、三杯ですぐ真赤になる兄

チョコレート大好きな兄

四年間本当に御苦労様でした。

高須哲男兄 (四年目)

最後は、やはり酒の事を……。入部した時、「酒が好きだ」と言ってきた。随分と飲まされてきた。焼酎の〇〇リットルのポリタンクから馬の血のついた点滴用チューブで注いだり、コンパが盛り上がったところで、北海道神宮まで往復一〇キロのランニングなど……。

失敗も多い。遠征の時、ビールケースを担いで各大学の宿舎を巡り、翌朝の集合時間には酔いつぶれていた。明け方まで飲んで、酔ったまま練習に出た時は、雪道の外乗で速歩をしながら眠ってしまい、気付いたら、とんでもない所にいた。

一番飲まされたのは、畜大主将の武笠兄からだ。しかし、飲みながら聞いた馬術の話は、北大のどの先輩よりも多い。「馬術は、飲めば飲むほど、うまくなる」今でも、下級生に飲ませる時には、兄

の言葉を借りている。

☆ ☆ ☆

その個性についていける人は極少ないという。いえ、実は誰もいないという噂です。形容し難いあのデイスコス Tepp、あの ALL JAPAN 以来、道行く人の注目を集めたワニの帽子、あの踏まれてもドンと一緒に寝るといふ意志、あの試合前日のテレビゲームに對する執念、それにあの何もかも忘れてしまう様な無邪気な笑顔、上げていけばきりがない特質の持主です。そうそう、あのプラモデル感覚で編み始めたマフラーはどうなったのでしょうか…。

「おいドンさん。そんなに急いだら次が飛べんやないかー」なんてドンさんとお話ししつつ今年も馬事公苑で大活躍して下さいました。高須兄と言えばあの「にっこり笑顔」とひょーきんなくさが思い出されるわけですが、私としましては、競技舞踏をかじったというあの身のこなしにするどいものを感じてしまうのです。

名 越 正 泰 兄 (四年目)

僕の馬のバイブルは、「おはよう白い馬」とこの「部報」だ。だから最後の部報に後輩が読んでためになるような事を書こうとして、あれこれ悩んで原稿が遅れるのだが、一年目はそのへんが良く分かっている。

☆ ☆ ☆

一月の二十三日になご兄の誕生パーティーがありました。何才になつたんだっけ…え？二十二才？でも笑った時のかわいい前歯は変

りませんねー。相変わらず聖子ちゃんに夢中のようだし。

二年間恋仲だったギャランくんは町田弟にとられてしまったし、そろそろ本物の彼女をさがしたらいいんじゃないですか？いつまでも井上兄と同居というのもさびしいですよ。

酒大好き児童です。飲みに行くと、時々「子供はおことわりだよ。」と追い帰されます。

酒以上に愛しているのがギャラン君です。この度は、ギャラン君に怪我が多くて、歯がゆい思いをされた事と思います。しかしそれにもかかわらず、二走・総合の両方に見事、出場されました。さすが名ご兄です。

野 中 道 夫 兄 (四年目)

落ち込んで誰かに助けを求めたくなる。けれど結局、自分の事は自分でけりをつけなくちゃならないのさ。そうつぶやいた夜があった。自分一人で生きてきたつもりが、ある時ふと、みんなの優しさが身にしみて胸がいっぱいになった夜もあった。ささいな事に一喜一憂して毎日が過ぎてゆく。

今、一番したい事。もう一度、走り出す事。仲間達と、馬達と。自ら描いた夢に向って、たとえ今は走る力がなくても、いつかきくと。

☆ ☆ ☆

現代風好青年と言った感じの兄です。思っている事がそのまま顔で出てしまいます。今時珍しい純情な人で、要領よくごまかして生

きて行く事など出来ないみたいです。そして信念が強いと言うか、頑固と言うか、一つの事を決めると脇目も向かずひたすら目標に向かって努力します。それは兄が獣医学部に在籍する事でも、昨年のピーターと共に活動してた事を見ても解ります。今はふけたふりをしている様ですが、又新たなものに向かって突進して下さい。

四年間御苦労様でした。一粒の麦……兄を見ていた後輩は必ず、その苦労に報いる活躍を示す事と思います。

馬とバイクと彼女をこよなく愛する兄。馬はピーターからあの大きな肉の塊の様な馬ハム・いやいや違った、セリカへと乗り変え、バイクはあの音が聞こえるだけで兄とわかるハスラーから来春には、ヤマハの中型へと乗り変え、彼女は……これだけは絶対乗り変わりはありませんが。

最近、一年目のJが同じ下宿に引越して来たため、一年目の溜り場と化した自分の部屋を、ピーターの写真でいっぱいにして満足しきっておられる様ですが、もう二年間は札幌にいるのだから練習にも出て来て下さい。

町田雅人兄 (四年目)

この半年近くは、完全にクラブから離れて楽な生活をしている。過去3度の冬では、ほぼ毎日その日の最低気温をじかに肌で感じてきただけに、今年の札幌の冬は非常に楽だった。しかし、最近、現役のときのような刺激がほしくなってきた。幸いにもあと2年学生生活を送れるようになった。これからの2年間をいかに楽しいもの

にするか、最近いろいろと悩んでいる。だれかよきアドバイザーをノ

☆ ☆ ☆

どうしてこの人は、言う事と、やる事が、こうも一致しないのだろう。言っている通りにやればいいものを、いつもイライラしながら、これが、彼の彼たる所以かと、変に悟ってみたいする。

図体のでっかさに反して、以外と繊細な神経をもってたりする、わけのわからん人物である。

のっしのっしとメガネをかけたブタ、いや町田兄が厩舎の中を悠然と歩いている。「パーカ、ー」いかにも人をバカにしたような声が聞こえてくる。また下級生が何か失敗をしたようだ。そんな兄だからこそ主務の仕事が平気でこなしていたのかもしれない。町田さん運動しなくなって最近さらに太ったのではないですか。大橋巨泉に似て来たとのウワサもありますよ。ミヨコも兄の体重から解放されてホッとしていることでしょう。

国枝由紀姉 (三年目)

鼻をめいっばいふくらませて、思いっきりフン／＼／と言ってるみたい……そんな気分のけふ比頃……、

NEVER GIVE UP! だね。

☆ ☆ ☆

校内で、「やあ、国枝ノ」と声をかけたが、「何よ、この人」という素振りです。すっと通り過ぎてしまった。キョロット姿で歩いていた私は、きっと彼女もプライドが高いのだろうと、その時は自分

が深く反省したものだ。しかし、後で聞くと超ど近眼とか。お願ひ、馬匹殿。目がねをかけて馬に乗ってくれ。ノエルの回り十メートル内は侵入禁物なり。

練習中はきびしいけれど、普段はチョコレートと梅ぼしが好きで優しい姉です。今年馬匹として全馬をがっちり守っていつて下さい。

嶋田明美姉 (三年目)

昨年十月の落馬事故以来、今二度目の入院中です。リハビリが終ったら退院できるかと思っていたのに、なかなか頭痛がひかず、まだ長びきそう……。もう少し待って下さい。

☆ ☆ ☆

昨年、秋、裂々風号から落馬し頸椎脱臼という大怪我を負った彼女は、長い入院生活を送りました。手術後の経過も良かったように予定より大分早く退院できたようです。これも、彼女の強い精神力と、鍛られた体力の為だ、と驚嘆しています。しかし何よりも驚いたのは、その忍耐力です。痛みを耐え、同じ姿勢のまま寝返りもしていないでじっとしていたり、それにもかかわらず僕らが行くと、笑顔で応対して、全く畏敬の念を覚えずにはいられません。彼女といっしょになった男は幸せでしょう。彼女はどんな困難をも乗り越えていくでしょう。

早くまた、元気になって、一層強くなった気力で頑張ってください。

え、嶋田姉の他己紹介を書くなんてしまっだなあ。

え、シャレなんて言ってないですよ。へたなシャレは言わなしゃれ。これが真のシャレですよ。ハハハ……。思わずかんこ鳥。

本題に移りますと嶋田姉は、ボンボンルーキーの罪を背負ってベッドの中でがんばっています。僕がお見舞にいったときに感じたのは、寝巻姿のSEXYなことではなくて、早く直ってまた馬に乗ろう、という気迫でした。さあ、姉の復活は近い。僕らもうかうかしてはいられませんぞ。

丹野宏昭兄 (三年目)

19XX年、世界は物質文明に行き詰まり、人間の内面からの改革が叫ばれ始めた。そして今、人類は打策の鍵をにぎる心理学を求めて超時空特殊文明転換機関Ⅱ行動科学科を創設し、世界救済のはてしない旅へ出発した。

さて、馬術も亦、心理学的側面をもっています。どういう刺激に對しどのような反応を示すか。それには、馬の認知力を知ることや学習理論、社会心理学等が利用できるでしょう。しかるに、その知識を得るのに有利な行動科学科にいながら、さっぱり利用していません。学校もさぼっています。怠惰から抜け出せない。——没。

☆ ☆ ☆

毎週土日の集合の時、「はい」と大きく片手をあげて

「今日モモセさん、できる人。」

と言ってらした兄も九月から主務となり、毎日細かな仕事をこなす

べく努力しておられます。

また夕方飼い付け間近に、兄がガキの顔をなでなでマッサージ（愛撫?!）している姿はまるで兄弟のようです。今年は勝負の年、ガキといっしょにがんばって下さい。

丹野が入部した時、上級生は「何だ、こいつは！」と驚いた。

丹野がコンパで芸をした時、部員全員がその奇怪さに驚いた。

丹野がいつものスタイル（首から汚れた手拭いをぶら下げて）で朝日新聞のアルバイトに現れた時、新聞記者も驚いた。

丹野が主務になった時、OBは「丹野ほどの大物が主務をやるのか」と驚いた。

丹野が見事に名主務になりきって、OBは再び驚いた。

今年、試合で、丹野は誰もが驚くデッカイことをやってくれるだろう。

中川 千夏子 姉 （三年目）

歩けないのに、一生懸命片足をひきずり、ひさしぶりに馬場に出られてうれしかったのかな。やけに痩せた腰が骨ばって、悲しく見えるのに、一緒にいるとそんな思いも消えてしまいうくらい明るかった。いつも厩舎の窓から、遠く何を見つめていたんだろうか。

おどおどしながら馬運車に乗って、不安な目でこっちを見た。あの目が忘れられない。パール、何もしてやれなくてごめん。

二度とパールのような馬をださないために……。自分がやれることって何だろう。一体何ができるのか。もっと強く、もっと大き

くなんなきゃなあ。

☆ ☆ ☆

入部当時の「明るく気さくな」イメージに、何時頃からか「努力家で文句たれ」のイメージを加え、その両立に余念無い姉。オオカリヒメで賞典頑張ってください。

姉は、流石に雪国育ちだけあって、強い。強敵だ。スペシウム光線は姉の必殺技です。卒部までにゼットンに出合わないように、いつまでもヒロインでいて下さい。

平石 哲生 兄 （三年目）

絶ゆまざる 歩み恐ろし かたつむり

好きな事書いていいと言われれば、迷わずこう書きますが、自己紹介に限られるとどうも……。これが自分の自己紹介であると胸を張って言えるよう頑張ります。

☆ ☆ ☆

主将の座に着き、いよいよあの鋭い目のひきしまる平石です。かつては上級生の背筋をぞっとさせたあの流し目も、今では厳しく下級生に注がれています。

あの鋭い目付き、細い体、はにかんだような内気そうな態度、それに例のかたつむり。とっつきにくい人間に思えますが、話してみると普通の人間です。

今年、人並はずれた力量で、北大を勝利へ導いてくれることで

しょう。なっ、平石。

飯より好きな学業を投げ捨て、その学業より好きな馬術に打ち込んでおられる兄、あのはにかみ笑いというか、含み笑いというか、変質者の笑いというか、例の笑みを目元に浮かべ、今年はまだ違った敵しさを感じます。

平山復志兄（三年目）

馬術部生活あと一年。

怠慢な自分を押えて、最後に何とか輝きたい。

☆ ☆ ☆

いつでもどこでも、マリの（唯一の）強い味方の平山兄です。マリの外観行きを要望する声が高まる中、どうにか移動せずにいるのは、まさに兄の力のおかげでしょう。あのどことなく眠そうな感じがしてしまふ目もととはうらはらに、作業隊長も務めながら、マリの調教に熱くなっています。中に炎を秘めている平山兄、今年是非、がんばってください。

彼は、昨年まで「ボケてる」とか、テレビ塔とか言われ続けて来た。しかし、その彼も、今年の名誉の作業隊長。今年は何かが違う、何が違う、何か違うのか？

森田敏兄（三年目）

空回りしていた前進氣勢を、ようやく衝で受けることができる様になってきました。探していた衝が見つかったのです。その衝は、素晴しくよく輝き、そして迷っていた自分を導いてくれました。僕は、この衝をどこまでも信じ、大事にかつ力強く受けていこうと思います。目標—全日学優勝

☆ ☆ ☆

グラス片手にタバコを吸いながら、実はほとんど知らない事を、深く知っているふりをして、むずかしそうな顔をして話ができる人—上級生ということをふっと忘れて、一年目と同等に話をして、菜しげにからかわれている人

時々ふっと暗い顔をして、たわいもないことでどどと落ち込んで一人苦しんでいる人

下級生に説教をした次の日に、当番をさぼれる人
いっしょに話をしている時、絶対にしらけたムードを作らない人
お金があると、ついみんなにおごってしまい、なくなってから一人で困っている人

困難な事にぶつかった時、いつの間にか器用になんとかしてしま
う人
これだけ勝手なことを書いてもおおらない人

「お前ら本気でやってんのかよ。」馬術の奥深さ、人生の敵しさを言葉敵しく説教してくださる兄は、魅力ある人です。プロパーという肩書きに恥じない飼料の役職を情熱を持って見事に果していらっしやいます。特に飼料給与、飼料管理における科学的検討、算術的分析には目を見張るものがあり、脱帽してしまいます。今年

は、熟年から老年に移りつつあるドン・ホッパーを率いて、全日学、全日本と大活躍してくれることを祈ります。

小役丸 千加子 姉 (二年目)

頼むくば、

When I find myself in times of
trouble and in my hour of darkness, Mother
Mary comes to me speaking words of
wisdom, let it be.

When the night is cloudy, there is a
still a LIGHT that shines on me Shine
until tomorrow "LET IT BE"

☆ ☆ ☆

丸子。走るの速くって、よく気がついて、何でも頼むとやってくれて、二年目の母で、二年目の男子に睨みをきかし、シビアな一言を浴びせる。料理が好きで、休む事を知らず、よく働く。猫と同棲中で、面倒見がよくって、お誕生日にプレゼントをくれた。ありがとう。工学部の機械科に籍を置き、日夜製図に苦しみ、男の中に埋れながらも女らしい。

常にどんな場所にも丸子あり。コンパあれば丸子あり。スポーツ大会あれば丸子あり。部室で自炊れば丸子あり。上級生になるにつれて、その存在に幅をきかず、丸子は丸子。

「飲ませ上手の小役丸姉」姉はコンパになると、一升瓶を自らの体の一部とし、所狭しと部屋を駆け回ります。一年目男子Hは姉によって何度狂乱した事でしょう。最近、一年目女子Sにその地位を脅かされていますが、頑張ってください。

姉は力持ちです。作業で、男子がもたもたしているのと、横からすっとやってきて、一人でさっさと作業し、不敵な笑みを残して去って行くのです。

しかし、姉程、所謂伝統的日本女性な方はいません。皆が、部室でうだる中、一人コーヒー、甘酒を作ってくれます。部員一同、感謝感激、私など感涙が頬を伝っています。

下村 仁 司 兄 (二年目)

あつという間に二年が過ぎてしまった。馬術は難しい。自分とは別個の生き物を扱うという点で他のスポーツにはない何かがあるようだ。残りの馬術部生活、あつという間に終わらないようにしたい。

☆ ☆ ☆

彼は遊びもせず、まじめに、一生懸命勉強して、獣医に行きました。そのまじめ好青年のことを少し紹介したいと思います。

彼はよく一人で映画に行きます。彼は勉強熱心なので、普通の人が行く映画には行きません。オンリー「日活〇〇〇」です。

彼は体育会の行事にも人一倍燃えています。それで夕日が終わるとすぐに体育館に行き、女子バスケや女子バレーの練習をみて研究しています。

彼は勉強家なので、たくさん本を持っています。僕達はそれらを

「下村文庫」と称しています。他人には決してみせません。こういうすばらしい人間は、近頃では珍しいと思います。

彼は、遊び人がそろった二年目の中で、ただ一人地道に勉強した結果、二年に一人という難関の獣医学部に移行しました。また、彼は、コンパでの大ヒット作品、剣道部からの盗作、SSKのメンバーの一人でもありました。もうSSKでの勇姿を見ることができないのは残念でなりません。今後は、自分の信じた道を着実に歩いてほしいと思います。

谷山 豊三郎 兄 (二年目)

みんなは私のことをくさってるといつも言いますが、それは正解です。私はまちがいでなく、くさっています。

☆ ☆ ☆

兄はギャルが好きです。とりわけ、テレビに出てくるギャルが大好きな様で、それはもう大変なものです。「あっ、ギャルだ！」と目に入るや否や、反射的に鼻の下はずべくとのびきり、口はぼかしくんと開いたままで、見る方が恥しくなります。いくら批難を浴びようと、いっこうに気にならない兄。信念をつらぬいてるのか、それともギャルしか見えないのか。しかし兄！一つ忘れてやしませんか？そうです、私たち馬術部のギャルをですよ！

昨年の歌謡界では、下町の玉三郎が気を吐いたが、馬術界のザルの豊三郎はコンパ係を引退して、やや大人らしくなったようだ。昨

秋北楽院を離脱し悔しい思いをしたと思う。がその悔しさを知っている人間は強くなると思う。だから堂々と、元氣よく、思い切り、ミヨと今シーズン頑張ってほしい。

町田 憲司 兄 (二年目)

去年は、私にとって最高の年でした。ラッキーとしか言えない程といっても、普段の行いがいいから当然の報いなのかもしれないが99%諦め、夢にまで見た学部移行が実現した。コラ、移行できなかった奴が笑うな。そしてまた、北皇子(ギャル)を手中に収めることができた。ギャルがGALだったら申し分ないのだが。

よし 今年こそ！

☆ ☆ ☆

え、町田兄の他己紹介を書くんですか、それは僕にマッチしてる。え、ジョークなんか言ってますよ。そんなのジョークン(常識)ですよ。ハハハハ…… 思わず流れ星—— ☆

本題に移りますと、町田兄は、ギャランを海坊主にしてしまいました。それが気に入っているのか兄も渥美二郎パーマになってしまいました。なんと気の会った人馬なのでしょう。これで今のシーズンは、いただきですね。

馬場では、ギャランにまたがり、外では、石狩に、スキーにと、白とも黒ともブルーともつかぬスカイラインを乗りまわし、そしてまた部屋にいれば、常に布団にくるまって寝ている。果して、学校には行っているのかしら？

山田和男兄（二年目）

「イ・マ・ニ・ミ・テ・イ・ロ・オ・レ・ダ・ッ・テ」

☆ ☆ ☆

彼は、とても、とても後輩思いなので、わざわざ留年までして、一年目の面倒をしています。決して面倒を見てもらってるなんて事はありません。あまりにも後輩思いなので、今のクラスメートと一緒に来年の一年目の面倒も見てやるという噂も飛びかっています。クラスメート共々、そろそろ未知なる学部生の道を一步踏み出してください。

また彼は、とても、とても動物好きで、犬係りを退いた今も、犬達の事をいつも、みてやっています。家には、手乗り文鳥の「ゴンゾウ」がいます。動物をかわいがっても、猫かわいがりしません。信じているのです。彼なら馬達をほんとうに愛し、彼等の可能性を、せいっぱい引き出してくれると。がんばれ!!

いっつも赤いズボンで、いっつも紺のフードつきジャンパー着て、そんなもってこれまたいっつも毛糸の帽子をかぶってて……そのいでたちで学校だろーが街だろーがどこでもかまわず行っちゃろ強い子……それが山田くんだね。眠たくなればどこでも寝ちゃうし。ついこの間、名越兄の誕生パーティの時もいつの間にかテーブルの下にもぐりこんで、二十と何本かの足の間に器用に手足をつっこんでしっかり眠っておりました。

今年はずり乗るんだって。あいつは病弱な馬だけど力はあらずだから……山田弟の持ち前の忍耐強さと優しさでがんばって欲しいもんだね。

佐多康子姉（一年目）

サブが替る度に好きな馬が増えてゆく、何とも単純で幸福な性格のこの私の願いは?! 誰かこの記録を破って下さい。

朝当回数最上位

鞍数最下位

☆ ☆ ☆

朝、気がつくくと彼女はいつもポロ出しをしていた。朝、気がつくくと彼女はいつも飼を作っていた。朝当に生きて三百日。朝当を生活の糧とし、クラブのみんなを影ながら助ける。その朝当歴は、三年目と肩を並べるほど。朝当をこよなく愛し、遠く女子寮から朝当をしにやって来る。通称サタ子。一見しっかりしているようなのに、彼女の口から洩れる言葉といえば「あーまたやっちゃった。」でも本当の本当は、しっかりしているんじゃないかな。犬係をされていて薬品補佐。かざらないやさしさを持った人です。

お正月は御苦労さま。おせちおいしかったよ。

私は、この他己紹介を書くのが恐い。彼女に私の名がばれてしまったら、私は第二のHになること間違い無しである。

彼女の恐しさは、形容できない。Hは物論の事、あの水産学部のU兄でさえ論破され、恐怖にうち震えるのである。すなわち、彼女の前で文句を言う事は、飼付けの最中のマリーナの馬房に飛び込む様なものか、否それ以上である。しかし、彼女もやはり女の子。目下ヘアスタイルを、何とサーファーにするという噂もちらほらと。その時は、思いっ切り笑いましょう。でも一年目の中で、最も信頼のおける人であることは誰も疑いません。

陣川 雅樹 兄 (一年目)

京の都から都落ちしてはるばる蝦夷地まで来てしまった。あまり物事を深く考えず安易に決めてしまうため、自転車と引き替えに馬術部に入ってみたり、部報の責任者になってみたり、でも動物が大好きだから他のクラブに入らなくて良かった。自称、タイムングループの大関です。(ちなみに横綱は……彼です。)

☆ ☆ ☆

一年目最年長の陣君。ぼさぼさの髪に、老眼鏡の様なド厚いメガネをかけておられる。背中はいつも丸く、下を見て歩いておられる。彼にもっと若い子ぶりっ子せよ、というのは無情であるうか。いやまだまだ二十歳。青年よ、もっと若くあれ！私も他人事ではないのだが。ついでに、馬術部員よ、もっと若くあれ！

真面目で、人なつっこくて、根っからの明るい性格のようです。東京遠征から帰って来た時、緑のフェルトのワニの帽子なんか被っていたので、気が触れたかと思いましたが、後で、彼は、非常に好奇心旺盛な人物なのだとすることに気が付き、納得しました。

高田 敏江 姉 (一年目)

どないにつらあても、こんなもんやと思うてしもうたら、別にどうちゅう事ない。……ほう思えるまでが長いけんとなあ。

☆ ☆ ☆

関西弁を話す唯一の女子部員です。何事にも無頓着な彼女も馬に

乗る時だけは真剣そのものです。私などはその変身ぶりに笑いを必死にこらえて教えたものです。馬から降りると花より団子の女の子、食べる事をいきがいにしています。色々クラブに話題を振りまきます。コンパになれば一人で酔って近くに上級生に絡み次の日になればすっかり忘れて飄々としています。なぜか彼女に思いを寄せた男が数名いる。(タブーかな)彼女の言動に一喜一憂してるそんなあわれな男供の事を知っているのか知らんのか気に止める事もなく懸命に乗り続けている。そうです、今は男なんかより馬に好かれる方が先決ですからな。

初めて見た時、OBの国枝さんの再来かと思ったら、何と女の子であった。そしてクラブに染まり汚れているのに、自分を指さして「ギャルノギャルノ」と皆に主張してまわっている。困ったもんである。しかし何事も徹底的にやるのはすばらしい。練習もそうであるが、特に人の三倍も四倍も食べる食欲には脱帽の思いである。さすが南国女。「部報、部報」とうるさくなかったらもっと良いのだが、と思うのは僕だけだろう。

東北戦では、悔しい思いをしたであろうが、その悔しさを忘れずにさらに頑張れ！

田中 保之 兄 (一年目)

誰もが一度、川の流れを変えてみたいと、若く燃えたあの日の唄が、どこかで聞こえて来る。

青春の田中です。

「この寒いのに今日はトレニングがある。トレナーなあ。」

今朝聞いた兄の超一流のギャグである。大ヒット作「あっしの足がないゾー。内臓がないゾー」をはじめ、数々のヒットを飛ばして来た兄は、ここに来て絶好調である。そしてまた兄は、早寝早起きの健康少年としても有名である。毎晩九時を過ぎると必ず部屋の明りは消えている。兄は、足デカおじさんとしても有名である。43の特注エクイアを履くのは兄ぐらいものだろう。

そんな兄の馬術に対する情熱は人一倍のものである。必ず二年後のエースとして、中央を蹴散らしてくれることだろう。

昭和四十年一月一日、初日の出と共に生まれ出たおめでたい彼は、幼い頃から異才を放っていました。三歳の時、既にひらがなをマスターし、小学校に上がる頃にはもう英英辞典でハナをかんでいました。中学の学校祭弁論大会では百メートルを十一秒一の記録で優勝し、高校の時はクイズタイムショックの小学生大会に出場して恥をかき、「豚の耳に小判」という諺を信じて猫に念仏を聞かせ、バイクがとてもし欲しかった時はのどから手を出して遊んだりしました。そんな彼も今は、両の足に黒いスネ当てとかかと付きスリッパを装着し、白い雪の上を黄色に変色したシロ君と這い回っています。

※ 注一 右の話には一部事実が混じっています。

私は、誰よりも部室を愛しています。あの殺伐した教養での、全くくだらない、既知となっている講義にはとんど出ていません。しかし、部室には浪漫が有ります。ここから馬場を眺め、小説を読み、物思いに耽ける。之が、青春に在らずして、何を青春と言えん！

N兄、Y兄、伝統は、私が継承致しますので、どうぞ御安心下さい。

☆ ☆ ☆

ちょっと間のぬけた調子で話す中村少年。そういえば入部した頃の頃、出席とってる時に、「すいません。遅れましたあゝ」と、着替えもせずに現れたことがあったっけ。笑いをこらえるのに苦労したっけ。

でも実は函館に去る上本兄の汽車を泣きながら追いかけたという熱血少年。これからもその熱いハートで、馬術に、各種大会に、コンパに燃えて下さい。

時代はさかのぼりますが「巨人の星」という名作がありました。主人公、星飛雄馬の子供の頃の顔。両頬にひかれたネズミのひげのような三本ジワ。彼の笑い顔を見るとあれを思いだす。彼のことはよくわからんが、とにかく難しいことをしゃべりたがる男である。そのわりには今だ実行力が伴わないような男でもある？奇怪なニヤゴヤ人とブッチャーだとわめきたてる不可解な男。シワに秘めたるど根性を期待してるぞ。

西村 幸裕 兄 (一年目)

コンパ係

9月に谷山兄よりコンパ係を引き継いでから、3ヶ月あまり。はじめは、谷山兄より「あれやったか、これやったか」と言われてはじめて気がつくことばかりであったが、最近はどうやく、自分でいゝろいと仕事に気づくようになった。とはいゝものゝ気がつくだけであって行動に移るのが遅く、コンパ代の徴収に四苦八苦するのみに、結局ためつつある状態である。自分がたて換えるため、非常にむかつくので、誰がいくらためているのかここで一発暴露してやれと思ったので暴露します。いや、めんどくさい、やめ。という口だけの、愛知私立滝高出身で、25組の総代も名前だけあって、4年間帰省できない、同じ代のS姉も夏冬帰らなかったのに平然としているのを見せつけられて、S姉にむかつて、へっ、どうせおれはフアザコン(↓マザコン)だ、いいんだいいんだ、といじけつつよしっ今日は死ぬと服を脱ぎすて、酔っ払う覚悟をする。さぼり魔で、いくつ目覚まし時計を買わねばならんのだらうと思わねばならない、ふるへ行ったので人間は月へ行った、ぶつぶつしゃべり、病院はやはり精神病院に限る。いやあ、ふれっぶ館のけえきは、ほんとにおいしいなあ。俺はスイトピーが好きだな。かぐわしい香りに加えあのひらひらの花びらと、うぶ毛の生えた茎。ぼくはスイトピーの似合う牝の人と結婚して、山羊座は好きな人ができるとすぐ結婚を考えるさびしがり屋だそう。そしてその人の髪にスイトピーをつけて、思わず叫びたい。「俺は全日学行くぞ。」口ばっかりになりそう。さらば。敬具。追神 冬はなまらしばれて道路もおるので、気を付けて下さい。

☆ ☆ ☆

岐阜の山奥出身の西村弟は近頃まれにみるまじめな若者です。自然農法を主張し、夏休みには個人的に農業実習にも行きました。農化の農業化学講座に入って、将来は農業を研究する立場から農業反対を呼びかけるのだそうです。…それにしてもその為には、まず学部移行をせねばなんないんだから…。授業さぼって遊んでばかりいちゃだめですよ。時には勉強もしないと…ね。ドッペったって成績は上がりませんゾ。

そうそう、でもクラブもがんばるんだよ。

兄はすばらしい芸の持ち主です。芸というより技と言った方がいいかもしれません。「知ってます？知ってます？…だれも知ってる訳ねえ。だれも知らんちゅうに。ハハハハハ。」で始まるのです。そして一人で話を展開し、一人でバカうけし、一人で笑いこぼるのです。そばにいる私たちは、そういう兄の姿に一種の感動を持って笑わされています。

半田 友子 姉 (一年目)

最近、食べるとあまり寒くないことに気づき、よく食べます。後が心配だけれど、風邪ひくよりは、と食べ続ける毎日です。どっぺろるか、とか、どうしたら上手く乗れるようになれるか、とか、悩みは尽きないけれど、自分に納得できる程上達したり、悩みがなくなるなんてことはないようだな、と思いはじめました。マイペースでがんばっていくつもりです。

☆ ☆ ☆

東京からやって来た一人の女の子が、今、スーパーガールに変身しようとしている。

柔道はするし、片足長靴、片足トレーニングシューズで神宮まで走るし、男の子も持てないような物をヒョイッと持ち上げるし……いやー馬術部って本当に恐い所ですネー。

高校時代ハンドボールで鍛えた肩の筋肉は、馬上では不幸な誤解を招いている。「半田ノ肩の力を抜くんだ！」しかし、彼女の肩は、もうそれ以上、下がらないのだった。

彼女と話していると、とまどう事が多々ある。口を少々開け、アゴを上げ、何かを訴えるような目で、ジッと、見つめられる。何だコイツ、俺に気でもあるのか。しかし、それは違った。彼女は、部屋で一人座っているときも、全く同じ表情をしていたのだった。そうか、眠かったのか。

この2つの誤解は、彼女が如何に一生懸命やっているかを物語っている。今後、益々頑張って、クラブに勉強にその成果を上げることを期待してます。

久光経司 兄 (一年目)

そしたらねえ、タコなのよ、タコ。タコが言うの。好きな人がいるんだって。どうにもなんないんだって。タコが泣くのよ。一流大卒出た、いいところのお嬢さんなんだってさ。いやあ、人間やってくもたいへんだけど、タコやってくもたいへんだねえ。

以上、自己紹介に変えたタコ紹介でした。

☆ ☆ ☆

どんな時でも笑顔を決やさず、用事はためらいもせず引受け、練習は休まず、コンパではわざと歌の音程を狂わせて皆を楽しませ身なりに全く構わず、逆境にあっても落胆する心配さえない。

「こいつは、見かけは食べ残しのワカメだが、それは世を忍ぶ飯の姿だ。内に秘めるものは、壮大なロマンに満ちた一筋の確固たる信念だろう。」こう私はにらんだ。

その後、彼の鞍数は下落した。装鞍には遅れて来る。ブラシをかけた跡にはポロが残っている。蹄油は塗り残す。「しまったノ私の洞察を感づかれてしまったか。」彼は今、変態としてのイメージを崩されぬよう、失態を演じるのにやっきになっている。

兄はとっても可愛い後輩です。それは容姿にも表れています。数日間、髭を剃らずに街を歩けば、もう立派な労働者です。誰も一丸歳には見てくれません。そして、例の歯ぐきを誇らしげに見せる微笑みをされると、僕は絶句してしまいます。

兄の可愛いらしさは、行動にも表れています。「花の文化」という役割に就き、写真撮影に精を出した翌日、「実はフィルムを入れるの、忘れてきたんです。」などと言う姿は、ブリッコそのもの。

しかし、馬術に賭ける意気込みは強く、昨年は留年と引き換えにドンと共に一ヶ月の遠征をしてくれました。彼が上級生になった時「大物 久光」の名は、その酒癖の悪さと共に全国に拡がることでしょう。(結局、けなしているのかな?)

福島 光 絵 姉 (一年目)

「大学でサークルか何かやってるの？」

「うん、まあね。」

「へーっ！何してるの？」

「え…まあ…ちょっと馬術を。」

「えーっ！馬術部?!じゃあ馬に乗ってるの？」

「まあね。」

「へーっ！馬がかわいそーっ。」

そーですね。馬もかわいそうですけどみんなの本当の幸せはいったいどこにあるんでしょうねっ！

☆ ☆ ☆

彼女の我が部への致来は仔っこの誕生日の日であった。赤いジャージのポケットに両手を突っ込み、ノエルの馬房の前にたたずんでいたのを覚えている。

めがねの奥から覗く眼がいつも輝いていて、箸が転がっても可笑しい明るい良い子のみつえちゃんは、馬術部員としては異例の自宅生である。夜遊びのしすぎで謹慎を受けたこと一回。雨の日も風の日も吹雪の日も、愛車『ばせった』で、信号無視の標識無視で、16条間を一直線にぶっとぼす。

高校時代に鍛えた美声で、今度のコンパでは『どらえもん音頭』でも歌って下さいな。

典型的現代風甘えっ子。でも例外や根性のある一面も見せる。あとそれに、ふっくらした体と少し顎の出た顔を付ければ出来上がり。

真鍋 直 子 姉 (一年目)

初乗りの日に飛び乗りができず、ピーターで競馬して馬場に帰ってきた。

どんないい年になるか恐いくらいだ。でもがんばるぞ!!

☆ ☆ ☆

とても笑顔の似合う、めんこい女の子です。彼女の笑い声を聞いたら、二度と忘れられないでしょう。それなのに、悩みが多いのか物事に対してまじめなのか、よく落ちこんだ顔をしています。お酒も、あまり好まないよう。「暗くなるから…」とか。そんなわけで、なんとかあの笑い声が聞きたくて四苦八苦しているのですぞ。

これから、しんどい事はたくさんあると思うけど、さあ笑って。馬には、楽しく乗らなくちゃ。いつもニコニコ元気な良い娘。

小柄な体で、ドラムを叩くそうです。今度は人馬一体、リズムミックに、障碍を飛越する姿を楽しみにしています。

都市の喧噪をルームミラーに写し出し、

アクセルを踏み続ける

たどり着いた海と大地は白いベールにつつまれ
星たちが冴えた冷気にふるえている。

カーステレオから流れる「トワイライト」

とっぷりしみわたる そんなある日のストーリー

真鍋ちえみホワイトウインターコンサート

道新ホール Ⅴ二三〇〇 84・1・21

上 本 浩 之 兄 (三年目水産学部)

今度は俺に何をしろと言うのだ/Qをつぶしたこの俺に……

函館にて

☆

☆

☆

みんなの愛をふりきって、ついに一人函館へ行ってしまった上本兄。兄のいない札幌は何か生彩を欠いたまま冬を迎えました。練習中は馬場中の空気がビリビリふるえるほどの迫力で私たちをしごき、馬からおりても納得ゆくまで私たちの疑問にこれえてくださいました。ふだんでも、よくいろんな話を私たちにしてくれて、馬術以外のことも兄におそわったことは数知れませんが。臨時収入があったといっってはうなぎ中割井を食べにつれていってくださったたり、何かといっってはよく飲みにつれていってくださったたり、ホントよい先輩です。そして作業後はいつも“何か買ってこい”と、私たちにボンとお財布をあずけたのでした。ホントに、ホントにすてきな先輩です。ねっみんな!

兄は、昨年の秋、皆の期待を見事に裏切り優秀な成績で、水産学部函館校へ移行した。氣力と力と技でQを乗りこなし、全日学出場まであと一步のところまでいったのは、我々の記憶に新しいことである。作業隊長の名の元に、部員を巧みに操るのは、兄の信頼される人柄のせい、か、人使いの荒さのせい、か、後々の激怒を恐れんが為か。シーズン中は馬運車の運ちゃんに大忙し、しかしタフな兄です。上本組三代目の雰囲気ですすきのを闊歩する兄に思わずやーさんが声をかける。

かつての鬼の作業隊長は、暗い函館のただっ広い下宿で、一人酒

を片手に何を思案していることやら。明るい札幌では兄の訪来を待っています。いつもの豪華みやげを持って……。

9月サービス期間

毎週 月、金、200円開放
火、木、洗剤無料サービス

☆営業時間

午前8:30～午後10:00
(年中無休)

「北大」通り

コインランドリー

北区北18条西5丁目日本通東向

FOR THE ACTIVE MAN AND THE MAN OF GOOD TASTE

VAN

・ J A C ・

札幌市中央区南1条西4丁目 繁田ビル1F TEL011-222-2802

自家製造(そば・うどん)各種丼物

まるあ食堂

馬術部が年中出前応援中

★是非一度御来店下さい。★

●道立石狩高校



石狩乗馬クラブ
小野 忠
石狩町花畔128 TEL0133-74-2345

← 別荘
茨戸病院 ●
三陸道
茨戸公園

(株)⑥いしかわ 747-7453 パンの店ペペ 737-6150
ロボちゃん寿し 717-7777 前田青果 726-7698

北18条市場

谷口惣菜店 746-8306 石井畜産 } 746-1129
板倉水産 737-5030 グロサリーいしい }

社会保険 国民健康保険 指定医
老人医療 生活保健 護法

庄内歯科

歯科医師 庄内貞夫

札幌市白石区本通2丁目北81号番37号 ☎861-2504

木材 建材 一般金物 塗料 建築金物

有限
会社

まるへい商事

札幌市北区北24条西5丁目☎731-5331~3

有限
会社

菅原写真商会

パスポート写真
カメラ・カラープリント
3分間写真
各種証明写真

北22条西4丁目☎716-2662



- スピードクリーニング
- お金1割引
- 集配、ジュータン、布団のクリーニングは TEL 813-2511へ

ほくたくのクリーニング

北店 札幌市北区北19条西5丁目 ☎747-9601

！免許取得は今がチャンス！

基本料金、その他経費、延長、補習料を含め年令別定額を実施中

●大学生協利用は格安・無料送迎バス運転中

公安委員会指定 技能試験免除

桑園自動車学校

札幌市中央区北8条西14丁目 ☎271-7511(代)

予約注文 受承ります。



まごころをこめて作りました。

作りたてのお弁当です。

ほっかほっか亭

北大前店 〒001 札幌市北区北14西4 TEL 737-5666

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎726-1526

11:30PM

☎716-2875

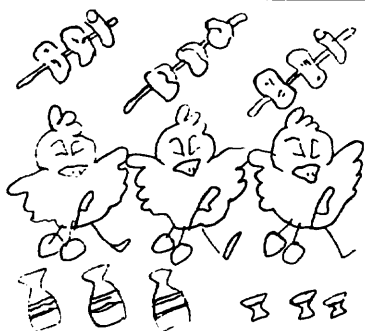
食品、酒類

つちの

ラーメン・焼魚・焼肉・定食、各種
出前迅速

平和食堂

北区北18条西5丁目 ☎716-2671

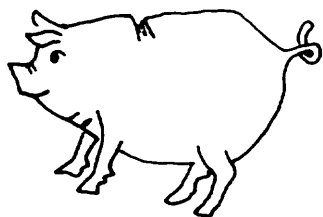


焼鳥 みねちゃん

札幌市北区北17条西4丁目
カネサビル1F TEL746-0717

ボリューム満点

味のとん子



とん子

北区北18条西5丁目 ☎747-5809



有限会社 東京稲毛屋

代表取締役 広山二郎

東京都渋谷区神宮前 6-11-4

☎03-400-5929

飼い桶・水のみ桶・荒物一式

柳 橋 商 店

札幌競馬場内

☎ (店) 011-747-7706

(自宅) 011-644-3021

日本中央競馬会外部団体

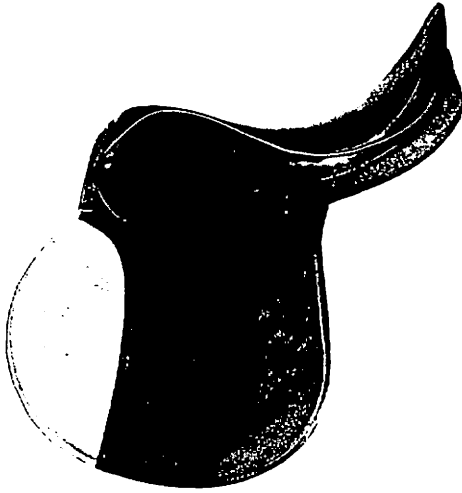
競馬飼糧株式会社札幌支店

札幌市西区手稲前田一条十一丁目

☎682-0311

国内産牧草及燕麦販売・輸入牧草類及
輸入燕麦販売外競走馬に関する飼料全般

国産馬具の開発と輸入乗馬用品はオリエントに



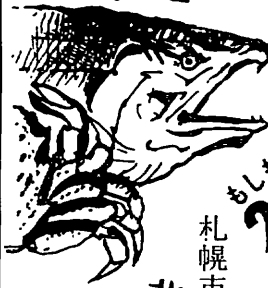
★★皮革総合メーカー★★

◎鞍の修理うけ承ります。



オリエント商事

本社 北海道歌志内市神威 2 6 4
〒073-03 ☎ (012542) (代)2152
工場 〒073-03 ☎ (012542) (代)2014
東京営業所 東京都台東区浅草橋 5-12-6
明治堂ビル〒111☎(03)代866-2131



もしも
241-2700
予算その他お気軽にどうぞ!!

札幌市中央区狸小路六丁目

北国の味のみやげ処

屯田舎

☎二二二一〇五二二

屯田舎

北国の郷土料理の店

大小ご宴会二〇〇名様まで。北国の海山の幸の郷土料理を存分にお召上り下さい。

・午後5時から
・午後11時まで
〈年中無休〉
心からお待ち申上げております。



とやうて下さい。

どろん

旭川乗馬倶楽部

所在地 旭川市花咲町5丁目 TEL51-1832

1) 入会申込

入会申込は当クラブ受付にて所定の
手続きを行ないます。

入会金 一般 **10,000円**

高校生以下 **5,000円**

会員月額一般 **8,000円**

高校生以下 **4,000円**

馬場使用料一般 **200円**

高校生以下 **100円**

2) ビジター料金

(1回の騎乗時間は30分とする)

一般ビジター **1,500円**

高校生以下 **700円**

3) 騎乗日時

イ) 平日・日曜・祭日とも午前9時より
午後5時まで

ロ) 毎週月曜日を休日とし、月曜日が
祝祭日に当たるときは騎乗を行ない
火曜日を休日とします。

大自然の価値ある休日

乗馬・テニス・ペンション

FRONTIER HOLIDAY RANCH

フロンティアホリデイランチ

〒061-33北海道厚田村しゅぶ165の3
☎ (0133) **66-3858**

太田装蹄所

☎782-6084

札幌市東区伏古10条1丁目15番15号

ジャンボカレー3割引券
売り出します。

自由人舎時館



OPEN・10:00→24:00・CLOSED
年中無休
ALL DAY OF THE YEAR
(お盆・お正月を除く)
SAPPORO N16W4
Tel (011)726-0158

産科・婦人科

田畑病院

院長 田畑武夫

札幌市中央区南五条西二丁目
☎五三一―七七七〇

ラーメン専門

味自慢

秀しゅう 鳳ほう

札幌市北区北20条西5丁目

☎726-6664

食料品・雑貨

山本商店

札幌市北区北十九条西七丁目
TEL七四六―六二八五

医薬品卸・IBM特約店



ホシ伊藤株式会社

代表 011-561-6111

本店 札幌市南8条西14丁目1397番地

支店 帯広・釧路・北見・函館・旭川・空知
室蘭・苫小牧・岩見沢・小樽・千歳

電動工具・アルミサッシ・流し台
暮しの日用品・家庭金物・大工道具
建築金物・燃料・暖房器具・合カギ

田宮金物店

札幌市北区北二十一条西四丁目
四一八七番
三三四九番
電話 (七四六)

学生の皆さん、販売、修理を割引
致して居りますからどうぞ。

高橋時計店

札幌市北区北十八条西四丁目南向
北十八条地下鉄駅前
TEL 七四七―七八四六

ラーメンなら

北龍

北18条西6丁目
☎747-11376

手造りのパン
洋菓子

有限会社

ジュウジ屋

札幌市北区北17条西4丁目
電話746-5332

作りたてのお弁当



ほっかほっか
大吉亭

オープンキッチン

札幌市北区北20条西5丁目

この
ボリューム
この安さ

北大生なら

一度は

ジャンボメニューを
食べるべし

お食事処

けんちゃん

北区北18西3 ☎726-0346

害虫・ネズミのいない住みよい生活と
木造家屋を食いあらすおそろしいシロアリ・
ナミダタケを防ぎ安心した生活を!!

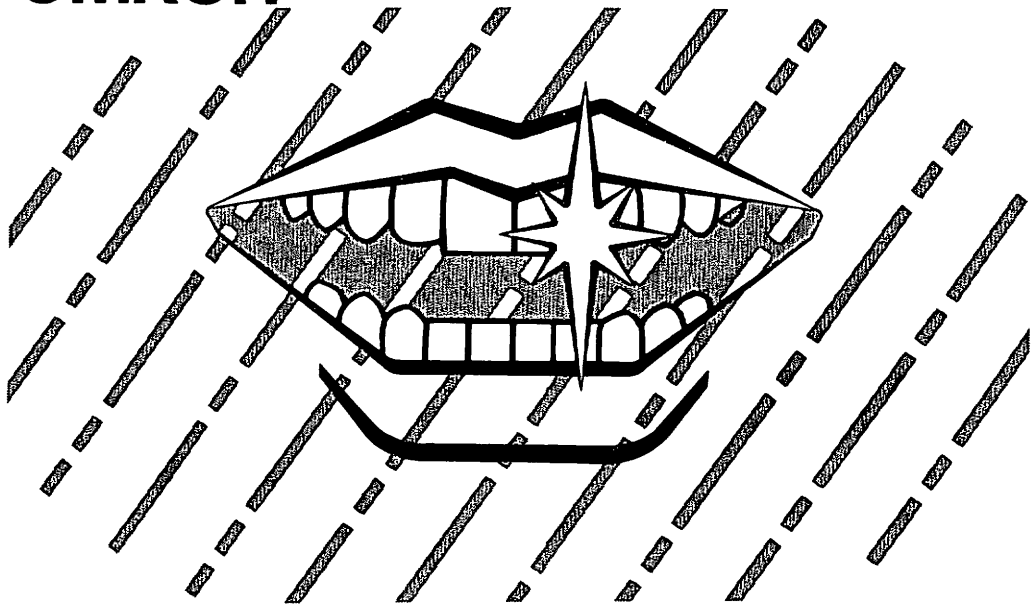
北海道知事登録 第2号
日本しろあり対策協会所属
日本P・C・O協会所属

株式会社 アイピー

札幌市中央区南17条西16丁目
☎561-9350

◎害虫・害菌の予防と駆除のデパート

OMRON



「歯」キラキラ

試合後あびるシャワーは、爽快感そのものです。ベタつく汗や疲れを、サッと洗い流してくれる。

オムロンのエレデントとエレピックは、歯にあたるシャワーのようなもの。

口の歯のヨゴレを落として、シェイプアップした清潔な歯を保ってくれます。歯、いつもキラキラ。

簡単にきれいに磨く1分間1,800ローリング

歯にブラシをあててスイッチ・オンノひとりでにブラシが動き、歯医者さんがおすすめの正しい磨き方ができます

- 手で磨くより約8倍の速さで磨けるローリング式
- 乾電池のいらぬ経済的な充電式のため、いつまでも磨き力が適切
- 口の中で小回りのさく小型ブラシによる高い磨き効果
- 着脱式の充電スタンド

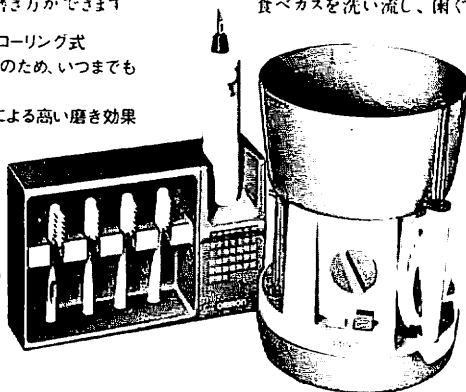
オムロン 電動歯ブラシ

エレデント

HT-B12 ¥6,480

歯ブラシ4本つき

※スベアの歯ブラシ別売 4本セット ¥400



歯と歯ぐきの健康を守るジェット水流

歯ブラシではゆきとどかない歯と歯の間、歯ぐきの間に残った食べカスを洗い流し、歯ぐきの健康に良い刺激を与えます

- ジェット水流が食べカスを洗い流し、口臭も排除
- 水流はダイヤルをまわすだけで、ゆるくも、強くも調整可能
- お子さまからお年寄りまで、簡単に使える機能性

オムロン 口腔洗浄器

エレピック

HT-J12 ¥14,500

ノズルチップ74本つき

※スベアのノズルチップ別売 1本 ¥200

立石電機株式会社 健康医療機器事業部 〒105 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル TEL 03(436)7092



土 木 ・ 建 築 ・ 設 計 施 行
造 園 ・ 塗 装 ・ 設 計 施 行

道協建設株式会社

代表取締役 美馬 憲二

札幌市中央区北16条西16丁目
札幌競馬場中央通用門前

電話 716-6455
726-6756・6752



六興電気株式会社

札幌営業所 札幌市中央区北3条東5丁目5 岩佐ビル 011(221)8972
石狩出張所 石狩郡石狩町花川南7条4丁目389 0133(73)1711
苫小牧出張所 苫小牧市新中野町3-19-6 0144(32)2581

所長 山口 幸 男

《営業種目》

1. 電気設備工事の設計施工

発電所・変電所設備工事
地中線・架空送配電線路工事
電灯・電力・電熱設備工事
工場機器自動化の計装工事
特殊（耐爆・耐酸）電気設備工事

1. 管工事の設計施工

給排水・衛生設備工事
冷暖房・空気調和・換気設備工事

1. 電気通信工事の設計施工

1. 消防施設工事の設計施工

1. 前各号に付帯する一切の業務

本 社 東京都港区芝5丁目26-30 専売ビル 03(452)5311
支 店 大阪・名古屋・神戸・多摩・横浜・千葉・新潟・仙台
九州・四国・静岡
営業所 札幌・中国・長野・京都・青森・岩手・山形・北関東・浜松
出張所 石狩・苫小牧・高松・岐阜・金沢・甲府・宇都宮・水戸・埼玉
太田・春日井・津・堺・奈良・和歌山・田辺・尼崎・松江・山口
北九州・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄

ボリューム満点・コンパ150人OK!



やきとり **きよた**

☎746-0101・747-7000



シートベルトは命綱

入・学・随・時・受・付・中

技能試験免除の北海道公安委員会指定

麻生自動車学校

〒001 札幌市北区北36条西5丁目

●地下鉄麻生駅・北34条駅下車徒歩5分

☎726-5251(代)

このたび、昭和58年度北大馬術部部報発行に
際し絶大なる御援助をいただきました諸社・
諸店に対し、厚く御礼申し上げますとともに諸
社・諸店の御繁栄を祈り、ここに深く感謝致
します。

(北大馬術部)

《広告主へ感謝のことば》



北大前店

☎737-6167

北区北14条西4丁目

編集後記

予定を大幅に遅れながらやっと第29号部報を発行するのはこびと
りました。この部報発行のために御協力頂きました半沢先生、岡田
監督、小池部長始め先登諸氏、並びに忙しい中、頭を悩ましながら
も時間をかけ原稿を仕上げた下さった現役部員諸兄姉に深く感謝す
ると共に発行の遅れました事を深くお詫びいたします。また再三に
わたる原稿請求をも最後まで見事にはねのけられた名越兄の調教報
告、町田兄の卒部にあたっては、両兄と相談の結果、原稿を割愛さ
せて頂くという事になりましたので、何卒、御了承下さい。

内容につきましては、例年とほとんど変わりはありません。色々
新しい試みを企画してみましたのですけれど、私どもの怠慢と予算の都
合上頁数を減らすという方針を取った事によりとりやめとなった事
は、今になって残念に思われます。

この度、名越兄から電話を頂き、念願の部の電話がとりつけられ
ました。今までとは違い、夜間でも直接部の方に通じますので、御
用の際には是非とも御利用下さい。なお電話番号は、

737-1626

(ちなみに、なんとみんな一浪二浪)

この校正に失敗のない事を願って、お・わ・っ・た・ノ

部報 第二十九号

編集責任者 陣川・高田
編集委員 一年目全員
表紙カッター 世良 健司

昭和五十九年九月 発行

発行者 北海道大学 馬術部

札幌市北区北十七条西七丁目

北大体育会

☎(〇二)七六―二二一 内線五五七九

クラブ☎(〇二)七三―一六六

編集者 部報編集委員会

印刷所 北大生協 北大印刷

